令和4年度 事業報告書



社会福祉法人 愛泉会

目次

Ι	全体総括 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
\mathbb{I}	法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	Ⅱ一1 法人運営状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	Ⅱ─2 総務課 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
	Ⅱ一3 会議 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	Ⅱ―4 苦情の状況、解決状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	Ⅱ一5 職員の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
	Ⅱ一6 決算報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
Ш	創造企画部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	Ⅲ―1 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら ・・・・・・・・	24
	Ⅲ一2 権利擁護・意思決定支援委員会 ・・・・・・・・・・・・・・	26
	Ⅲ一3 リスク検討委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	Ⅲ一4 政策委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
	Ⅲ一5 支援力向上委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
	Ⅲ一6 衛生委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
	Ⅲ一7 障がい者芸術活動推進委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
	Ⅲ一8 研修委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
	Ⅲ一9 広報委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
	Ⅲ一10 実習生受け入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
IV	事業の部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	Ⅳ—1-① 障害者支援施設向陽園(入所施設支援) ・・・・・・・・・・	37
	Ⅳ—1-② 障害者支援施設向陽園(生活介護) •••••••••••••••	41
	Ⅳ-1-③ 障害者支援施設向陽園(障がい者乗馬) ・・・・・・・・・・	44
	Ⅳ―2 向陽園ショートステイサービス ・・・・・・・・・・・・・・	45
	Ⅳ―3 グループホーム支援センター向陽園 ・・・・・・・・・・・・・	48
	Ⅳ-4 エコファームもとさわ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
	Ⅳ-5 デイサポートさくら ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	53
	Ⅳ―6 デイサポートたんぽぽ工房 ・・・・・・・・・・・・・・・	56
	Ⅳ―7 グループホーム支援センター心音 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
	Ⅳ―8 ショートステイサービス心音 ・・・・・・・・・・・・・・・・	65
	Ⅳ―9 児童デイサービス月のひかり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67

	10-10	ジョートステイサーヒス月のひかり ・・・・・・・・・・ / 1
	Ⅳ —1 1	向陽園ホームヘルプステーション心音・・・・・・・・・ 75
	№ -12	グループホーム支援センターみらい ・・・・・・・・・ 77
	№ —13	あすなろショートステイ ・・・・・・・・・・・ 81
	№—14	デイサポートちとせんぼ ・・・・・・・・・・・・・ 84
	№—15	デイサポートにじいろ ・・・・・・・・・・・・・・ 87
	№—16	向陽園地域生活支援センター心音・・・・・・・・・・ 90
	Ⅳ -17	居宅介護支援事業所心音・・・・・・・・・・・・・ 91
	W—18	地域生活支援センター天花 ・・・・・・・・・・ 93
	W-19	デイサポート天花 ・・・・・・・・・・・・・・・ 96
	W-20	グループホーム支援センター天花・・・・・・・・・・ 98
	№—21	ぶどうの木ショートステイサービス ・・・・・・・・・101
	W-22	地域活動支援センター天花 ・・・・・・・・・・・・103
	W-23	多機能型事業所なかやま虹の丘 ・・・・・・・・・・106
	№ -24	グループホーム支援センターなかやま ・・・・・・・・・108
	№ -25	ショートステイサービスゆるっとなかやま ・・・・・・・112
T	余 孝咨判 。	

I. 全体総括

報告者:井上 博

令和5年度国においては国際的な権利条約締結後初めての対日審査が行われ、また障害者総合支援法の3年後の見直しが社会保障審議会障害者部会を中心に実施された。「地域共生社会の実現」と「意思決定支援」という理念が確立している一方で現実は知的障害のある利用者の厳しい実態がある。当法人は理念を実現するため東南村山圏域において多様な事業の実施や多くの関係者やスタッフの働きの結果一定の成果を上げることができた1年であったと考える。

1. 新型コロナウイルス対応

長期にわたるコロナ禍の影響により面会・外出含め制限の多い生活が続いている。8月には法人内 事業所で集団感染が発生している。年度後半から徐々に緩和の傾向にあり感染類型も変更となるが 知的障害の障害特性から感染予防が難しく今後とも細心の注意をはらいながら、利用者の暮らしの 質の向上や対人交流、社会参加を進めていきたい。

2. 事故対応 リスク管理

一昨年度発生した離接事故 4月の誤嚥による死亡事故が発生し2人の尊い命が失われた。 リスク検討委員会や事業所の運営に当たってはリスクの共有、事故発生の未然防止につとめている が現場からは様々な事故報告等がある。一層留意しながらICTの活用を含め多角的な視点から防 止策を検討したい。

3. 第三者評価の導入とサービスの質の向上

今年度創造企画部を中心に検討され各事業所において第三者評価が実施された。今後とも外部の 専門家や地域住民の参加を推進することでより地域に開かれた事業所をめざし権利擁護やサービス の質の向上に努めたい。

4. 地域との交流、地域貢献

中山町に2つ目のグループホーム「サニーハウス」が開設し利用者の地域生活の拡大につながった。地域への貢献として各市町村の自立支援協議会への参加や中山町での住民を含めた調査の実施や「やまがたアートサポートセンターららら」の活動、知的障害者福祉協会の活動を通しての国 県市町村との提言・協議を行った。今後とも地域に貢献する法人でありたい。

5. 人材の確保と専門性の向上

法人全体では常勤非常勤含め 270 名を越える構成となっており一層体系化された研修が求められている。専門性の向上をねらいとして現場での実践を土台とした各種委員会を開催し、年度末には法人としての実践研究発表を行った。資格取得の推進と保育士手当の支給等を行い新採職員の研修の充実につとめた。職員の定着を向上するために各種休暇制度の見直しや I C T 化の活用を行った。

次年度への課題

- 1. 個別支援計画 意思決定支援の充実
- 2. 体系的な研修の実施 多様な職種のスタッフへの基本理念やソーシャルワークの理念価値の徹底。
- 3. 児童分野のサービスの充実
- 4. 資金の確保と安定した経営

Ⅱ. 法人本部

報告者:豊田 裕一

法人のICTを推進するため、今年度より本部にICT担当職員を配置し、各事業所においてもICT推進担当者を選任した。足がかりとして、勤怠システム運用、法人全体のクラウド構築及び給与明細書の電子化を目標とし、事業所長や事務担当者への説明会の実施、ICT推進担当者会議による検討や全職員への啓発チラシの配布により取り組みの共有化を図っている。いずれも今年度の導入と運用開始を目指したが、コロナ禍により計画が遅れ遅れとなってしまい本格稼働できなかったことは反省としながら、ICT推進担当者会議等により、法人内でICTに関する取り組みの共有の全体化が図られたことは大きな成果となった。次年度以降も、運用ルールの構築とセキュリティの充実、メンテナンスやエラーに係るシステム管理等についても検討しながら、事務的業務改善のみに止まらず利用者支援への活用等、様々な可能性についての検討を重ねながら、職員全員に行き渡るよう丁寧な取り組みを目指したい。

新型コロナウイルス感染症については、8月に3つの事業所でクラスターが発生した後も各事業所で断続的に陽性者が発生し、居住系事業所においてはレッドゾーン内での業務、ほとんどの日中系事業所や短期入所事業所においては事業所の休止や縮小営業を余儀なくされた。本部については、BCPに基づき、事業所への衛生用品等の物資調達や配達、現場への応援職員の派遣やグループホームへの弁当配達、帰宅困難職員のための宿泊所の確保等を行っている。また、今回、汚染区域で業務に従事することの困難さを踏まえ、従事した職員に特殊勤務手当を支給した。レッドゾーンでの業務による心理的負担の軽減を図るため、山形県が実施する「令和4年度新型コロナウイルス感染症に関する心のケアのための専門家派遣事業」を活用し、汚染区域で業務に従事した職員に対する個別カウンセリングやメンタルへルス研修会を実施した。また、折に触れ、日常生活における感染予防のための行動の協力依頼や注意喚起を行っている。類型が変更され、社会的に行動制限等が緩和されても福祉事業所には引き続き感染対策が求められることから基本的感染防止対策を継続していきたい。

職員の待遇改善として、ベースアップ加算を財源にした特例処遇改善手当を 1 人 6,500 円を上限として4月より支給した。10 月からは、資格手当の支給対象資格として「公認心理師」を加えるとともに、相談事業所において勤務時間外の相談に備え待機した職員に対して1回あたり500 円のオンコール手当を支給した。令和5年4月からは、新たに保育士資格も支給対象に加え保有者の待遇改善を図っている。パート職員については、10 月より山形県最低賃金の改定により時給単価の改定を行っている。

改正育児介護休業法の施行に合わせ、育児介護休業規程を改正し、概要を図解化した通知を作成し制度の理解に努めたところ、対象職員の育児休業取得率は100%となっている。次年度においても、ノー残

業デイの設定や職員の所定外労働時間制限の拡大等、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を実施し、「子育てサポート企業」認定を目指す等、子育てを支援し仕事と両立できる職場づくりに努めたい。

中山町のグループホームサニーハウス新設、重度障害者支援加算の取得により増収を目指した障害福祉サービス事業費収入については、新型コロナウイルス感染症による事業所の休止や縮小、利用控えの影響で大幅な減収となった。加えて、欠員不補充や加算の取得漏れにより、当初目標予算の 4.7%減、金額にして 57,582 千円の減収となった。支出については、昨年度に比べ人件費支出や水道光熱費支出が増加したが、修繕計画の見直し等経費の削減に努めた。結果、事業活動収支差額は 7,698 千円のプラス収支とはなったが、当期資金収支差額については、30,439 千円のマイナス収支となり資金繰りに大変苦慮した。改めて予算積算と執行に係るルールの策定、欠員のある事業所や稼働率に課題のある事業所の充足に向けたスケジュールの設定及び施設設備等の修繕資金や有事へ対応するための積立金の設定等を今後の課題としたい。

≪Ⅱ-1 法人運営状況≫

1. 役員構成

· , 10,50,107,70			
理事	理事長 井上博		
	森谷 博美、都築	光一、加利屋裕子、村上	実、八柳 律子、庄司 泰夫
評議員	山口 康二、榊	從子、遠藤 正明、大風	亨、奥山 優佳、小野 隆一
	伊藤 順哉、伊藤	和雄	
監事	武田 庄司、倉田	吉典	

評議員選任解任 黒沼 祐蔵、工藤 恭子、佐藤 和則 委員会

2. 評議員会開催状況

月日	議題
①日時 令和4年6月23日	報 告 令和3年度社会福祉法人愛泉会事業報告及び付属明細書
(木) 午後6時30分から午後	の報告について
7 時 45 分	議第1号 令和3年度社会福祉法人愛泉会貸借対照表、収支計算
②場所 愛泉会事務局会議室	書、貸借対照表及び収支計算書の付属明細書、及び財産目
③定数 評議員 8名(現員	録の承認について
8名)	報告事項
出席評議員 5名	
欠席評議員 3名	
監事 2名(現員 2名)	
出席監事 1名	

欠席監事 1名		
④説明のために出席した職員		
6名		
①日時 令和4年 11 月 17 日	報 告	令和4年度社会福祉法人愛泉会前期事業報告について
(木)午後6時30分から午後		令和4年度社会福祉法人愛泉会前期収支状況等報告に
7時30分		ついて
②場所 愛泉会事務局会議室	その他	
③定数 評議員 8名(現員		
8名)		
出席評議員 5名		
欠席評議員 3名		
監事 2名(現員 2名)		
出席監事 1名		
欠席監事 1名		
④説明のために出席した職員		
6名		
①日時 令和5年3月27日	議第1号	社会福祉法人愛泉会定款の一部を改正する定款の制定
(月)午後6時30分から午後		について
8時00分	報告事項	社会福祉法人愛泉会令和5年度事業計画について
②場所 愛泉会事務局会議室	その他	
③定数 評議員 8名(現員		
8名)		
出席評議員 7名		
欠席評議員 1名		
監事 2名(現員 2名)		
出席監事 2名		
④説明のために出席した職員		
6名		

3, 理事会開催状況

月日	議題
①日時 令和4年6月3日	議第1号 令和3年度社会福祉法人愛泉会事業報告及び事業報告の
(金) 午前 10 時 00 分から	附属明細書の承認について
午前 11 時 30 分	議第2号 令和3年度社会福祉法人愛泉会貸借対照表、収支計算書
②場所 愛泉会事務局会議	貸借対照表及び収支計算書の付属明細書、及び財産目録の
室	承認について
③定数 理事 7名(現員	議第3号 令和4年度社会福祉法人愛泉会 1 次補正収支予算の承認

7名)		について
出席理事 7名	議第4号	社会福祉法人愛泉会経理規程の一部を改正する規程の制
監事 2名(現員 2名)		定について
出席監事 2名	議第5号	令和4年度定時評議員会の招集について
4説明のために出席した職	報告	
員	報告事項	
2名	その他	
①日時 令和4年 10月 21	報 告	令和4年度前期職務状況報告
日(金)午後1時30分から	議第1号	令和4年度第2次補正収支予算の承認について
午後2時50分	議第2号	社会福祉法人愛泉会給与規程の一部を改正する規程の制
②場所 愛泉会事務局会議		定について
室	議題3号	社会福祉法人愛泉会育児・介護休業規程の一部を改正す
③定数 理事 7名(現員		る規程の制定について
7名)	議題4号	令和4年度計上資金借入限度額等の設定について
出席理事 6名	議題5号	令和4年度臨時評議員会の招集について
欠席理事 1名	報告事項	
監事 2名(現員 2名)	その他	
出席監事 2名		
4説明のために出席した職		
員		
2名		
①日時 令和5年2月16日	議第1号	令和5年度社会福祉法人愛泉会事業方針及び組織体制
(木)午後1時30分から午		について
後2時50分	議第2号	グループホーム雨宿館の購入について
②場所 愛泉会事務局会議	議題3号	グループホーム雨宿館購入費用の借り入れについて
室	報告事項	
③定数 理事 7名(現員	その他	
7名)		
出席理事 7名		
監事 2名(現員 2名)		
出席監事 2名		
④ 説明のために出席した職 _		
員		
2名		
①日時 令和5年3月15日	報告	令和 4 年度社会福祉法人愛泉会理事長職務執行状況報告
(木)午後1時30分から午	議第1号	令和4年度第3次補正収支予算の承認について
後3時50分	議題2号	社会福祉法人愛泉会令和5年度事業計画の承認について

②場所 愛泉会事務局会議	議第3号 社会福祉法人愛泉会令和5年度当初予算の承認について
室	議第4号 社会福祉法人愛泉会定款の一部を改正する定款の制定に
③定数 理事 7名(現員	ついて
7名)	議第5号 社会福祉法人愛泉会就業規則の一部を変更する規則の制
出席理事 7名	定について
監事 2名(現員 2名)	議第6号 社会福祉法人愛泉会給与規程の一部を改正する規程の制
出席監事 2名	定について
④説明のために出席した職	議第7号 社会福祉法人愛泉会職務制度等級資格制度規程の一部を
員	改正する規程の制定について
2名	議第8号 指定障害者支援施設向陽園運営規程等の一部を改正する
	規程の制定について
	議第9号 障害者支援施設向陽園食事サービス提供業務委託契約の
	締結について
	議第 10 号 役員賠償責任保険契約の締結について
	議第11号 事業所長の選任について
	議第 12 号 令和 4 年度臨時評議員会の招集について
	報告事項
	その他

4, 監查·指導監查·実地指導

·, <u></u> :, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·, ·,			
月日	実施者	監査・実地指導項目	
5月23日	武田庄司監事、	法人定款第22条の規程に基づき、令和3年度事業に	
	倉田吉典監事	係る理事の業務執行及び法人の財産状況。	
9月8日	村山総合支庁保健福祉	ショートステイサービスゆるっとなかやま	
	環境部	グループホーム支援センターなかやま	
		・人員、施設及び設備並びに運営全般	
		・介護給付費、訓練棟給付費、障害児通所・入所給付費	
		等の請求関係	

≪Ⅱ-2 総務課≫

報告者:豊田 裕一

1, 当初目標

- ①安定した経営基盤、より強固な組織体制、適切な業務執行体制を構築するために、 定期的に評議員会、理事会等が開催されるよう調整を行なう。
- ②関係法令等を遵守した事業所運営がなされるよう諸規程等を整備するとともに、事務事

業実施の手順の共有や統一化、法人及び事業所内における意思伝達の徹底を図り 規律ある組織作りを目指す。

- ③安定した法人経営のため、各事業所の収支状況を把握し、分析を行ないながら財務体質の強化を 図る。
- ④法人全体のクラウドによるインターネット環境の整備、勤怠システムの導入、給与明細の電子化 及び書類の電子化等、ICT化の推進により業務の効率化、省力化及び経費の削減を図る。
- ⑤ 職員が安全かつ安心に就業できるよう適切な労務管理の実施と職場環境の整備 を行う。

2, 実施状況

①法人運営管理

- ・評議員会について、6月の定時評議員会では、令和3年度事業報告において10月に発生した 離設事故のその後の対応に関する質疑応答や服薬等に関するヒヤリハット事案の未然防止策の 助言等が行われている。11月に開催された臨時評議員会では前期の事業報告と収支状況の報告 がなされた。3月の臨時評議員会においては、これまで賃貸物件であった中山町のグループホ ーム雨宿館購入による基本財産の増加等に伴う定款の一部改正の承認と令和5年度事業計画の 報告が行われた。
- ・理事会については、2回の通常理事会と4回の臨時理事会を開催し、公的保険制度の活用により公傷病や私傷病に係る特別休暇を無給とするための就業規則の改正、職員の待遇改善を図るため、相談事業所に勤務し相談等に備え時間外も待機する職員へのオンコール手当の新設や資格手当支給対象資格拡大のための給与規程の改正等が審議され承認された。また、令和5年度より夏期営業時間を設けた就労A事業所や地域生活支援拠点の機能として緊急受け入れを担う短期事業所等の運営規程の改正も承認された。

②法令等の遵守

- ・6月に実施した愛泉会全体会の中で、業務上知り得た情報の管理やSNS等の取り扱い、送迎車両等運転時の注意事項及び業務中のスマホ禁止について改めて周知徹底を図った。注意喚起通知により冬期間における自動車の安全運転の周知徹底も行っている。
- ・令和4年10月施行された改正育児介護休業法に備え社会保険労務士を講師に招き事業所長及び事務員に対し労務研修会を実施するとともに、育児・介護休業規程の改正と制度の啓発通知を作成し、全職員へ周知し取得の推進に努めた。
- ・法令遵守の徹底及び内部牽制体制の確立を図るため、業務遂行状況の点検及び確認巡回を 11 月に全事業所を対象に実施し、是正内容について経営会議や各部門等において報告し改善に取り組んだ。

③予算管理・執行

- ・当初予算で掲げた目標稼働率の達成度をより正確に把握できるよう月次報告時の様式を一部 改めるとともに、月毎の収支状況を経営会議において周知し、予算管理への意識醸成を図った。
- ・パート職員の人件費予算の算定については事業所で行い、適切な人員配置及び予算と労務の管理の徹底に努めた。

④ I C T 化推進

- ・6月に事業所長、ICT推進担当者及び事務員を対象に、法人全体でのクラウドによるファイルシステム構築や勤怠システムの導入等についての説明会を開催し、愛泉会のICTに関する取り組みの共有を図った。9月のICT推進担当者会議を皮切りに12月以降毎月開催し、進捗状況の確認と課題の共有を行った。
- ・勤怠システムを導入し、運用に向け各事業所の勤務符号の洗い出しから始め、符号の統一化、 システムへのシフト表の取り込み、打刻用端末の配備、全職員への啓発チラシ配布や動画によ る打刻方法の周知など土台づくりを進め、可能な事業所から2月より仮運用を開始した。
- ・法人クラウドについては、各エリアや事業所で使用している既存の共有フォルダの状況確認 と整理、共有フォルダ全体像の確認と検討を行っている。

(1) I C T 推進担当者会議

月日	内容等
12月5日	・勤怠システムの操作について(打刻の仕方、有給・時間外申請、動画サイトによ
	るマニュアル動画限定公開の周知等)
	• 8名出席
12月16日	・勤怠システムについて(システム用シフト作成、打刻等の進捗状況、仮運用の実施
	状況)、共有フォルダクラウド化について(パソコン台数等現状の環境確認)、IC
	Tに係るコンプライアンスについて
	・7名出席
12月23日	・勤怠システムについて(シフト作成、打刻等の進捗状況、2月からの仮運用開始に
	向けた取り組み)、共有フォルダクラウド化について(全体像(案)提示・実態調査
	の実施(案)提示等)
	・7名出席
1月16日	・勤怠システムについて(現況報告、打刻等の進捗状況、全事業所による仮運用開始
	に向けて準備、スケージュール確認)、ICT 環境確認(パソコン、Wi-Fi 環境の確認)
	- 11 名出席
2月7日	・今後のICT推進に向けた取り組みについて、勤怠システムについて(仮運用の
	進捗状況)
	- 12 名出席
3月10日	・勤怠システムについて(仮運用の進捗状況)、ICT 環境整備の進捗状況、共有フォ
	ルダクラウド化について (全体像案の提示)
	- 10 名出席
(2) I C T	に係る説明会
月日	内容等
6月15日	・事業所長、勤務シフト作成業務者対象
6月16日	・令和4年度 ICT 化の取り組みについて(勤怠管理・給与明細・ファイル共有クラ
6月20日	ウド化・SMS システム・ND ソフト)、勤怠システム導入に向けた準備(勤務符号を全

事業所で共有する取り組み等)
・事業所長対象
・勤怠システムについて(打刻の仕方・有給・時間外申請、仮運用準備等の説明、職
員用マニュアル動画作成)、意見交換等
・事務員対象
・勤怠システムについて(打刻の仕方・有給・時間外申請、仮運用準備等の説明、職
員用マニュアル動画作成)、意見交換等
・勤務シフト作成者、ICT 推進担当者対象
・勤怠システムについて(打刻の仕方、有給・時間外申請、マニュアルをとおして説
明、勤怠システム仮運用に向けた準備)、勤務表の作成について(勤務符号統一、勤
怠システム用勤務表の入力と提出方法、各事業所より勤怠システム用勤務表作成の
準備)
· ICT 推進担当者対象
・勤怠システムについて(運用に関する意見交換、今後の導入の準備等)
・事業所長対象
・勤怠システムについて(運用に関する意見交換、今後の導入の準備等)

5 労務管理

- ・職務等級資格制度が開始し初めて規程に基づき令和5年4月2級昇格候補該当職員に選考審査を実施した。
- ・4月より処遇改善臨時特例交付金(10月からはベースアップ加算)を財源とした特例処遇改善手当を月額6,500円に全職員に支給した。また、10月から資格手当支給対象資格として公認心理士を加えるとともに、相談事業所において勤務時間外の相談等に備え待機する職員へ1回あたり500円のオンコール手当を支給している。
- ・新型コロナウイルス感染症対策の一環として、マスク購入補助として全職員へ1人あたり2,000円を上限として被服手当に加算し支給した。また、陽性者が発生した事業所においてレッドゾーンで業務に従事した職員に対し、危険手当として1回あたり3,000円を支給、自宅に帰れない職員についてビジネスホテルを宿泊場所として準備、メンタル面でのサポートとして「山形県心のケアのための専門家派遣事業」を活用し研修会及び希望する職員に対し個別カウンセリングを実施した。
- ・令和3年度末に実施したストレスチェックの個人結果を職員へ配布し、医師等による面接指導窓口の設置も周知した。集団分析結果についても、衛生委員会に報告し、改善策等について審議した。

3. 評価及び課題

・新型コロナウイルス感染症により、感染拡大防止や陽性者が発生した事業所への応援のため、 通所系事業所や短期入所事業所の休業や営業縮小に伴い大幅な減収となった。その他にも、定 員が充足されず稼働率の目標に届かなかったり、加算の取得漏れも減収の要因となった。支出 については、正規職員の増等による人件費の増加に加え、電気料の高騰等により支出が増加し、 当期資金収支差額についてマイナス収支となった。結果、預金残高が減少し資金繰りに苦慮し たことから、改めて予算積算ルールを検討し、有事への対応、施設設備の更新や修繕に備えるた めの資金の積み立てを目標に、事業所との連携や目標の進行管理をより緊密に行い経営会議や 事務員連絡会議等で共有を図りながら収支改善に努めたい。

- ・ICT関連について、勤怠システムについては、勤務符号の整理から始め、休暇等の申請や決裁方法、全職員による打刻、事業所から本部への勤怠報告の仕組み作りをし、2月から仮運用を開始した。勤怠管理の効率化に加え、法人内で勤務符号と勤務時間を可能な限り統一することにより、業務内容の見直しを図りたいところであったが、整理しきれず今後の課題となった。法人クラウドについては、本部でクラウド化する項目や仕組みの全体像を作成し、これを基に各事業所のICT推進担当者が中心となってフォルダやデータ整理を行う等、導入への土台作りをしている。給与明細書の電子化については、現行の給与システムでは対応できないとなったため、改めて次年度、職員の研修履歴等、人事管理システムと併せた給与計算システムの導入を検討することとした。いずれも今年度目指したところまでは至らなかったことは反省としながら、ICT推進担当者を配置し担当者会議等を実施することにより、法人のICTに関する取り組みへの共有が図られたことは大きな成果であり、推進の端緒となった。次年度以降も、利用者支援や業務改善に繋がるよう様々な可能性について検討していきたい。
- ・本部による職務状況巡回及び点検や会計事務所の定期巡回において、指摘項目については減少した。予算積算についても、事業所における事業と予算の一体化が見られ、会計事務に係る取り扱いや精度は向上しているが、事務員連絡会議については勤怠システム関連の説明会が中心となり、その他の事項について会議として協議する時間が取れなかったのは反省である。次年度は目標通り会議を開催し、事務のICTによる統一化や効率化について検討するとともに、より正確な予算積算や適切な管理に資するためのルール策定、法人内の給与事務や複雑化する労務事務の習熟に取り組んでいきたい。
- ・改正育児介護休業法の施行に合わせ法人規程を改正し、その内容について全職員に図解化した通知文書により周知することができた。5年度からの特別休暇の取り扱いについても図解化し通知しする等、今後も「見える化・わかる化」に留意し、より丁寧な情報伝達を図っていきたい。また、次世代育成支援対策推進法や女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の実施により、子育てと仕事の両立や仕事での女性の活躍を促進するような職場風土を醸成し、各種認定制度の取得を目指したい。

≪Ⅱ-3 会議≫

1. 調整会議

実施回数	主たる協議内容
12 回	・理事長、常勤理事、事務局長

・法人本部、事業部、の事業の進捗状況、課題等を報告するとともに、経営課題等について協議を行った。

2, 経営会議

実施回数	主たる協議内容
12 回	・理事長、常勤理事、事務局長、園長・所長、看護師リーダー
	・各部、事業所の月次報告、委員会の報告とともに、経営課題の検討を行った。

3,全体会

実施回数	主たる協議内容
1 回	・Wabにて開催。
	・令和4年度事業方針、事業計画について

≪Ⅱ-4 苦情の状況、解決状況≫

事業所名	苦情内容	受付	苦情解決の経緯	結	果
		件数	話し合い	解決	継続中
	利用者支援に関するこ	1			
障害者支援施設向陽園	ح		2	1	1
	職員に関すること	1			
グループホーム支援セン	その他(連絡等に関する	1	1	1	
ター向陽園	こと)				
デイサポートさくら	職員に関すること	1	1	1	
デイサポートたんぽぽエ	その他	2	2	2	
房					
グループホーム支援セン	利用者支援に関するこ	1	1	1	
ター心音	٢				
ホームヘルプステーショ	その他	1	1	1	
ン心音					
児童デイサービス	医療に関すること	2	2		
月のひかり	職員に関すること	1	1	4	
	その他	1	1		
グループホーム支援セン	利用者支援に関するこ	1			
ター天花	ح		2	2	
	生活環境に関すること	1			

ぶどうの木ショートステ	その他	2	2	2	
イサービス					
グループホーム支援セン ターなかやま	その他	3	3	2	1
計	-	19	19	17	2

≪Ⅱ-5 職員の状況≫

1,入退職状況 (単位:人)

	令和4年4月1日	退職(年度中•年度	採用(年度中・5年	令和5年4月1日
	在籍職員	末)	4月1日採用含	在籍職員
			む)	
正規職員	1 2 2	5	6	1 2 1 (※1)
非正規職員	152	2 2	2 3	1 5 5 (※1)
	274	2 7	2 9	2 7 6 (※1)

※1 60 歳定年により正規職から非正規職での再雇用、正規職転換試験合格により、正規職員に転換した職員を含む

2,離職率

令和4年度離職率 9.85% (厚生労働省「2,019年雇用動向調査の概況」 全産業平均離職率15.6%)

3, 年次有給休暇取得率 令和4年度全職員平均 61.9% (厚生労働省「令和3年就労条件総合調査」 全産業平均56.6%、介護職員14.7%)

- 4, 産休·育休取得率 令和4年度産休·育休取得率 100%
- 5, 女性管理職の比率 令和4年度女性管理職の比率 42.1% (2022年 民間企業 平均9.4%)



<辞令交付の様子>



<令和4年度入社式>

≪Ⅱ-6 決算報告≫

1, 寄附の状況

寄附者		寄附金	寄付物品		合計		
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	備考
企業・団体等	5	1, 791, 973			5	1, 791, 973	
個人	3	190, 000	1	100, 000	4	290, 000	木琴
合計	8	1, 981, 973	1	100, 000	9	2, 081, 973	

2, 決算報告

貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

単位:円

			+177 • 1]
	貸借	対照表	
流動資産	300,428,808	流動負債	115,980,717
固定資産	707,903,294	固定負債	193,333,671
基本財産	495,536,779	負債の部	309,314,388
その他の固定資産	212,366,515	基本金	30,554,767
		国庫補助金等特別積立金	228,501,689
		その他の積立金	12,000,000
		次期繰越金増減差額	427,961,258
		(うち当期活動増減差額)	△ 35,603,626
		純資産の部	699,017,714
資産 合計	1,008,332,102	負債及び純資産 合計	1,008,332,102

事業活動計算書

資金収支計算書

(自:令和4年年4月1日 至:令和5	年3月31日)	(自:令和4年年4月1日 至:令和5:	年3月31日)
サービス活動収益計①	1,193,295,457	事業活動収入計①	1,206,097,580
サービス活動費用計②	1,237,727,497	事業活動支出計②	1,198,399,315
サービス活動増減差額③=①-②	△ 44,432,040	事業活動資金収支差額③=①-②	7,698,265
サービス活動外収益計④	13,525,007	施設整備等収入計④	33,000,000
サービス活動外費用計⑤	4,421,811	施設整備等支出計⑤	61,781,168
サービス活動外増減差額⑥=④-⑤	9,103,196	施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	△ 28,781,168
経常増減差額⑦=③+⑥	△ 35,328,844	その他の活動収入計⑦	13,171,969
特別収益計⑧	100,000	その他の活動支出計⑧	22,528,540
特別費用計⑨	374,782	その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	△ 9,356,571
特別増減差額⑩=⑧-⑨	△ 274,782	当期資金収支差額合計⑩=③+⑥+⑨	△ 30,439,474
当期活動増減差額⑪=⑦+⑩	△ 35,603,626		
前期繰越活動増減差額⑫	463,564,884	前期末支払資金残高⑪	271,915,980
当期末繰越活動増減差額⑬=⑪+⑫	427,961,258	当期末支払資金残高⑩+⑪	241,476,506
その他の積立金取崩額⑭			
その他の積立金積立額⑮			
次期繰越活動増減差額⑯=⑬+⑭+⑮	427,961,258		

Ⅲ. 創造企画部

報告者: 庄司 泰夫

1, 当初目標

- ①各事業所の支援内容等を定期的に確認するとともに、専門家による第三者評価等の活用を進め、サービスの質の確保、向上を図る。
- ②福祉の仕事の意義、仕事を通して得られる喜び、当法人ならではの取り組み等をアピールし、人材の 確保に努める。また、職員個々の研修履歴、取得した資格等の台帳を作成しながら、派遣研修等の調 整を行うとともに、階層別研修、全体研修を実施し、人材育成に努める。
- ③県から委託を受けている強度行動障がい支援者養成研修、山形アートサポートセンターらららの事業 を通し、県内の障害福祉の支援レベルの向上、アート活動の普及、障害のある人もない人も互いを尊 重し、理解し合える地域社会の創造に努める。
- ④日々のサービス提供の中で感じられる制度上の課題や地域ニーズ等を集約し、知的障害者福祉協会等 の活動等と連動させながら、行政等に要望を行い、地域に貢献する。

2, 実施状況及び評価

①取り組み状況と評価(評価 \odot できた \bigcirc だいたいできた \triangle 一部できていない \times できていない)

(1)サービス管理・事業調整

計画内容	取り組み	評価
・事業所のサービスの質の確保、	・都道府県で実施している第三者評価事業の活用を含め、第	
向上のため、前期に、第三者評価	三者によるサービス評価の実施について前期に検討を行い、	
機関への評価の依頼を含め、第	介護福祉分野の地域密着型サービス等で実施している「運営	Δ
三者評価の実施を検討し、後期	推進会議」の手法を用い、法人独自のサービス評価を行うこ	
に実施する。	ととし、後期に、入所施設、グループホームで実施した。	
それぞれの事業所に寄せられ	・各事業所に寄せられた苦情等について、報告書を本部に集	
た苦情等を集約し、適切に対応	約し、内容等を把握し、適時対応するとともに、巡回点検等	Δ
されているか、また改善策が講	の際に対応等が適切に行われたか、確認を行った。	
じられているか確認する。		
・それぞれの事業所に寄せられ	・村山地方、山形市内の児童に関する社会資源、サービス等	
る要望や地域ニーズ等を集約	で不足しているものがあるとのことから、総合的な児童発達	Δ
し、新規事業の企画、調整を行	支援の拠点を山形市内に設置できないか、検討を行った。次	
う。	年度は、委員会を設置し検討を行っていきたい。	

(2)人材育成(人材確保・育成対策室)

計画内容 取り組み 評価

・関係機関、団体等で行われる各
種研修会の要項等を事業所等に
送付し周知するとともに、職員
個々の研修ニーズ、管理者等の
意向を基に派遣職員の調整、取
りまとめを行う。

・関係機関、団体等で実施する研修会等の要項を事業所に送付し、事業所長等の意向を聞きながら、職員の研修ニーズに合わせ研修に参加できるよう調整を行った。コロナ禍の中、集合形式での研修への参加を見合わせたいとの意向が強く、Wab形式での研修への参加が中心となった。

0

Δ

Δ

- ・階層別研修(管理職研修、リーダー研修、中堅職員研修、新採職員研修)、全体研修(個別支援計画作成、サービスの質の向上、権利擁護、意思決定支援等)の企画、実施する。
- ・新採職員、2~3年目までの新任職員を対象に「ソーシャルワークの基礎知識」をテーマに5回コースで研修会を開催するとともに、法人内の事業所見学会を実施した。また、管理職、リーダー職を対象に山梨県社会福祉法人三富福祉会の服部敏寛氏を講師に「利用者の想いや夢を実現するために~意思決定支援と個別支援計画~」をテーマに研修会を実施した。
- ・事業所ごとに研究テーマを設 定し、年度末に取り組み、成果を まとめ、実践報告会を実施する。
- ・全事業所に研究テーマを設定し、取り組んだ内容を実践報告にまとめ、報告してもらった。時間の都合もあり、全事業所に報告会の場で報告してもらうことができなかったため、半数の事業所にはwab発表とさせてもらった。
- ・職員個々人の資格、研修履歴等をまとめた「職員研修履修台帳」 を作成する。
- ・全職員を対象に直近5年間の研修履歴についての調査を 実施した。労務管理等のICT化に伴い、労務管理ソフトが 変更となるため、台帳の作成までには至らなかった。ソフト の決定、導入後に作成したい。
- ・外部研修への派遣職員の調整 を行うとともに、復命書等の取 りまとめを行う。
- ・法人内研修については、研修後アンケートを、派遣研修参加職員については、復命書を本部にも報告してもらい、確認した。
- ・それぞれの事業所等で実施された研修等の内容、効果等を把握する。
- ・研修への派遣については、事業所ごとにばらつきがみられた。必ず派遣する研修、希望等により派遣する研修を分け、により基礎的な研修については、職員全員を派遣するようにしていきたい。
- ・研修委員会の事務局として、調整、運営を行なう。

研修のあり方、体系等を委員会等で検討していきたい。

(1) 研修実施状況

イ、内部研修

月日	テーマ	参加者数
4月1日	令和4年度新採職員研修 「法人諸規程、倫理綱領、感染症対策、接遇マナー等」	10 名
6月7日	第1回新採研修 「福祉の仕事をとおして得られた喜び」	8名

6月28日	新採職員対象安全運転講習会	8名
7月26日	第2回新採研修	8名
	「ソーシャルワークの価値と倫理について」	
10月20日	2~3年目職員対象研修	6名
	「ソーシャルワークの価値と倫理について」	
12月8日	第3回新採研修および2~3年目職員対象研修	11 名
	「アセスメントについて①」	
1月11日	第3回新採研修および2~3年目職員対象研修	14 名
	「アセスメントについて②」	
2月10日	管理職・リーダー等研修会	18 名
	「利用者の想いや夢を実現するために」~意思決定支援と個別支援	
	計画書~	
	講師 山梨県社会福祉法人三富福祉会	
	サポートセンターハロハロ 服部 敏寛氏	
3月17日	第5回新採研修および2~3年目職員対象研修	13 名
	「自己覚知について」	
3月25日	実践研究発表会	81 名
	・講演「知的障害者の地域移行と地域生活の課題に関する調査研究	
	報告」東北福祉大学教授 都築光一氏	
	• 実践研究発表 助言者 東北福祉大学教授 都築光一氏	

口,派遣研修

a, 山形県社会福祉研修センター主催研修

月日	講座名	参加者数
6月16・17日	障がい児・者福祉関係新任職員研修	2名
7月7日	社会福祉専門講座 5 「施設内の感染症予防」	2名
7月5日	障がい児・者施設職員研修 1 「インテークとアセスメント~信頼関係から始まる支援~」	3名
7月25日	社会福祉施設ケアリーダー 「プロのチームを作りあげる」	6名
8月19日	リーダー育成研修 「施設のリスクマネジメントとコンプライアンス」	2名
8月17日	人材マネジメント研修 「心のマネジメント・スキル」	2名

8月24日	福祉人材採用カアップセミナー	2名
10月3・4日	職場研修指導者研修 「福祉人材育成のための実践に向けて」	1名
11月16・17日	スーパービジョン研修 「スーパービジョンの考え方と実施方法について学ぶ」	4名

b,山形県主催研修

月日	テーマ	参加者数
7月8・15日	サービス管理責任者研修(更新研修)及び児童発達支援管理責任者	17 名
	研修 (更新研修)	
8月18・19日	相談支援従事者研修(特別研修)	2名
8月18・19・	相談支援従事者研修(初任研修)	1名
20・31 日		
10月6・25・26		
日		
9月6日	サービス管理責任者研修及び児童発達管理責任者研修(基礎研修)	3名
10月12・13日		
9月15-16-29-	強度行動障がい支援者養成研修 (基礎研修)	18 名
30 日		
11月29・30日	強度行動障がい支援者養成研修 (実践研修)	10 名
11月11-17-18	相談支援従事者研修(現任研修)	1名
12月15日		
12月21・22日	サービス管理責任者研修及び児童発達管理責任者研修(実践研修)	1名
1月26・27日		

c,知的障害者福祉協会主催研修

月日	テーマ	参加者数
6月16日	東北地区知的障害者福祉協会 総会及び施設長等連絡会	13 名
6月29日	第4回支援力向上研修会 テーマ「『行動障害とは』〜理解・形成・支援・リスクマネジメント 〜」講師 公益財団法人鉄道弘済会 総合福祉センター弘済学園 高橋 潔氏	12 名
8月25日	JICオンラインセミナー「病気予防と事故防止」	1名
9月16日	山形県知的障害者福祉協会児童発達支援部会 テーマ「これからの子ども施策と障害児支援の役割」 講師 全国手をつなぐ育成会連合会常務理事 又村あおい氏	7名
9月27日	東北地区知的障害者福祉協会 専門研修会	1名

10月31日	山形県知的障害者福祉協会支援スタッフ部会	10 名
	講師 社会福祉法人育成会 理事 古川 敬氏	
11月2日	山形県障がい福祉課長との懇談会及び施設長等研修会	9名
11月15日	家族と支援者が共に学ぶセミナー	7名
	テーマ「私たちの支援の基本だから、改めて考えてみる」~意思決	
	定支援から知的障害者支援を考える~	
	講師 社会福祉法人育成会 理事 古川 敬氏	
11月25日	研修委員会主催研修	5名
	テーマ「これからの障害者施設・事業所に求められる運営マネジメ	
	ント」	
	講師 日本福祉大学教授 綿 祐二氏	
11月26・27日	東北フォーラム 2022 in ふくしま	6名
12月16日	第5回支援力向上研修会	6名
	テーマ「多角的な行動理解と支援方法」	
	講師 サポートセンター町田とも 所長 南川 岳胤氏	
1月26日	山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員研修会	16 名
	テーマ「障害者虐待防止から意思決定支援への転換に向けてすべき	
	こと」~障害者虐待防止法施行後10年が経過して何が変わったか	
	~	
	講師 東洋大学教授 高山 直樹氏	
3月2日	山形県知的障害者福祉協会児童発達支援部会	13 名
	テーマ「これからの子ども施策と障害児支援の役割②」	
	講師 全国手をつなぐ育成会連合会常務理事 又村 あおい氏	
3月13日	障害者の権利擁護セミナー	18 名
	テーマ「障害のある人の権利擁護・虐待の防止について」~人は尊	
	厳をもって生きる権利がある~	
	講師 山形県知的障害者福祉協会倫理委員会外部委員 平間 みゆ	
	き氏	
3月16日	第6回支援力向上研修会	5名
	テーマ「地域での幸せな暮らし」	
	講師 社会福祉法人高水福祉会 常務理事 野口直樹 氏	

ハ、その他~さぽーと読書レポート~

- ・「知的障害福祉研究さぽーと」年間定期購読者数152名
- ・学びを深めてもらうため、10月から四半期ごとに「さぽーと」を読み学んだことをまとめ、レポートを提出してもらうこととした。新採職員については、障害福祉分野で働く者として必要な基礎知識を学んでもらうこととし、テーマを決め、その他の職員については、自身の研修目標に合わせテ

(3)人材確保(人材確保・育成対策室)

(3)人材確保(人材確保·育成対策	(室)	
計画内容	取り組み	評価
•「令和4年度新採職員募集要	・「令和4年度新採職員募集要項」を作成し、福祉系大学、短	
項」を作成し、福祉系大学、短大、	大、専門学校等に発送した。コロナの蔓延等もあり学校訪問	
専門学校等に発送するととも	は見合わせたが、事業所見学については、事業所の状況を見	
に、学校等に訪問する。	ながら受け入れを行った。令和4年度は、新卒者4名を採用	
・新型コロナウイルス感染症の	した。	0
状況を見ながら、応募者、希望者	・新卒者、既卒者ともホームページで法人の事業内容や取り	
等に職場を見てもらえるよう	組み等を確認し、応募してくる人が多いことから、新卒者を	
に、事業所案内を行う。	対象にした研修会の実施状況や仕事の内容、やりがい等を伝	
・今年度についても、4期に分け	えられるようホームページの記事の更新に心がけた。	
募集を行い、採用試験を実施す	・施設実習等の学生を対象に、募集要項等の説明会を実施し	
る。	t=.	
・職員の欠員等に対し、ネットを	・ハローワークを通しての求人、「福祉のしごとネット」を	
利用し速やかにハローワークに	利用しての求人とともに、9/29「ハローワーク求人説明会~	
求人票を提出する。	介護・看護・保育~」、11/8「福祉の仕事フェアー」に参加	
・「福祉のしごとネット」に求人	し、求人を行った。	
票を掲載し、募集を行う。	・日中事業所の募集に対しては、比較的応募がみられたが、	
・新型コロナウイルス感染症の	グループホーム支援員、世話人等の募集については、応募者	
状況を見ながら、応募者、希望者	がなく、仕事の内容を伝えるため、ホームページでグループ	0
等に職場を見てもらえるよう	ホームについて多くの人に知ってもらうため、ホームの役割	
に、事業所案内を行う。	やその中での仕事ややりがい、待遇等を伝えるための記事を	
	3回に分け掲載した。	
	・募集のあり方を見直すため、直近5年の間に愛泉会に勤め	
	始めた職員を対象に、愛泉会で働こうと思った動機や愛泉会	
	のこと、募集等を知ったきっかけ等についてアンケート調査	
	を行った。100名を超える職員から回答をもらったが、世	
	話人については、「知り合いからの紹介」が多く、入職前に	
	職場の雰囲気や状況等について、情報が欲しかったとの回答	

(4) 受託研修の企画実施(ソーシャルワーク研究所)

計画内容	取り組み	評価
・山形県、講師予定者等と調整を	・コロナ禍の中、密を避けるため、講義についてはWeb配	
行いながら、強度行動障がい支	信で、演習については、50名の集団研修とし、基礎研修を	

が多かった。

援者養成研修基礎研修、実践研	4回、実践研修を2回に分け実施した。	0
修を実施する。	・基礎研修は、比較的経験年数が短い職員が多く、年齢構成	
	も多様なため、講師からはコンサルテーション、伝え方等に	
	ついて学ぶ機会が必要との提言や、学校等と連携して取り組	
	むためには、教員等に学んでもらう機会を設ける必要がある	
	のではないかとの提言をいただいた。	

イ、強度行動障害支援者養成研修

テーマ	参加者数
強度行動障がい支援者養成研修 (基礎研 修)	190名
強度行動障がい支援者養成研修 (実践研 修)	9 5 名
9回開催	
	強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修) 強度行動障がい支援者養成研修(実践研修)

(5) 広報・情報発信

計画内容	取り組み	評価
・年3回、機関紙を発行するとと	・8月、12月、3月に機関紙を発行し利用者、家族、関係	
もに、ホームページの見直しを	機関等に送付した。12月に発行した機関紙は、機関紙発刊	
行い、愛泉会が目指している方	から100号目にあたるため、ページ数を増やし、これまで	0
向性や取り組み等の情報を発信	の発行の歩みの振り返る記念号とした。	
するとともに、法人情報を公開	・より多くの方に福祉や愛泉会に興味を持ってもらうため、	
する。	記事等を工夫しながらホームページの更新に努めた。	

イ、機関紙の発行

発行 年3回(令和4年8月、令和4年12月、令和5年3月) 発行部数 1,200部 配布先 利用者、利用者家族、近隣・地域住民、

行政、関係機関、賛助会員等



(6) 政策提言

計画内容	取り組み	評価
・東南村山圏域内の自立支援協	・山形市、上山市、天童市、中山町の自立支援協議会の状況	

議会、相談支援事業所等で課題 となっている事柄や地域ニーズ を集約し、政策委員会等で検討 を行いながら、知的障害者福祉 協会等の活動と連動しながら、 行政に要望書等を提出してい く。

・喫緊の課題である山形市内の 地域生活支援拠点等、基幹相談 支援センターの早期実現、内容 の充実を目指し、山形県知的障 害者福祉協会山形市支部会の調 整、運営等を行う。 や課題となっている事柄等を会に出席している職員等から 報告してもらい、政策委員会等で課題や改善に向けての手立 て等を政策委員会等で協議し、福祉協会等の政策要望等の際 に提案を行った。

0

- ・山形市福祉団体連絡会で実施する市長との福祉懇談会には、「地域生活支援拠点整備事業の広域設置について」「山形市障がい福祉計画及び障がい児福祉計画策定について①計画の中間評価と公表、②地域移行についての入所利用者との面談について」要望を提出した。
- ・山形県知的障害者福祉協会山形市支部会を7/21、12/19に開催した。12月については、山形市からの依頼もあり、地域生活支援拠点の緊急ショートステイについて、市と意見交換を行った。

(7) 調査研究

計画内容 取り組み 評価 ・障害者支援施設から地域生活 ・これまで障害者支援施設から地域移行した利用者につい に移行した障がい者の実践事例 て、移行後の変化と移行までのプロセスの中での意思決定支 を収集し、「社会生活場面」にお 援について調査を行ってきたが、令和4年度は、グループホ ける意思決定支援の手法を明ら ームサニーハウスの開設に伴い、在宅等からホームに移行し 0 かにし、意思決定支援の普及を た利用者の変化と意思決定支援とともに、ホームで生活する 図る。 利用者が地域社会の一員として暮らすには、何が必要か明確 にするために、中山町のホーム近隣の住民を対象に、日ごろ の交流、障がい、利用者の理解等について調査を行った。 ・調査については、報告書を作成するとともに、「令和4年 度実践報告会」等で報告を行っている。

イ、調査研究

- ・テーマ「知的障害者の地域生活におけるその効果に関する調査」 ソーシャルワーク研究所
- ・テーマ「知的障害者の地域移行と地域生活の課題に関する調査研究報告書」

東北福祉大学 総合福祉学部福祉行政学科 都築 光一 氏

(8) やまがたアートサポートセンターらららの運営受託

計画内容	取り組み	評価
・山形アートサポートセンター	アート活動の普及、障害のある人もない人も互いを尊重	
らららの事業を通し、アート活	し、理解し合える地域社会の創造のため、ぎゃらり一ららら	
動の普及、障害のある人もない	での展示会、ワークショップをはじめ県内各所で開催された	
人も互いを尊重し、理解し合え	アート展等の企画・運営に関わらせていただきながら活動を	0

る地域社会の創造に努める。

行った。今年度は特に東北芸術工科大学と連携しながら、学生が福祉現場の実習の中で展示やワークショップの企画を行う実践の場つくったり「山形ビエンナーレ 2022 (東北芸術工科大学主催)」の共同企画等を行うことができた。

3. 課題

- ・サービスの質の向上を目指し、介護福祉分野の地域密着型サービス等で実施している「運営推進会議」の手法を用い、グループホームを中心にしてサービス評価を実施した。次年度は、日中系サービス事業所を含め法人内の全事業所で実施することとしている。初めての取り組みのため、不十分なところがあるが、事業所長と打合せを行い、改善しながら取り組みを進めていきたい。
- ・研修履修台帳の作成のため、調査を行ったが、派遣研修への参加が事業所、職員によりよりまちまちになっている。派遣研修を含めた研修体系等を明確にするとともに、台帳等を整備し、基礎研修等については、全員に受講してもらえるようにしていきたい。
- ・職員募集については、学校、ハローワーク等へ募集を見て、応募してくれる人が多くなってきているものの、夜間支援や変則勤務が必要な事業についての募集が難しい状況にある。広報の仕方、募集の仕方等を学びながら、より多くの人に興味を持ち、応募していただけるよう取り組んでいきたい。
- ・少子高齢化による働き手不足の中、強度行動障害者支援者養成研修受講者も年齢、経歴も異なる多様な方々となっている。講師陣から強度行動障害を理解してもらうため、講師が学ぶ「コーディネーター研修」を行って欲しいとの要望が出ている。次年度実施に向け調整していきたい。
- ・職員募集に対する応募者の多くが、募集要項、ハローワークの求人を見た後に、ホームページ等で 法人の状況等を確認し、応募してきてくれるようである。法人の取り組みや仕事の内容、働き甲斐、 入職後の福利厚生等を理解してもらえるようホームページの内容を見直したい。

≪Ⅲ-1 やまがたアートサポートセンターら・ら・ら≫

報告者:大場 和枝

1. 当初目標

- ①人材育成に力を入れ表現活動に寄り添う人材を育てる。講演やワークショップにより全国の先進事例 を学ぶ。
- ②展覧会だけではない表現の発信にアプローチしていく。(身体表現や作品の二次使用等)

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価 (評価 \odot できた \odot だいたいできた \triangle 一部できていない \times できていない)

目標	取り組み	評価
人材育成に力を入れ、表現活	・芸術文化分野と福祉分野を繋ぎ、実践を交えながらクリエ	
動に寄り添う人材を育てる。講	イションを行い、その過程の中で「人材育成」を行うことを	
演やワークショップにより全国	目指した。	
の先進事例を学ぶ。	・「視覚障害者とつくる美術鑑賞」や市民の対話の機会も作	0
	った。	
	・新規事業として、表現活動に寄り添う人材を育てるファシ	
	リテータ養成を目的とした実践研修「まなび舎ら・ら・ら」	
	を3回行った。	
	・東北芸術工科大学と連携し、学生が福祉の現場実習を行	
	い、その中で展示やワークショップ企画を行う実践の場を	
	作った。	
展覧会だけではない表現の発	・身体表現事業は「山形ビエンナーレ 2022(東北芸術工科大	
信にアプローチしていく(身体	学主催)」との共同企画として展開した。	
表現や作品の二次使用等)。	・2年目となる工業、福祉、デザイン連携事業協力は、分野	0
	を超えた情報交換やネットワークづくりに繋げ、商品試作に	
	協力した。ぎゃらり一ら・ら・らでアートを仕事に繋げる事	
	例展を開催した。	
鑑賞支援や展覧会、研修会に	・山形ビエンナーレで、視覚障害者とつくる美術鑑賞ワーク	
おいて、様ざまな障がいのある	ショップを実施し、目の見える人・見えない人が様々な見方	
方の利用しやすさを考えてみ	を持ち寄って対話型鑑賞を行った。事業後には、県内の視覚	
る。まずは視覚障害のある方の	障がい者団体と連携して独自の事業として継続し、2月の絵	0
アクセシビリティを検討してみ	画鑑賞、3月の映像鑑賞ワークショップに繋がった。	
る。	・山形ビエンナーレのトークイベントに手話通訳を付けた。	
	・展示作品の文字に QR コードから音声ガイドを出力し、ア	
	クセシビリティに配慮した。	
「中間アウトカム」	・支援センター併設のギャラリーでの企画展(5回)、県内の	
山形県内各地域の活動に寄り	作品公募展、県内4地域(酒田市、鶴岡市、新庄市、米沢市)	
添い、福祉と芸術文化の分野を	での展覧会支援事業と巡回展を実施し、各地域専門家と連携	
つなぎ、様ざまな人材と連携し	しながら、作品発表の機会や障がいのある人の活躍の場を作	0
ながら、山形県全体での芸術活	った。	
動の促進と普及を目指す。	・新規事業として、山形ビエンナーレ 2022 との共同企画で、	
	身体表現の発表の機会を創出し、芸術文化分野に発信した。	
	多様な背景を持つ市民が関係性を作り創造し発表した経験	
	が人材育成、ネットワークづくりに繋がり効果が波及に繋	
	がった。	
	・山形市との連携事業として山形市内のまちあるきアート	

	展に協力した。	
「最終アウトカム」	・芸術文化分野と福祉分野を繋いだ実践により、福祉事業所	
多様性における理解を深め、	に足りないスキルや人材を外部の専門家と連携する仕組み	
新たな価値づくりを支援し、互	を作る繋ぎ役となる活動を行った。	
いを尊重しあえる地域の包容力	・障害のある作家を紹介する NHK E テレ「no art, no life」	0
を高めるべく取り組む。	に県内の作家3名が取り上げられた。マスコミとを繋ぐ役	
	割ができたのではないかと思われる。	
	・山形ビエンナーレ 2022 関連でテレビ取材が増えた。	

3, 課題

- ・県内でも絵画等の二次使用の機会が増えており、著作権の研修が必要である。
- ・鑑賞支援については、QR コードやワークショップ、手話通訳を付ける等の取組みを行ったが、上手く機能しないこともあった。あらゆる人がアクセスして、参加、鑑賞するためのアクセシビリティに関して、県外の先進事例等を学ぶ必要がある。
- ・法人内事業所で行われている表現活動は、感染症対策のため訪問しての活動が実施できないことが多かった。オンラインやテーマを提供し職員の相談対応等、訪問以外の企画や工夫が必要である。
- ・デイサポートたんぽぽ工房は、商品のブランディングに関わるデザイナーとの連携支援を継続して実施する。

≪Ⅲ-2 権利擁護・意思決定支援委員会≫

報告者:寺西朋宏

1, 当初目標

①日々の支援、生活の中での小さな権利侵害や虐待の芽に気付き、早いうちに未然の対応できるよう定期的に委員会活動を実施し、虐待防止に向けて体制整備を行い、障がいのある人の権利を守り、配慮を含んだ支援を行っていく。

2, 実施状況

実施回数	主たる協議内容	
	①行動規範の改訂について	
	(1) 改訂のポイント	
	・サービスごとにあった行動規範の見直し	
	・これまでの行動規範と倫理綱領等から共通の行動規範とした	
2 回	・行動規範の文言は全職員がわかりやすい内容に留意した	
	②各事業所での行動規範のチェック	

話し合い、検討の結果、成果など

・昨年度から委員会で協議されてきた行動規範の改訂を行うことができた。

3. 課題

- ・各事業所で行動規範のチェックを行ったが、集計されたデータの活用方法について検討が必要で あった。
- ・行動規範の見直し作業に多くの時間が必要であった。新型コロナ対応で時間を確保することが難 しかった。
- ・年度当初に活動内容を行動規範の見直しと研修の実施に絞ったが、計画的に実施することができなかった。次年度は委員会で年間計画を組み立て、着実に実施して、利用者の権利擁護または意思決定に寄与できる活動展開が必須である。

≪Ⅲ-3 リスク検討委員会≫

報告者:吉田 一斉

1, 当初目標

- ①事故等の分析を行い、法人全体で再発防止策の共有を行う。
- ②法人事業所の環境・設備面のリスクについて、事前にチェック回避できる体制を作る。
- ③事故の要因分析(RCA分析)を各職員に浸透させ、同様の事故を繰り返さない組織作りを行う。

2, 実施状況

実施回数 主たる協議内容 ・法人事故統計の分析(重大事故の芽の検討) ・安心安全の日だよりの内容検 事故報告書式の確認 ・事業所訪問、RCA勉強会、KYT勉強会の内容について ・安全運転振り返りシート、服薬業務振り返りシートの実施について 水害対策について 9回 話し合い、検討の結果、成果など ①事業所巡回の実施 ・10 月天花、2 月向陽園 ②研修会の実施 ・11月24日「RCA分析勉強会~事故・ヒヤリを繰り返さない対処方法の検討~」 を実施した。事業所長、リスク検討委員、事業所リスク検討係を中心に 17 名が参加し た。

・2月21日「KYT (危険予知訓練) 勉強会」を実施した。非常勤職員、世話人、夜 警員中心に63名が参加した。

3. 評価及び課題

- ・向陽園誤嚥死亡事故を受け、事案の共有、我がことと捉える工夫を検討してきた。服薬関係、車両関係など同様の事案が続いており、今後も課題となる。
- ・安全運転振り返りシートと服薬業務振り返りシートによる、職員の業務についての振り返りを実施した。 施した。今後も継続して実施したい。
- ・事業所巡回がコロナウイルス感染症対応等で延期が続き、予定通り実施できなかった。実施できた2事業所では、大変有意義であったとの報告があり、今後も継続して実施したい。

≪Ⅲ-4 政策委員会≫

報告者:村上 実

1. 当初目標

- ①法人事業の中長期計画や圏域の地域課題等に関して、利用者、家族等のニーズ及び自立支援協議会の 情報を勘案しながら、法人として関係機関等に提言要望活動を行っていく。
- ② 2 年後の総合支援法改正、児童福祉法改正、報酬改定に向けて、国の各種在り方検討会や今後の議論 の内容を検討し、法人で準備できることや必要な活動を行っていく。
- ③愛泉会の強みの一つになるが、各圏域(山形市、天童市、中山町等)の自立支援協議会に相談を中心に関与しているので、情報収集、要望提言の場として最大限有効活用していく。また、知的障害者福祉協会、手をつなぐ育成会連合会等の繋がりを活かし提言要望活動を行う。

2. 実施状況

形市と広域設置」について要望を出した。市長からは、他町から要望があった場合、広域 設置について検討を行うとの回答を得た。また、法人内の事業の課題を整理し提言してい くことができた。

- ・それぞれの市町の自立支援協議会の動向について、情報交換、共有ができた。
- ・山形県知的障害者福祉協会政策委員会からの意見具申に関して、法人内の課題等を整理 し伝えることができた。

3. 評価及び課題

- ・今年度は、新型コロナ感染等により定期開催ができなかったので、次年度は定期開催していきたい。
- ・自立支援協議会等の動向を適時に把握し必要な課題は委員会等で検討し事務局委員及び市町村担 当者等へ提言していきたい。
- ・令和6年度、報酬改定、制度改正等の対応と準備を事前に委員会等で検討していきたい。
- ・前年度に計画した、各事業所の中長期計画について、関連する事業や整備計画について地域課題と 照らし合わせ1回目の会議で整理したが、まとめただけでその後の話し合いができなかった。
- ・山形県知的障害者福祉協会山形市支部会で検討・要望する内容ともリンクする部分があるため、今後も連携した取り組みが必要であるが、法人独自での行政等への働きかけは少なかったように思われる。

≪Ⅲ-5 支援力向上委員会≫

報告者:村井 弘伸

1. 当初目標

①強度行動障がい等のある利用者の地域移行、地域生活を目指し、強度行動障害、精神障害等に対する 適切な支援方法を職員に伝え、支援力を高める。

2. 実施状況

実施回数

主たる協議内容

- ・各事業所で2か月ごとにケース検討会を開催し、エリア委員が入り、支援困難事例、行動障がい事例等の検討を行う形で取り組んだ。
- ・ケース検討会のみで会議をする時間が取れず、プラン会議と一緒に行う事業所もあった・

実施状況

・新型コロナウイルス感染により、ケース検討会、事業所訪問等がなかなかできなかった。

向陽園…9回、GH向陽園…6回、たんぽぽ工房…1回、GH心音…2回、月のひかり…

5回、GHみらい、にじいろ…プラン会議に合わせ実施、ちとせんぽ…4回、GH天花… 1回、デイ天花…10回、GHなかやま…9回、虹の丘…10回

3, 課題

- ・これまで行動障がい等に焦点を当て取り組みを行ってきたが、介護技術や精神障がい等への対応 も含め、支援力の向上が必要となってきている。次年度は、強度行動障害支援、高齢利用者支援、精 神障がいへの支援と専門分野での動きができればと思う。
- ・新型コロナ感染状況を確認しながら、事業所のケース検討会に、エリア委員が参加する取り組みを引き続き実施したい。次年度も支援力を高めていくためには、それぞれの事業所に2か月に1回ケース検討会を開催してもらうよう依頼したい。
- ・各事業所の日誌等から、課題となっているケースについては、委員会から声掛けをし、ケース検討会を実施したい。
- ・障害特性の理解、心情理解ができるような研修やチーム支援の重要性が伝えられるような研修を 実施したい。また、短めの動画での配信等で学びに繋がる様な取り組みを検討したい。

≪Ⅲ-6 衛生委員会≫

報告者:武田 幹

1, 当初目標

①職員の安全や健康管理の保持増進を推進するため、愛泉会衛生委員会の定期的な開催とエリアごとの活動、事業所ごとの活動の活発化と充実を図る。

2. 実施状況

2, 美施状	NAT	
施回数	主たる協議内容	
	・活動計画について	
	・労働災害状況について	
	・ストレスチェック実施結果について	
	・労務安全衛生管理セミナー報告	
	話し合い、検討の結果、成果など	
2回	・委員会で協議を行い健康増進、メンタルヘルスのため各種研修会を企画し、開催すると	
	ともに、全職員を対象にストレスチェックを実施し、対応策を検討した。	
	(1)研修会	
	・9月30日、10月7日に協会けんぽの「事業所訪問型健康づくりセミナー」を活用して、	
	株式会社ドリームゲートの職員を講師に招き『肩こり・腰痛予防解消体操』を開催した。 9月30日16名、10月7日22名参加。	
	・10 月 19 日、山形県新型コロナウイルス感染症に関する心のケアのための専門家派遣事	
	業」を活用して、公認心理士による「新型コロナウイルス感染症に関する心のケアのため	

の研修会」を開催した。

・11 月2日、「社会福祉施設安全衛生セミナー」に委員が参加。衛生委員会で伝達研修を行った。

(2) その他

- ・リスク管理委員会と連携して職場危険箇所点検を実施した。
- 1月にストレスチェックを実施した。

3, 課題

- ・次年度は、各種事故が増える時期に合わせて、ポスターやチラシを作成する等の啓発活動にも積極的に取り組んでいきたい。
- ・各事業所でクラスターが発生してしまい、積極的な委員会活動が実施できなかった。
- ・「事業所訪問型健康づくりセミナー」の『肩こり・腰痛予防解消体操』では 38 名の職員が参加した。肩こりや腰痛の悩みはどこの事業所でもみられるため、継続して実施してもらいたいという要望も多かった。職員の要望を聞きながら内容を検討して次年度も開催したい。
- ・車両事故を含めて、労働災害数はほぼ変わらなかった。データとしてまとめて傾向等を把握して、 事前に対策を実施することで事故防止に努め、労働災害数の減少につなげていきたい。

≪Ⅲ-7 障がい者芸術活動推進委員会≫

報告者:深瀬 和美

1. 当初目標

①法人事業所を利用している方の表現・創作活動を支援し、それを支援するスタッフへの情報提供と技術的な支援育成を継続的に行う。

2. 実施状況

実施回数	主たる協議内容
	・委員会の計画、役割の確認
	・各事業所の表現活動取り組み状況や課題などの情報交換
	・アートサポートセンターらららの取り組みについて
	話し合い、検討の結果、成果など
2 🗓	(1)表現活動担当者会議・研修の実施
	・7月、2月各事業所の表現活動担当者の会議を行い、各事業所での表現活動について
	情報交換を行った。
	・11 月、3月に各事業所の表現活動担当者研修を行った。「作品をよりよく魅せる具体的
	な手法」やアートサポートセンターららら実践者ネットワーク会議に参加し、山形県内

の芸術文化活動を実践している事業所、アーティストとの情報交換を行い、表現活動について学んでもらった。のべ 16 名の職員が参加した。

3,評価及び課題

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い委員会・担当者会議を予定月に開催することができなかった
- ・委員会の役割を再確認し、法人の表現活動の充実や推進を図るため、多様な表現の楽しさ面白さを発信していける取り組みの検討が課題である。
- ・研修について、興味はあるが時間が合わず参加できなかったという意見があるため、現場支援者が参加しやすい研修方法を検討していく必要がある。

≪Ⅲ-8 研修委員会≫

報告者:渡邉 則幸

1. 当初目標

- ①職員1人ひとりの研修ニーズを把握すると共に、法人として職員育成、研修のあり方を検討し、質の 高いサービスが提供できる職員を育成する。
- ②情報発信を行い、常に自己研鑚する職員集団を目指す。

2. 実施状況

2, 美 他 初	、
実施回数	主たる協議内容
1回	(1)社会福祉法人愛泉会研修体系、体系図(案)について ・人材育成について ・職員の研修ニーズについて
	話し合い、検討の結果、成果など
	・社会福祉法人愛泉会研修体系、体系図(案)について意見交換を行った。職員を派遣する際の基準、目安としても体系図が必要との意見であった。次年度以降も継続して検討していきたい。

3,評価及び課題

- ・コロナ感染等により、1回のみの開催となってしまった。
- ・これまでは、研修等の企画、開催等も委員会で行っていたが、今年度は、研修のあり方、研修体系等 について、審議していただく場として開催した。
- ・研修への派遣、内部研修の内容等も含め、研修のあり方、体系を検討していきたい。

≪Ⅲ-9 広報委員会≫

報告者:渡邉 則幸

1, 当初目標

①法人、事業所をより多くの人に理解してもらうため、事業所の取り組み等を情報共有し、タイムリーな情報発信を行う。

2. 実施状況

実施回数	主たる協議内容		
	・機関紙作成について		
	・ホームページについて		
	・パンフレットについて		
	・ブログについて		
	・各事業所の写真等の記録保存について		
9 🗓			
	話し合い、検討の結果、成果など		
	・機関紙 99 号、100 号、101 号の発刊、100 号については、記念号となるため 1 号からの		
	法人の歩みを振り返り、ページを増やし発刊した。		
	・共有フォルダクラウド化を予定しているため、写真や動画の保存方法について検討を行		
	った。今後も継続して検討を行い、法人全体に周知していきたい。		

3, 評価及び課題

- ・機関紙発刊が中心となり、ホームページ等の検討が十分に行われなかった。ホームページのスタッフブログの更新も、一部の事業所に限られてしまった。
- ・100 号記念紙については、過去の機関紙を掲載し、これまでの法人の取り組み、歩みを理解してもらえるように配慮し作成した。法人の歴史、歩みを知ることができたと好評のご意見を多くいただいた。
- ・機関紙については、レイアウトの修正や原稿の修正等に時間を要し、発行が遅れ遅れになってしまった。計画、スケジュール等の検討が必要である。
- ・研修、会議等を職員に動画で発信するため「動画サイトによる利用ルール」の設定を行った。研修、会議等の動画を発信し、職員間の情報共有を進めていきたい。
- ・共有フォルダクラウド化により、写真等のデータの共有が可能になるが、プライバシー保護の観点から保存の仕方、管理の仕方等の検討が必要である。

≪Ⅲ-10 実習生受入れ≫

報告者:渡邉 則幸

1, 実習受け入れ状況

①障害者支援施設向陽園

	のべ人数	期間
山形厚生看護学校	17	6月7~8日、6月9~10日、6月14~15日
		9月5~6日、9月28~29日
羽陽学園短期大学	8	7月25日~8月5日、2月6~17日、2月20~3
		月3日、3月13~24日
東北文教大学短期大学部	8	9月5~17日、9月20~30日
会津大学短期大学部	1	2月6日~17日
計	34	
②デイサポート天花		
羽陽学園短期大学	6	7月25日~8月8日、2月20日~3月6日、
		3月13~27日
	6	

2. 評価及び課題

- ・より多くの学生に実習を受けてもらえるよう、3名の職員に新たに指導者研修を受講してもらった。指導者登録者が6名となっている。
- ・実習をとおして、福祉職に興味をもつ機会や希望する実習生が増えるように、実習受け入れ体制を整え各学校と密な情報交換を行う必要がある。
- ・実習生が入ることにより、第三者の立場で意見交換ができた。各事業所におけるサービス向上のための意見として貴重な意見になる。実習生の気づきを大切にし、より良いサービスにつながるように実習生の意見を共有する場も必要である。
- ・社会福祉士所得するために必要な「社会福祉援助技術実習」は、新カリキュラム対応の実習受け入れ環境を整えるため、指導者間で情報共有と協力体制を構築する必要がある。また、サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者の援助過程による実習プログラムが中心であったため、今後は相談支援事業所における実習プログラム構築が必須になるためプログラム準備が必要である。

Ⅳ. 事業部

1, 実施状況

① 意思決定支援、権利擁護の推進

日々の生活や活動内容における選択は全事業所が取り組めていると思う。しかし、サービス等利用計画や個別支援計画作成過程において利用者自身が参画し、自身の生活や活動を組み立てている事業所は少ないのが現状である。

権利擁護に関しては、権利擁護意思決定支援委員会による行動規範のチェック表の実施、また、居住系会議中心に動画を作成し「不適切な関わり」「適切な関り」について研修会をとおして意見交換を行った。自身の支援について振り返る機会となっている。

②サービスの質の向上

「生活の自由度」や「特色ある事業所づくり」など事業ごとの目標を決め継続的に取り組んでいる。価値観の違いや感染拡大による事業の停滞などもあり、要望や意見が寄せられている。コロナ禍であってもサービスの質を落とすことなく、安定的な運営を目指す必要があり、会議や研修会をとおして話し合っている。

③安心安全の確保

令和3年度の離接死亡事故及び令和4年4月の誤嚥死亡事故と半年ほどの間にお二人の尊い命を 失う事態となり、法人全体としてマニュアルの見直しやリスク検討委員会中心に同じ事故を繰り返 さないよう研修会の実施、安心安全の日だよりの発行等に取り組んできた。しかし、同様のヒヤリハ ット報告や事故報告が続く月があり、傾向と対策を明示して全職員が「自身のこととして取り組む こと」に取り組んでいる。

4)地域貢献

日中事業所においては、コロナ禍においても地域との関わりを大切にした活動を取りいれることができた。児童期支援(放デイ・短期入所)、相談支援事業、居宅介護事業、ヘルプ事業など訪問系事業所においては、在宅でお住まいの方の「困った」に迅速丁寧に対応できていると思われる。

また、事業所のある市や町の自立支援協議会へは積極的に参加し、地域課題について意見交換ができている。

⑤人材の育成

業務日誌の活用、所長面談、事業所会議や研修などを通じて人材育成に取り組んだ。

⑥働きやすい職場づくり

コロナ禍で制限の多い生活を職員へお願いしている現状ではあるが、有給休暇の取得など各事業 所で工夫して取り組んできた。しかし、グループホームの夜勤の回数が多く身体的にも精神的にも 負担が大きくなっているため、次年度改善が必要とされる。

⑦その他

(1) 新型コロナ感染症について

引き続き感染対策を講じ、職員自身や職員家族などに陽性者が発生した場合は早め早めに対応を してきていたが、第7波時の感染力が強く8月に入り4つの事業所で同時に発生し内3か所でクラ スターとなった。2か所は、入所施設とグループホームであったため、24 時間対応が必要であり、 支援する職員の確保が最大の課題となり、法人全体で応援体制を組んだが、感染区域において業務 できる職員や入所施設で支援できる職員が限られていることなど様々な面で人員の確保が難しい現 状があった。

12 月の第8波においては、第7波で感染していなかったグループホームでの感染が確認されホーム単位での支援体制を組む必要があり、感染ホームが増えることで第7波とは異なった意味で人数確保が必要となった。法人全体で人や物資などの応援体制を組みながら乗り切っている。日中事業所の長期営業休止に対して在宅の方より要望も寄せられているため、入所施設やGHで発生した場合でも継続して営業できるようにしていくことが課題とされる。

(2)各種会議について

横のつながり強化を目指し、情報交換や他事業所・他ホーム職員とのコミュニケーションを大切にする目的で1年間取り組んだ。会議によっては、年間計画とおりに実施できないものもあった。

イ、管理栄養士・看護師会議

4月13日	誤嚥事故予防対策 (備品の設置・研修会など)
6月8日	新型コロナ感染症対策(ワクチン接種など)・熱中症対策
9月29日	新型コロナ感染症 (クラスター体験後の情報共有)
2月15日	新型コロナ「5類」移行後の対応について

口、相談支援事業所会議

6月7日 ピア活動(各駅停車の会・虹の会・ママだけ会)についての情報交換

ハ、居住系事業所会議

4月21日	各事業所の事業計画・リスク管理・待機者リストの見直し
5月19日	現状報告・入居調整 (フローチャート作成)・リスク管理について
6月23日	現状報告・マニュアルの見直し・災害対応について
9月22日	現状報告・8月のクラスター経験を踏まえて情報共有・勤務の現状
10月20日	現状報告・入居調整・新型コロナ対策・今年度の研修会について
11月22日	現状報告・入所調整・12月開催の研修会について
12月7日	研修会「不適切な支援について」
2月9日	現状報告・入居調整・次年度事業計画について
3月17日	現状報告・今年度の振り返り・次年度の事業計画について

二、日中系事業所会議

5月20日	現状報告・令和3年度事業課題検討チームからの報告
7月8日	現状報告・各事業所紹介チラシの作成について
9月9日	現状報告・新型コロナ感染後の課題について
11月11日	現状報告・新型コロナ感染対策及び前期の課題
1月13日	現状報告・各事業所のプログラム紹介 (1年間の取り組み)

木, 短期入所事業所会議

5月19日	現状報告・新型コロナ感染症予防対策	
	20 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2 1/2	

10月20日	現状報告・緊急受け入れの課題(エリア分けの問題)
3月17日	現状報告・次年度の対応(受け入れ時の体調チェック表の記入など)

2, 課題

- ・新型コロナ感染拡大時の生活介護事業所閉鎖について多くの意見が寄せられた。感染症(新型コロナ、インフルエンザ、胃腸炎など)発生時において、迅速な対応と工夫により継続した事業所運営ができるようにすることが次年度の大きな課題と考える。また、短期入所事業においても、コロナ禍でのエリア分けや縮小受け入れから感染予防を講じながら通常受け入れへと大きく変化していくことが望まれている。情報共有と互いの協力によって、ご利用される方の要望にお応えし安定的な運営を行いたい。
- ・各種会議において、開催回数にばらつきがみられた。情報共有の大切な場になるため、進行管理を行い定期の開催と様々な職員が参加できるような工夫をしていきたい。会議主催の研修会においては、これまで同様にWebを活用したものと法人内事業所見学や交換研修などコロナ禍で停止していた部分も取り入れていきたい。
- ・全事業共通の課題として、コロナ禍で停滞していた地域とのつながりや地域貢献の部分について 自身の事業所で何ができるのか検討し実行していくことが次年度への大きな課題と考える。

≪Ⅳ-1-① 障害者支援施設向陽園(施設入所支援)≫

事業種別:施設入所支援、定員:40名、契約者数:36名

報告者:吉田 一斉

1. 当初目標

- ①1人ひとりの尊厳を守り、自己決定できるように支援を行って行く。
- ②支援の難しい利用者が多くなる中、建物、居室の造作が利用者の権利侵害、身体的な拘束に該当するようなものになっていないか、定期的に点検するとともに、生活しやすい環境を保てるよう工夫を行っていく。
- ③質の高いサービスを提供し、利用者の生活が充実するように支援する。
- ④地域移行を促進するため、地域移行担当職員を配置し、体験利用等を行っていく。
- ⑤リスクマネジメント強化を図る。
- ⑥地域の一員とした役割を果たせるようにする。
- ⑦日々研鑽し、福祉のプロとなる事を目指す。
- ⑧お互いを尊重、信頼して、働きやすい環境を作る。
- ⑨「個々の生活のあり方」を常に考え・支える成熟したチームを目指す。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
1人ひとりの尊厳を守り、自	・1人ひとりの特性を理解し、個々のコミュニケーション手	
己決定できるように支援を行っ	段、生活日課を工夫している。	0
て行く。		
支援の難しい利用者が多くな	・環境部門を中心に、より家庭的な居室になるよう順次フロ	
る中、建物、居室の造作が利用者	アの張替え、修繕必要箇所の整備を行っている。	
の権利侵害、身体的な拘束に該	・リスク検討委員会による、事業所環境チェックを 12 月に	
当するようなものになっていな	受ける。	0
いか、定期的に点検するととも		
に、生活しやすい環境を保てる		
よう工夫を行っていく。		
質の高いサービスを提供し、	・個別の外出等、感染リスクにも考慮しながら実施した。担	
利用者の生活が充実するように	当職員に限らず、チーム内で協力する体制で実施した。	0
支援する。		
地域移行を促進するため、地	・地域移行担当職員(副園長兼サービス管理責任者)を配置	
域移行担当職員を配置し、体験	した。	0
利用等を行っていく。	・GHの見学、日中事業所の複数見学、体験利用、ご本人参加	
	の振り返り会議と、地域移行のプロセスを整備した。	
	・プロセスに沿って、2名が地域移行している。	
リスクマネジメント強化を図	・離設事故、誤嚥事故を受け、向陽園検討チームを立ち上げ。	
る。	支援内容、勤務形態、設備修繕についての話し合いを月1~	
	2回のペースで実施し、順次改善を実行している。	
	・セキュリティシステムで、夜間の安全を確保している。	0
	・8月のクラスター発生を受け、改めてBCP改訂を実施。	
	・水害発生時の1人ひとりの避難先の想定を計画、ご家族に	
	もご家庭への一時避難が可能かどうかのアンケートを実施	
	した。あわせて、緊急時連絡先の再整備を行った。	
地域の一員とした役割を果た	・地区内商店での買い物を毎週定期で実施。	Δ
せるようにする。		
日々研鑽し、福祉のプロとな	・強度行動障害支援者養成研修、山形県社会福祉研修センタ	
る事を目指す。	一研修への派遣を実施。	
	・法人内居宅介護事業所より、介護技術に関する助言を仰い	0
	」だ。	
	・支援力部門によりケース検討会を随時実施。	
お互いを尊重、信頼して、働き	・リーダー職員会議、入所職員フロア会議、生活介護職員会	
やすい環境を作る。	議と各階層の会議で意見の集約を行い、方針作りに活かして	

	いる。	
	・4月の誤嚥事故後、8月の新型コロナウイルスクラスター	0
	後、10月に離設事故から1年を迎えるにあたり、職員より業	
	務中の不安点やヒヤリハットについてアンケートを実施。そ	
	の後の方針作りに活かしている。	
「個々の生活のあり方」を常	・毎月の事業所全体目標を策定し、「個々の生活を支える」	
に考え・支える成熟したチーム	ことの本質を共有している。	Δ
を目指す。		

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
環境部門、余暇部門、支援力向	・環境部門では、季節に合わせた服装、清潔感のある生活、	
上部門を設け、取り組みを進め	居室環境つくりに取り組んだ。	
る。	・余暇部門では、行事や外出を利用者とも話し合いの場を設	0
	けながら、実施した。	
	・支援力向上部門では、随時ケース検討会を開催し、支援の	
	方向性の共有を図った。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	1, 106	1, 126	1, 101	1, 099	1, 090	1, 074
利用率(%)	92. 2	90. 8	91. 8	88. 6	87. 9	89. 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	1, 110	1, 085	1, 095	1, 058	963	1, 105	13, 012
利用率(%)	89. 5	90. 4	88. 3	85. 3	86. 0	89. 1	89. 1

- ・死亡事故後、改善に向けての取り組みが中心となり新規利用者の受け入れが進まず、定員を充足 できなかった。
- ・年度内2名の方がグループホームへ移行となった。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
検討チーム	月1回程	12 回	離設事故、誤嚥事故を受けて、安心安全を守
			るための支援・勤務の在り方について検討
			し、改善策を周知実行する。
リーダー会議	月1回	12 回	サブリーダー職以上、および看護師栄養士が

			事業所全体の課題を協議検討する。
フロア会議	月1回	10回(他コロナ対応	夜勤チームが支援の課題、各部門の取り組み
		で書面開催2回)	について協議検討する。
生活介護会議	月1回	10回(他コロナ対応	日勤チームが支援の課題について協議検討
		で書面開催2回)	を行う。

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容
5	19	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (20名※エリア合同)
5	20	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (13名※エリア合同)
5	23	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (22名※エリア合同)
6	2	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (9名※エリア合同)
8	11	夏祭り⇒コロナウイルス感染症対応のため中止
10	11	応急処置・防護服着脱研修 (33名※エリア合同)
10	16	本沢地区文化祭出展
3	14	権利擁護研修会 グループワークにて (14名)

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容			
3	22	火災避難訓練(日中帯)			
3	28	火災避難訓練(夜間帯図上訓練)			

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

F	日	内容	委員からの指摘事項
3	27	・事業所第三者評価の	・入所者の命にかかわる、誤飲や誤投薬等は、介護や支援
		取り組みについて	等を工夫しで減らすよう努めること。
		・事業所状況について	・夜間の勤務体制について、人員増を含め検討して欲しい。
		(利用者数・利用者構	・入所者の家族にも、施設に来る機会を増やす取り組みを
		成、職員数・勤務体制	考えて欲しい。
		等)	
		・苦情、事故等につい	
		て報告	
		・家族アンケート、事	
		業所自己評価の集計	
		結果について	
3	30	・事業所第三者評価の	・安心安全の確保のための検討チームが立ち上げたようだ
		取り組みについて	が、利用者も職員も加害者にしないよう対応策を検討して
		・事業所状況について	欲しい。
		(利用者数・利用者構	・法人として人材確保と人材育成にどう取り組み、バック
		成、職員数・勤務体制	アップしていくか。検討と、取り組みが必要と思われる。

 等)

 ・苦情、事故等について

 て報告

 ・家族アンケート、事業所自己評価の集計

 結果について

3, 課題

- ・「個々の生活の質(豊かさ)」に対する気づきが事故や怪我を未然に防ぐ手立ての一つと考える。R 3年度・R4年度と2年続けての死亡事故により尊い命を失ったことを教訓とし「気づき」を大切に した人材育成を行っていく。
- ・開所37年を経過し、経年劣化による設備の老朽化が目立ってきている。特に、ボイラー(温度が不安定)、浴室の床浴槽(タイル破損個所多く、冬場の湯温と室温も低い)、体育館外壁(サビによる剥離)、体育館の夏場の環境(高温で活動に使用できない)、居室エアコン(令和4年度複数台交換となり、今後も交換が進む)など、利用者の生活の質に直結する箇所について、計画的に改修していく必要がある。

≪Ⅳ-1-② 障害者支援施設向陽園(生活介護)≫

事業種別:生活介護、定員:40名、契約者数:64名

報告者:吉田 一斉

1. 当初目標

- ①本人参加、本人の想いを具現化する取り組みの推進
- ②活動の質の充実
- ③事業所内リスクの確認と共有
- ④地域交流を通した地域貢献
- ⑤ニーズに応じた研修の実施
- ⑥コミュニケーションの活性化

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
本人参加、本人の想いを具現	・日々、活動選択の機会が多くなるプログラム作りに努め	0
化する取り組みの推進	た。	

	・1人ひとりの特性を理解し、個々のコミュニケーションの	
	手段、活動日課を工夫した。	
活動の質の充実	・利用者から、やってみたいことを聞き、プログラムに反映	0
	させる機会を作りながら実施した。	
	・少人数でのグループ外出、外食を実施した。	
	・活動内容を展示発表する機会を設けた(ららら、地区コミ	
	セン、展示会)。	
事業所内リスクの確認と共有	・生活介護会議にて、ヒヤリハット、苦情、事故の振り返り	0
	を実施した。	
	・離設事故、誤嚥事故を受け、向陽園検討チームを立ち上げ、	
	支援内容、勤務形態、設備修繕についての話し合いを月1~	
	2回のペースで行い、順次改善に努めた。	
地域交流を通した地域貢献	・地区内商店での買い物を毎週定期で実施した。	0
ニーズに応じた研修の実施	・強度行動障害支援者養成研修、山形県社会福祉研修センタ	0
	一研修への派遣を行った。	
	・法人内居宅介護事業所より、介護技術に関する助言を仰い	
	た。	
コミュニケーションの活性化	・リーダー職員会議、入所職員フロア会議、生活介護職員会	0
	議と各階層の会議で意見の集約を行い、方針作りに活かして	
	いる。	
	・4月の誤嚥事故後、8月の新型コロナウイルスクラスター	
	後、10月に離設事故から1年を迎えるにあたり、職員より業	
	務中の不安点やヒヤリハットについてアンケートを実施、そ	
	の後の方針作りに活かしている。	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
リハビリ活動	・理学療法士の助言の下、活動を提供していたが、感染状況	Δ
	により休止となる。	
	・今後新たなリハビリ活動の提供を検討する。	
入浴	・車いす浴が必要な方に、機械浴での入浴を実施。	0
	・スペースの問題で、立位が保てなくなった方への入浴提供	
	が難しい状況にある。	
調理活動	・感染防止と誤嚥に配慮して実施、企画の段階で、個々の食	0
	事形態と、どの職員が担当し提供するのかを管理栄養士と協	
	議の上資料作成している。	

乗馬活動	・乗馬の際、サイドウォーカー職員が必要な方も多く、体制	Δ
	の課題から十分な実施ができなかった。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	22	23	22	23	23	22
実利用者数	800	804	793	782	788	761
利用率(%)	90. 9	87. 4	90. 1	85. 0	85. 7	86. 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	23	22	23	23	20	23	269
実利用者数	797	734	830	784	682	837	9, 392
利用率(%)	86. 6	83. 4	90. 2	85. 2	85. 3	91.0	87. 3

・8月新型コロナ感染症のクラスターが発生し在宅の方へのサービス提供が出来なかった。

④諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
検討チーム	月1回程	12 回	離設事故、誤嚥事故を受けて、安心安全を
			守るための支援・勤務の在り方について検討
			し、改善策を周知実行する。
リーダー会議	月1回	12 💷	サブリーダー職以上、および看護師、管理
			栄養士が事業所全体の課題を協議検討した。
フロア会議	月1回	10回(他コロナ対応	夜勤チームが支援の課題、各部門の取り組
		で書面開催2回)	みについて協議検討した。
生活介護会議	月1回	10回(他コロナ対応	日勤チームが支援の課題について協議検
		で書面開催2回)	討を行った。

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容			
5	19	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (20名※エリア合同)			
5	20	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (13名※エリア合同)			
5	23	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (22 名※エリア合同)			
6	2	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (9名※エリア合同)			
8	11	夏祭り⇒コロナウイルス感染症対応のため中止			
10	11	応急処置・防護服着脱研修 (33 名※エリア合同)			
10	16	本沢地区文化祭出展			
3	14	権利擁護研修会 グループワークにて (14名)			

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
3	22	火災避難訓練(日中帯)

3, 課題

- ・日々の支援について、全体で振り返る機会が取れずにいる。次年度は定期的に振り返りの時間を確保できるよう、勤務シフトも工夫していく。
- ・園内3か所に分かれての活動提供となっている中で、体育館を使用するグループの夏場の活動場所の課題(冷房未設置のため高温となり使用できない)、せせらぎ寮デイルームを使用するグループの活動開始時間の課題(入所者の生活時間に外部から生活介護利用者が到着してしまう)について、検討を進めていく。
- ・入所施設での生活介護の為、施設内で感染症が発生する度に在宅の方が利用できなくなり、安定的に継続したサービス提供に対する要望が寄せられている。エリア内で工夫しながら、在宅のご利用される方にも安定的にサービス提供が出来るようにすることが課題とされる。

≪Ⅳ-1-③ 障害者支援施設向陽園(障がい者乗馬)≫

報告者:吉田 一斉

1. 当初目標

①1年をとおして、安全で楽しい乗馬体験を提供する

2. 実施状況

①法人内利用

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
向陽園	0名	21 名	28 名	34 名	0名	2名
デイサポートさくら	0名	11 名	24 名	13 名	0名	18 名
デイサポートたんぽぽ工房	0名	0名	8名	8名	0名	30 名
デイサポートにじいろ	10 名	0名	10 名	11 名	0名	14 名

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月
向陽園	2名	0名	0名	0名	0名	0名
デイサポートさくら	27 名	4名	0名	0名	0名	0名
デイサポートたんぽぽ工房	16 名	16 名	0名	0名	0名	0名
デイサポートにじいろ	14 名	0名	0名	0名	0名	0名

②法人外利用

学校•保育園名

来所日

こまくさ学園	5月17・18・19日
蔵王めぐみ幼稚園	5月20日
はらっぱ保育園	6月13日
ゆきわり養護学校	9月7・16日
山形市立南沼原小学校	9月30日
山形市立第三小学校	10月14日
こまくさ学園	10月18・19・21日

3. 評価及び課題

- ・法人外利用については、エコファームもとさわ職員に協力してもらいながら、常に3名体制で安全な受け入れを行うことができた。
- ・法人内利用については、コロナウイルス感染症対策や事業所の職員体制の課題で、乗馬活動を楽しみにされている方々に対し、十分に提供できていない現状がある。
- ・ 厩務員の労働時間超過が常態化しており、今後厩務員の採用についても検討が必要である。あわせて、長期的に事業として障がい者乗馬の在り方については、法人として検討が必要である。

≪Ⅳ-2 向陽園ショートステイサービス≫

事業種別:短期入所、定員:4名

日中一時支援、定員8名

報告者:吉田 一斉

1. 当初目標

- ①1人ひとりの尊厳を守り、自己決定できるように支援を行って行く。
- ②質の高いサービスを提供し、利用者の生活が充実するように支援する。
- ③リスクマネジメント強化を図る。
- ④地域の一員とした役割を果たせるようにする。
- ⑤緊急度の高い方、他の事業所等では対応できない支援の難しい方々の受け入れを積極的に行う。
- ⑥日々研鑽し、福祉のプロとなる事を目指す。
- ⑦お互いを尊重、信頼して、働きやすい環境を作る。

2, 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
1人ひとりの尊厳を守り、自	・利用期間中、ご本人の意思の尊重、自己決定の機会を作り、	0

己決定できるように支援を行っ	ご自身のペースで生活できるように支援を実施した。	
て行く。	・荷物管理を適切に行うために、短期入所利用者専用の荷物	
	保管場の設置、洗濯の仕分けを行った。	
質の高いサービスを提供し、	・利用期間中、ご利用の日中活動事業所との情報交換、共有	0
利用者の生活が充実するように	を行い、統一した支援を実施した。	
支援する。	・利用期間中にご本人の状況が変化した際は、担当者会議を	
	開催し、支援の再構築を実施した。	
リスクマネジメント強化を図	・離設事故、誤嚥事故を受け、向陽園検討チームを立ち上げ。	0
る。	支援内容、勤務形態、設備修繕についての話し合いを月1~	
	2回のペースで実施し、順次改善を実行している。	
	・入所施設本体と同様のセキュリティシステムで、夜間の安	
	全を確保している。	
	・8月のクラスター発生を受け、改めてBCPの改訂を行っ	
	<i>t</i> ≥。	
地域の一員とした役割を果た	・緊急度の高いケースの受け入れ、施設入所待機の方の長期	0
せるようにする。	利用を行った。	
	・新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮し、別棟にて休日	
	に日中一時支援の受け入れを行った。	
緊急度の高い方、他の事業所	・支援困難な方の受け入れを行うための、事前の登録制の準	Δ
等では対応できない支援の難し	備は次年度の課題である。	
い方々の受け入れを積極的に行		
う。		
日々研鑽し、福祉のプロとな	・強度行動障害支援者養成研修、山形県社会福祉研修センタ	0
る事を目指す。	一研修への派遣を実施した。	
	・法人内居宅介護事業所より、介護技術に関する助言を仰い	
	た。	
	・支援力部門によりケース検討会を随時実施した。	
お互いを尊重、信頼して、働きや	・リーダー職員会議、入所職員フロア会議、生活介護職員会	0
すい環境を作る。	議と各階層の会議で意見の集約を行い、方針作りに活かして	
	いる。	
	・4月の誤嚥事故後、8月の新型コロナウイルスクラスター	
	後、10月に離設事故から1年を迎えるにあたり、職員より	
	業務中の不安点やヒヤリハットについてアンケートを実施。	
	その後の方針作りに活かしている。	

②利用状況

	4 月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30

実利用者数	58	19	0	0	0	0
利用率(%)	46.8	15. 3	0.0	0.0	0. 0	0.0

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	0	0	0	15	29	30	151
利用率(%)	0. 0	0. 0	0.0	12. 1	25. 9	24. 2	10. 3

④諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
検討チーム	月1回程	12 回	離設事故、誤嚥事故を受けて、安心安全を
			守るための支援・勤務の在り方について検討
			し、改善策を周知実行する。
リーダー会議	月1回	12 回	サブリーダー職以上、および看護師、管理
			栄養士が事業所全体の課題を協議検討した。
フロア会議	月1回	10回(他コロナ対応	夜勤チームが支援の課題、各部門の取り組
		で書面開催2回)	みについて協議検討した。
生活介護会議	月1回	10回(他コロナ対応	日勤チームが支援の課題について協議検
		で書面開催2回)	討を行った。

⑤行事、研修等の実施状況

F	日	内容
5	19	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (20名※エリア合同)
5	20	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (13名※エリア合同)
5	23	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (22 名※エリア合同)
6	2	救急法研修 講師:日本赤十字社山形県支部 (9名※エリア合同)
8	11	夏祭り⇒コロナウイルス感染症対応のため中止
10	11	応急処置・防護服着脱研修 (33 名※エリア合同)
10	16	本沢地区文化祭出展
3	14	権利擁護研修会 グループワークにて (14名)

⑥非常災害に対する訓練の状況

F	日	内容
3	22	火災避難訓練(日中帯)
3	28	火災避難訓練(夜間帯図上訓練)

3, 課題

・地域生活支援拠点等の緊急時受け入れの機能を果たすため、事前登録制の整備(事前の綿密なアセスメント、受け入れ体制の検討)、施設入所者との動線が交わらない工夫、勤務者増員の検討を、次年度議論する必要がある。

・通常の受け入れに際して、感染症予防の観点より体調の変化など事前のやり取りを十分に行い、 互いに安心してご利用いただけるようにする。

≪Ⅳ-3 グループホーム支援センター向陽園≫

事業種別:共同生活介護、定員:17名、契約者数:17名

報告者:小林 裕子

1. 当初目標

- ①ご本人らしく生活できるようなホームつくりに努める。
- ②安心かつ健康に日々の生活が過ごせるようなQOLの向上に努める。
- ③安全かつ快適な生活が出来る環境を整備する。
- ④新型コロナウイルス感染予防を徹底する。
- ⑤地域との協力体制「たすけあい」の構築に努める。
- ⑥地域生活を支える人材育成に努める。
- ⑦職員間の相互理解を深め、風通しの良い職場つくりに努める。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価 (評価 のできた Oだいたいできた Δ 一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
ご本人らしく生活できるよう	全入居者のケース会議、プラン会議は実施したがご本人の	Δ
なホームつくりに努める。	参加はできていない。	
	コロナ禍ではあるが、体験や経験の場をつくし支援するこ	
	とができた。	
安心かつ健康に日々の生活が	日々の健康管理の徹底と体調不良時は早期に対応できた	0
過ごせるようなQOLの向上に		
努める。		
安全かつ快適な生活が出来る	事故報告、ヒヤリハットの情報共有、事故分析と対応が不	Δ
環境を整備する。	十分であった	
新型コロナウイルス感染予防	日々の健康観察・予防に向けた取り組み(換気・手洗い・消	Δ
を徹底する。	毒など)は徹底していたが、12月に1ホームでクラスター	
	が発生した。	
地域との協力体制「たすけあ	新型コロナ感染防止のため、地域との交流が出来なかった	×
い」の構築に努める。		

地域生活を支える人材育成に	事業所、ホーム会議の開催、事業所内勉強会を定期的に開催	0
努める。	することができた	
職員間の相互理解を深め、風	世話人も含めた会議や研修会などをとおして、相互理解やコ	0
通しの良い職場つくりに努め	ミュニケーションを図った	
る。		

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	500	511	502	515	503	488
利用率(%)	98.0%	96. 9%	98. 2%	97. 7%	95. 4%	95.6%

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	516	498	486	497	468	520	6, 003
利用率(%)	97. 9%	97. 6%	92. 2%	94. 3%	98. 3%	98. 6%	96. 7%

- ・年間を通し、退居される利用者はなく、空床がなかった。
- ・ゴールデンウィークやお盆、年末年始休暇時の他、週末帰省中に新型コロナに感染、濃厚接触者となった方が、自宅待機となった月は利用率が下がっている。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
事業所会議 月1回		12 回	・支援員間での支援、業務についての情報共有、
			問題提起と検討
			・研修報告(復命)
			・リスク・ヒヤリハット・にやりほっと報告と対
			策の検討
ホーム会議	月1回	12 回	・支援員、世話人での支援、業務についての情報
			共有と確認
ケース会議	偶数月	6 回	・利用者の状況確認とプランの進捗状況確認
臨時ケース会議		随時	・課題の共有と対応の検討

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容
5 4		BBQ(利用者 16 名、職員 6 名、他 3 名参加)
5	13	事業所研修会「相談と地域生活支援拠点の役割」講師相談心音會田所長
		(支援員6名参加)
5	26	ご家族との懇談会(ご家族 7 家族、職員 7 名参加)
6	7	事業所研修会「救急蘇生法」(職員7名、他13名参加)
6	28	事業所研修会「中山サニーハウス見学と意見交換」講師GHなかやま寺西所長(職

		員7名参加)
7	7	事業所研修会「最上学園における体罰事件の検証と権利擁護について」講師月の
		ひかり村上所長(職員7名、他13名参加)
10	16	芋煮会(利用者 15 名、職員 6 名、他 3 名参加)
10	26	事業所研修会「利用者とのコミュニケーションについて」講師向陽園吉田園長(職
		員7名参加)
11	22	事業所研修会「障がいを持つ子の親の想いと障がい者と関わる事業者の想い」
		講師特定非営利法人結代表理事笹原京子氏(職員 10 名、他 14 名参加)
3	19	新年会&感謝祭(利用者 15 名、職員 5 名、他 3 名参加)

⑥非常災害に対する訓練の状況

	F.	日	内容
5 13 火災通報設備の確認と緊急連絡網を使っての招集訓練		13	火災通報設備の確認と緊急連絡網を使っての招集訓練

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項		
3 1		・事業所第三者評価の取り組みにつ	・投薬事故については、命に係わる事柄であ		
		いて	るため未然防止に努めること		
		・事業所状況について(利用者数・利			
		用者構成、職員数・勤務体制等)			
		・苦情、事故等について報告			

3, 課題

- ・災害時に向けて地域との協力体制の構築を図っていく必要があるが、新型コロナ感染防止のため、 取り組みが停滞してしまった。
- ・グループホームを利用されている方々の年齢が高く、また、障がいも重くなっており、介護力や支援力の向上が求められる。関わりの中心を担う世話人等の高齢化が課題である。

≪Ⅳ-4 エコファームもとさわ≫

事業種別:就労継続支援A型、定員:10名、契約者数:5名

報告者:吉田 一斉

1, 当初目標

- (1)働く権利を護れる職場としての、確かな社会資源となる
- ②各従業者のニーズにそって、やりがいのある職場づくりをめざす
- ③病気やケガの予防に努める
- ④地域のニーズに合わせた対応を行う

- ⑤ (中期目標) 福祉的就労、8050問題等地域の福祉課題に対応するため、新たな活動メニューを検討する
- ⑥事業所の経営状況や、製品の製造・販売全般に関しての情報や知識を共有する
- ⑦仕事と家庭生活の両立ができる職場づくりをめざす

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
働く権利を護れる職場とし	・触法の従業員の生活について、見守り助言を行った。	
ての、確かな社会資源となる	・人とのつながりを意識し、作業活動以外にも食事会など楽	0
	しみの機会を提供した。	
各従業者のニーズにそって、	・個々の役割の分担を明確にし、各作業工程で責任をもって	
やりがいのある職場づくりを	業務していただいた。	0
めざす	・従業者(利用者)をチェーンソー講習会に派遣した。	
病気やケガの予防に努める	・おもに休憩時間の新型コロナウイルス対策に不十分な部分	
	がありクラスター発生の要因となった。	×
	・作業中のケガについて、要因を分析し、声掛けや作業手順の	
	見直しを実施した。	
地域のニーズに合わせた対	・地域企業との協働、地域森林組合との協働による薪ストー	0
応を行う	ブの提供を実施している。	
(中期目標) 福祉的就労、80	・山形市社会福祉協議会との協働を実施した。	
50問題等地域の福祉課題に	・新たな活動メニューの検討はできていない。	Δ
対応するため、新たな活動メニ		
ューを検討する		
事業所の経営状況や、製品の	・予約表、出荷表の形式を整備し、毎月生産目標を確認、共有	
製造・販売全般に関しての情報	した。	0
や知識を共有する	・顧客名簿をデータベース化し、前年度販売実績も踏えるこ	
	とで、年間を通じた計画的な生産体制の共有を図った。	
仕事と家庭生活の両立がで	・職員、従業員(利用者)双方について、計画的な有給休暇の	0
きる職場づくりをめざす	取得を進めた。	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
チャレンジ就労への活動の場	・山形市社会福祉協議会でのチャレンジ就労の枠組みを活	
の提供	用し、引きこもりの方、活動場所を求めている方へ、活動と	

	場を提供した。	0
	・継続的にチャレンジ就労に参加する方の中から、パート支	
	援員として雇用に繋げている。	
サマータイムの導入	・熱中症予防と作業効率向上のため、サマータイムを試験的	0
	に導入。令和5年度より運営規程を改訂し、正式導入とする。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	18	19	22	20	20	20
実利用者数	92	92	105	98	54	97
利用率(%)	51. 1	48. 4	47. 7	49. 0	27. 0	48. 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	20	19	19	21	238
実利用者数	98	97	97	86	74	86	1, 076
利用率(%)	49. 0	48. 5	48. 5	45. 3	38. 9	41.0	45. 2

- ・収支のバランスをとる為、定員を充足することが出来なかった。
- ・8月にクラスターが発生し、利用率が低下した。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
事業所会議	月1回	11 回	事業進捗状況と利用者状況の確認・共有

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容
10	13	事業所内研修「障がいの理解」(参加4名)
2	24	事業所内研修「作業中のけが、事故防止に向けた安全講習」(参加7名)
3	16	慰労会

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
10	24	火災避難訓練

3, 課題

- ・作業場の火災発生など、条例等に対応できていない箇所について、専門業者への改修を進めていく 必要がある。併せて、老朽設備の改修と作業環境の向上を中長期的に検討していく必要がある。
- ・通院、休業を伴う怪我、事故が複数発生した。危険を伴う作業であることを職員、従業者で改めて 認識し、朝礼時や作業中に声掛け確認や見回りの徹底を行っていく。
- ・定員を充足できない状況が続いている。定員を充足した上で最低賃金をお支払いするために、新規 事業に取り組む、もしくは就労事業の事業種別の検討が必要である。

≪Ⅳ-5 デイサポートさくら≫

事業種別:生活介護、定員:20名、契約者数:23名

報告者:深瀬和美

1, 当初目標

- ①利用者の権利・尊厳が守られ、利用者にとって分かりやすい選ぶ楽しみのある事業所を目指す
- ②利用者を主体とした細やかな支援と社会参加の機会や地域との繋がりを保障する
- ③健康で快適な生活が送れるよう清潔で安全な環境をつくる
- ④地域・関係機関との連携をとおして将来的に事業所が地域の資源となることを目指す
- ⑤共通目的を持ち多様性を活かしたチーム力を高める
- ⑥自発的・主体的な仕事を通し「働きがい」を高める

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

できていない)		
目標	取り組み	評価
利用者の権利・尊厳が守られ、	・利用者会議(プログラム会議、語ろう会)を毎月実施した。	
利用者にとって分かりやすい選	利用者自身が困っていること、苦情、要望などを自由に発言	
ぶ楽しみのある事業所を目指	する機会となった。寄せられた意見を事業所運営やプログラ	
す。	ムに反映させた。	
	・活動がマンネリ化しているため、活動種目の見直しと新た	
	な活動種目の提案を行った。地域公民館を活用した活動や午	
	後活動時間での薪作業を実施することができた。	
	・さくらるるぶ(グループ外出)を作成し、年度初めに利用	
	者から外出コースを選んでいただいたが、コロナ感染拡大に	
	より外出先の変更やエリア事業所クラスター発生により実	
	施できないコースがあった (23 名中 12 名実施)。	
	・コロナ禍により、人との繋がりが疎遠になっていることか	Δ
	ら、Z00M を活用したオンライン交流会を行った。法人内の事	
	業所(ちとせんぼ)と企画し、利用者を含めた実行委員で会	
	議を行いながら丁寧に準備を進め、紹介動画やゲーム、ダン	
	スを行った。初めての取り組みであったが多くの方に楽しん	
	でいただける会となった。	
	・余暇時間に、利用者間トラブルが多いことから、余暇時間	
	の過ごし方の見直しと検討を行った。雑誌や DVD の設置とと	
	もに、個別に過ごせる空間を設けた。利用者自身がその時々	
	で選択し自由に過ごすことができた。	

	・クラスター発生により事業所研修として計画していた「意	
	思決定支研修」が中止となり、チェックリストによる調査分	
	析、「ソーシャルサポート・ネットワーク分析マップ」、「意	
	思決定支援プロセス見える化シート」作成等が実施できなか	
	った。	
	・クラスター発生によりコンセプトワーク研修が中止とな	
	った。	
利用者を主体とした細やかな	・地域交流を目的とした畑活動やピザ窯の製作を行った。活	
支援と社会参加の機会や地域と	動を通して、地域の方々とのネットワークを強化することが	
の繋がりを保障する。	 できた。	
	│ │・上山市自立生活支援協議会が企画するイベントに積極的	
	│ │に参加し、地域福祉事業所との交流やネットワーク作りに取	
	│ │り組むことができた(4月上山城ブルーライト、11月かみの	0
	 やまマルシェ)。	
	 ・アートの日ではアートサポートセンターのコーディネー	
	│ │トで東京都事業所や南三陸町事業所とオンラインワークシ	
	 ョップを実施した。オンラインを活用した交流活動により活	
	動の幅が広がり利用者にとって新たな体験の機会を提供す	
	ることができた。	
 健康で快適な生活が送れるよ	・居心地の良い空間作りを目的とした環境整備を実施した。	
う清潔で安全な環境をつくる。	暑さ対策のための設置型エアコン購入や産廃業者を定期的	
	ころの	
	・事故事例やひやりはっとから危険個所を洗い出し修繕及	
	び危険となる物品を保管できる倉庫の購入、設置を行った。	Δ
	・車両点検マニュアル、シートを作成し、車両使用前後での	
	点検を行い車両事故防止に向けた取り組みを行った。	
	・毎月事業所会議にて「リスク検討委員会だより」「当月の	
	事故報告」の読み合わせを行い、職員の危機管理意識を高め	
	事故防止に努めたが、通院が必要な事故が発生した。	
地域・関係機関との連携をと	・上山自立生活支援協議運営委員定例会議に参加し意見交	
おして将来的に事業所が地域の	本田日立工石文版	
資源となることを目指す。	探さ打いながら、地域味趣、地域エ冶文版拠点等の歪幅にフート いて検討を行った。	
大mmになることと口III 7 o	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	0
	を図ることができた	
	・事業所が地域資源の1つとなることを目的として、地域休	
	日イベントでの事業所敷地貸出等を行った。	
	ロイベンドでの事業が敖地貞山寺を打った。 ・コロナ感染拡大により、そばまつりを中止した。	
	- コロノ窓未加入により、てはましりを中止した。	

共通目的を持ち多様性を活か	・事業計画に沿って担当者を決め、目標を達成するための仕	Δ
したチーム力を高める。	組みつくりを行った。	
	・事業所研修はクラスター発生により未実施となった。	
自発的・主体的な仕事を通し	・事業計画係が中心となり計画を遂行する過程で新たな業	
「働きがい」を高める。	務スキルを学ぶことや達成感が得られた。	
	・日々振り返りを目的としたミーティングを実施し情報共	
	有を図ることができた。また、グループ LINE を活用しタイ	0
	ムリーな情報共有を図ることができた。	
	・ミーティングのあり方や内容を見直し支援者の不安や悩	
	みを共有し具体的な手立てを話し合いチーム力の向上に取	
	り組んだ。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	20	20	22	21	9	21
実利用者数	457	465	536	479	140	432
利用率(%)	114. 3	116. 3	121.8	114. 0	31. 8	102. 9

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	11	20	20	23	229
実利用者数	479	472	239	424	442	485	5, 050
利用率(%)	114. 0	112. 4	59.8	106. 0	110. 5	105. 4	100. 6

- ・8月、12月エリア事業所クラスター発生に伴い、手伝い等で休業となった。
- ・3月、利用者1名が長期入院のため休みとなった。
- ・2名の方が法人内他事所へ移られ契約終了となる(入所施設からの地域移行)

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
事業所会議	月1回	10 回	事業計画進捗状況確認、当月事故報告、課題検討
プラン会議	随時		モニタリングの報告、プラン案の検討
ケース検討会		2 🗓	支援困難事例の検討
利用者会議	月1回	10 回	事業所への苦情、要望の聞き取り

⑤行事、研修等の実施状況

月	日	内容
6	29	事業所研修「精神疾患について~事例検討~」
2	10	事業所研修「権利擁護、意思決定支援研修」

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日	内容
----	----

10	21	避難訓練(火災を想定)
2	24	避難訓練(土砂災害を想定)

3, 課題

- ・利用者間トラブルによる事故、ヒヤリハットが多数発生した。事故分析を通し、事故を未然に防ぐための具体的な対策を検討し実践する仕組み作りや職員1人ひとりの危機管理意識を高める学びやコミュニケーションを強化する必要がある。
- ・障がいの重い方々が利用される事業所として、権利擁護・意思決定支援についての研修を定期的に 実施する必要がある。
- ・行動の激しい方や高齢の方、てんかん発作など日常的に配慮が必要な疾患のある方など多様な方々が利用される事業所として、安全安心に活動できる環境つくり、専門性のある支援の実践が必要である。
- ・年齢の高い職員や多職種からの転職、地域の方が働く事業所であるため、職員個々の適性に合わせた業務分担、フォロー体制、学びを検討する必要がある。

≪Ⅳ-6 デイサポートたんぽぽ工房≫

事業種別:生活介護、定員:20名、契約者数:28名

報告者:深瀬和美

1, 当初目標

- ①自己決定の権利や尊厳を守り、ストレングスモデルに基づいた支援を実践する。
- ②「可能性に気づき、引き出す」専門性のある支援の実践と地域社会とのつながりを活かした取り組みを実践する。
- ③快適性、安全性のもと心地よく安心して過ごせる環境と仕組みをつくる。
- ④地域に誰もが集える居場所を提案し、実現に向けた調査を行っていく。
- ⑤笑顔が生まれる根拠ある実践のための学びを深め、チームの創造性を高める。
- ⑥ポジティブなコミュニケーシを通し業務の効率化を図る。
- ⑦事業所コンセプト「私らしく夢中になれる楽しいあたたかい場所」を発信し、たんぽぽアーティスト × 専門家プロジェクトの実践を行う。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
自己決定の権利や尊厳を守	・利用者会議(プログラム会議・たんぽぽ会議)を開催し、	
り、ストレングスモデルに基づ	事業所やプログラムについて要望を聞き、事業所運営やプロ	

いた支援を実践する。

グラムに反映させた。プログラムは、毎月創作活動で制作し 掲示した。

- ・行事については、実行委員会が中心となり企画、準備を行 うことで利用者が主体的に取り組めた。
- ・祝日営業の日には、ワークショップを中心にサービスを提供したが、普段体験できない活動を行うことができ、利用者の満足度が高かったのではないかと思われた(5、7、9、10、11、1、2、3月実施、8月はクラスター発生により中 Δ 止)。
- ・「権利を知り、私を語る」をテーマに利用者研修を実施した。動画やイラストを使用し「権利」を説明し、ゲーム形式で好きな物選びを通して「私」のことを発表してねらった。回数を重ねる毎に積極的に参加し言葉や作品で堂々と主張する姿が見られた(6、10、1、2月実施、8、12月はクラスター発生により中止)。
- ・山形市役所選挙管理員会に「出前講座」を依頼し、「選挙権」について知り、体験する利用者研修を実施した。研修の様子を山形新聞で掲載していただいた。在宅利用者家族より後日、研修での経験をきっかけに初めて選挙に行くことができたとのお話をお聞きしている。
- ・村山総合支庁体験販売会への参加し、地域の中で働く経験を体験していただいた(5、6、7、10、11、2月)。
- ・意思決定支援、権利擁護について研修を企画していたが、 クラスター発生に伴い中止となり、それにより「チューナー メモ」の取り組みも未実施となった
- ・モニタリング月での本人参加の会議は、活動時間で実施 していたが、8月、12月はクラスター発生により未実施となった(25名中11名が未実施)。

「可能性に気づき、引き出す」 専門性のある支援の実践と地域 社会との繋がりを活かした鳥 組みを実践する。 ・様々な公募展の情報提供を行い、地域展示会(市民展、県 美展)や企業のデザインコンテストなど様々な公募展へのチャレンジをサポートした。受賞者も多く、喜びや達成感が 日々の創作意欲向上につながり、ご家族の喜びにもつながった。

Δ

・「わくわく・ひょうげんの泉」での企画展「たのしいたんぽぽおしごと展」を開催した。展示会の名前を利用者会議で話

し合い、展示準備も活動時間 で行い利用者が主体的に取 り組むことができた。来場者 からも事業所の雰囲気が伝 わる展示会であったと好評 をいただいた



0

・文化庁補助事業「カルチュラルプラットフォームビルダー育成講座からだのひろがりダンスワークショップ(身体表現)」に参加(6月7月)した。オンラインであったが、講師との対話を身体で自由に表現していた。触覚過敏の特性をお持ちの方も自らひとに触れようとするダンスをするなど、新しい表現の発見の機会となった。

・満足度調査に加え延長利用やショートステイなど利用者・ 家族が必要とするサービスについて調査し「宿泊体験」を実 施予定であったが未実施となり、第三者委員懇談会も未実施 となった

快適性、安全性のもと心地よく安心して過ごせる環境と仕組みをつくる。

- 1F和室破損個所の修繕工事を行った。
- ・BCP、マニュアルの見直しと作成を行った。
- ・8月クラスター発生に伴い長期休業となったことで、在宅家族より長期休業は困るとのご意見をいただいた。12月クラスター発生時は、エリア事業所で協力したことで営業を継続し利用者、家族の負担を軽減することができた。
- ・コロナ感染予防についてのお願いや発生時の対応について説明、報告を電話連絡や文書にて丁寧に行った。
- ・毎月事業所会議にて「リスク検討委員会だより」「当月の 事故報告」の読み合わせを実施し事故防止に努めたが、利用 者の怪我に繋がる事故の発生や車両破損事故が発生した。

地域に誰もが集える居場所を 提案し、実現に向けた調査を行っていく。

- ・事業所敷地でマルシェ(7月)を開催し作品販売を通して 地域の方と交流を行うことができた。
- ・毎月1回地域公民館を活用したサークル活動(缶バッチつくり)を実施した。普段の創作活動には参加できなかった方も環境が変わったことで初めて創作に取り組む様子も見られ新たな可能性を発見する機会となった。
- ・上町郵便局との交流活動として、絵を描いたプランターに

	花を植え置かせていただいた。毎日の水かけを通し、郵便局	
	を利用する方々と触れ合う機会となった。	Δ
	・ケアタウンやすらぎの里金井農園をお借りしての畑活動	
	を実施した。夏野菜の栽培や収穫を通して、達成感や充実感	
	につながった。また、ケアタウン入居者の方が栽培した野菜	
	収穫の依頼を受けその様子を福祉新聞や広報誌に掲載して	
	いただいた。畑活動を通して、様々な方々とネットワークを	
	つくる機会となった。	
	・山形市自立支援協議会生活支援部会に参加し、事業所に寄	
	せられた要望や課題を報告し意見交換している。	
	・地域マップの作成は未実施となった。	
	・事業所便りを定期的に作成し地域に配布することができ	
	なかった。	
ポジティブなコミュニケーシ	・業務マニュアルを見直し、業務の効率化を図った。	
を通し業務の効率化を図る。	・研修係が中心となり、職員が興味あること・身に着けたい、	Δ
	学びたいことの希望調査を実施したが、クラスター発生によ	
	り研修が未実施となった	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ©できた 〇だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

部できていない × できていない	, 1)	
計画内容	取り組み	評価
事業所コンセプト「私らしく	・「アーティスト×専門家プロジェクトの実践」として、デ	
夢中になれる 楽しい あたたか	ザイナー、アートサポートセンターとの担当者打ち合わせ会	
い場所」の実践	議を定期的に実施し、ワークショップの企画や計画進捗状況	Δ
	の確認とスケジュール調整を行った。活動の中でワークショ	
	ップを実施し、新商品(エコバック・コースター)を制作し	
	た。また、利用者会議と共同しブランド名「tanpopomon」に	
	決定した。	
	・山形県工福連携製品開発等促進事業に参加しデザイナー、	
	企業、アートサポートセンターと共同し商品開発(鍋敷き)	
	を行った。	
	・新たな製品化ボランティア受け入れと身近な協力者、サポ	
	ーターとして活躍していただける体制つくりは未実施となっ	
	た。	
	・街中貸しブースを利用しての事業所展示会はコロナ感染拡	
	大により未実施となった。	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	20	20	22	21	9	21
実利用者数	450	449	512	468	183	471
利用率(%)	112. 5	112. 3	116. 4	111.4	41. 6	112. 1

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	21	20	20	20	23	238
実利用者数	472	468	375	434	462	526	5, 270
利用率(%)	112. 4	111.4	93.8	108. 5	115. 5	114. 3	110. 7

・8月、12月エリア内事業所でクラスターが発生したことに伴い手伝い等で休業となった。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
事業所会議	月1回	10 回	事業計画進捗状況確認、当月事故報告、課題検討
プラン会議	随時		モニタリングの報告、プラン案の検討
利用者会議	月1回	10 回	事業所への苦情、要望の聞き取り
プロジェクト会議	随時	4回	アーティスト×専門家プロジェクト、工福連携事
			業担当者会議。計画進捗状況確認及び具体的な実
			施計画の検討、ワークショップ企画等。

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容			
6	9	利用者研修「「権利を知り、私を語る~心を表すワーク、自分ってどんな人?ワー			
		ク~」			
8	25	利用者研修「「権利を知り、私を語る~自分ってどんな人?ワーク~」			
10	6	利用者研修「「権利を知り、私を語る~自分ってどんな人?ワーク~投票体験」			
11	9	選挙啓発出前講座			
2	10	事業所研修「権利擁護、意思決定支援研修」(職員7名参加)			

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	28	避難訓練(地震発生)
1 1	2 5	避難訓練(火災発生)

3, 課題

・同じような場面、状況での事故(ヒヤリハットを含む)が繰り返し発生している。要因分析、対策 案の検討の仕方とともに、職員1人ひとりに危機管理意識を持って支援にあたってもらえるよう意 識づけを行っていきたい。

- ・エリア内事業所でのクラスター発生による休業の際、利用者、ご家族から感染状況、事業再開目途の説明等が不十分ではないかというご意見や、長期間の休みになることにより利用者本人の生活、 家族の生活に不都合が生じることなどのご意見があった。感染症発生時における丁寧な説明、報告 と営業継続のための具体的な対策、エリア協力体制のあり方を検討する必要がある。
- ・新規利用希望の問い合わせがあるが、利用定員を超えているためお断りしている状況が続いている。
- ・在宅ご家族より16時以降も延長しての支援や生活介護事業所でのショートステイについて要望がある。地域で生活されているご本人・ご家族のニーズを調査し、自立支援協議会で意見交換を行いながら事業所で担うべき役割(サービス)と対応等を検討したい。
- ・アーティスト×専門家プロジェクトの実践について、打ち合わせ会議にアーティスト(利用者)本人も参加し意見を出せる場、機会が必要と考える。

≪Ⅳ-7 グループホーム支援センター心音≫

事業種別:共同生活援助、定員:36名

報告者:武田幹

1, 当初目標

- ①本人の能力や価値観を尊重し、「本人らしさ」を大切にしながら、利用者本人の自己決定を支える。
- ②一人ひとりの希望を詳細に汲み取り、生活の中での「自分で決める」「自分で選ぶ」を具体的に取り 入れていく。
- ③「利用者の自由」と「利用者の安全配慮」を両立させた質の高い支援を実施し、利用者の満足度の向上を目指す。
- ④地域住民とのふれあいを大切にし、自立支援協議会に積極的に参画して、地域福祉の向上を積極的に 推進する。
- ⑤誰もがチャレンジできる仕組みを構築し、職員一人ひとりの個性を活かした職場を目指す。
- ⑥心音で働く喜びを感じてもらえるよう、職員間のコミュニケーションを図る取り組みを工夫して取り 入れる。

2. 実施状況及び評価

① 目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない ×できていない)

目標 取り組み 評価

本人の能力や価値観を尊重	・個別支援計画作成会議に全利用者が参加できるよう準備	
し、「本人らしさ」を大切にしな	することができなかった。会話でのコミュニケーションが可	
がら、利用者本人の自己決定を	能な利用者に参加して頂き会議を数回実施した。	
支える。	・課題がみえた利用者の担当相談支援専門員に、小まめに情	Δ
	報を伝え連携を図り、必要時には担当者会議の依頼をした。	
	・4月にホーム会議時に、権利擁護及び虐待防止について、	
	支援員、世話人に資料を配布して再確認を行った。	
	・部署内研修や勉強会等は、感染症予防とクラスターを含め	×
	た感染者対応が続いたので実施することができなかった。	
一人ひとりの希望を詳細に汲	地域の方々がグループホームの様子を知ることができる	
み取り、生活の中での「自分で決	 仕組みは作ることができなかったが、広報誌を利用者と配布	Δ
める」「自分で選ぶ」を具体的に	する等、コロナ禍の中で可能な交流を図れるよう努めた。	
取り入れていく。		
安心安全の確保	・看護師と連携し、感染症の状況を常に確認し、迅速にワク	0
	チン接種を受けられるよう努めた。また、定期的にBCPを	
	見直し、最新の状況に適した計画を作成した。	
	・定期的には開催できなかったが、看護師より『精神疾患に	
	ついて』、介護支援専門員と訪問リハビリの職員より『介護	
	技術について』学ぶ勉強会を1回ずつ開催した。	
地域貢献の推進	「山形県ふるさとの川愛護活動支援事業」を申請し、いち	
	ごはうす近隣の須川清掃活動を行った。感染症の対応に追わ	0
	れてしまい、予定の半数の年2回の実施となった。	
人材の育成	・職員の要望に沿った各種研修に派遣することができなか	
	った。事例研究や部署内での勉強会も実施できなかった。	×
	・5分間読書として、サポート、月刊福祉、愛護ニュースや、	
	その他書物等の一部を読んでもらえるよう、支援会議時に準	0
	備した。	
働きやすい職場づくり	・「イイネ!」カードを作成して、同僚の取り組みの中で「イ	
	イネ!」と思ったことを専用のメッセージカードに書き留め	0
	て送り合う取り組みを実施した。	
	・全世話人が集合する会議や研修を部署内で実施すること	×
	ができなかった。	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー部できていない ×できていない)

計画内容	取り組み	評価
サテライト型住居後の生活に	サテライト型住居後の生活について各関係機相談支援専	
ついて各関係機関とやり取りを	門やご家族とやり取りをしながら、ご本人と一緒に決めてい	0
しながら、ご本人と一緒に決め	けるように話し合いを実施した。	
ていく。		
担当業務の負担が大きくなっ	感染予防のため、ご本人と一緒に買いに行く機会は減って	
ていないか定期的に確認し、衣	しまったが、担当利用者のみの支援ではなく、衣類や生活用	
類や生活用品の購入、散髪等は、	品の購入、散髪等は、事業所内でチームとして取り組んで実	0
事業所内でチームとして取り組	施することができた。また、気軽に不足のもの等をお願いで	
んでいく。	きるように、『お願いカード』を作成し、必要なものが迅速	
	に準備できるようにした。	
定期的にBCPを見直し、最	クラスターが発生した際には計画に沿って迅速に対応す	
新の状況に適した計画にしてお	ることができた。計画通りに進まなかった部分もあったが、	
< ∘	実践を基に修正している。また、山形県知的障害者福祉協会	Δ
	では経験を通して得られたものを他事業所とも共有するこ	
	とができた。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	1, 005	1, 026	1, 055	1, 053	1, 023	1, 038
利用率(%)	95. 7	91. 9	97. 7	94. 4	91. 7	96. 1

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	1, 074	1, 042	1, 069	1, 040	974	1, 064	12, 463
利用率(%)	96. 2	96. 5	95. 8	93. 2	96. 6	95. 3	94. 8

- ・長期入院が1名、他短期間の入院が数名いた。
- ・4月~5月中旬まで1室空床となった。

④諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
支援会議	月1回	10 回	・支援員、看護師等の常勤職員間での情報の共
			有、課題の検討(経営会議内容報告、利用者状況
			確認、医務からの連絡、各係からの全体周知及び
			各ホーム会議の内容報告、部署内研修等)
ホーム会議	月4回	40 回	・支援員、世話人間での情報、課題の共有(各ホー
			ムの利用者状況確認、課題の集約、世話人との情

|--|

⑤行事、研修等の実施状況

月	日	内容			
6	30	事業所研修会「ケース記録について」			
7	28	事業所研修「虐待について」			
10	6	事業所研修「介護技術研修」			
		居宅介護事業所職員とリハビリ事業所職員2名にトランスファー(ベッド⇔車			
		いす)についていちごはうすにて実践してもらい勉強会を実施。			
2	20	事業所研修会「精神疾患について」講師小玉看護師			

⑥非常災害に対する訓練の状況

月	日	内容
6	5	水害を想定した避難訓練(いちごはうす)
6	25	水害を想定した避難訓練(れもんはうす)
7	9	地震を想定した避難訓練(来未・さくらんぼはうす)
3	4	地震を想定した避難訓練 (いちごはうす・れもんはうす)
3	18	火災を想定した避難訓練 (来未・さくらんぼはうす)

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

月日		内容	委員からの指摘事項
3	2 9	・事業所第三者評価の取り組みについて	
		・事業所状況について(利用者数・利用者構成、	
		職員数・勤務体制等)	
		・苦情、事故等について報告	

3, 課題

- ・7月~12月コロナウイルス感染者の対応が続き、部署内研修や勉強会が未実施となってしまった。 また、世話人全員を対象とした会議や勉強会も実施することができなかった。
- ・身体機能低下による転倒等で怪我をしてしまうことが続いた。利用者一人ひとりの身体状況をその時々で共有できるように努めていくとともに、介護技術に関する学びも全職員で実施していく必要がある。
- ・感染予防に努めることで、利用者にお願いすることや我慢してもらうことが増えてしまった。精神面でのフォローの他、令和5年度は、感染症の対応について状況が変化していく中で、感染予防に努めながら実施できる事柄をアイデアを出し合い、利用者の要望に応えていけるよう取り組んでいきたい。

≪Ⅳ-8 ショートステイサービス心音≫

事業種別:共同生活援助、定員:1名、契約者数:62名

報告者:武田幹

1, 当初目標

- ①利用者一人ひとりの新たな出会いを大切にし、他者との関係性が広がるよう支援する。
- ②自分の意志でまた利用したいと思ってもらえる事業所を目指す。
- ③「利用者の自由」と「利用者の安全配慮」を両立させた質の高い支援を実施し、利用者の満足度の向上を目指す。
- ④地域住民とのふれあいを大切にし、自立支援協議会に積極的に参画して、地域福祉の向上を積極的に 推進する。
- ⑤誰もがチャレンジできる仕組みを構築し、職員一人ひとりの個性を活かした職場を目指す。
- ⑥心音で働く喜びを感じてもらえるよう、職員間のコミュニケーションを図る取り組みを工夫して取り 入れる。

2. 実施状況及び評価

① 目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない ×できていない)

7 CE CO 1807		
目標	取り組み	評価
利用者一人ひとりの新たな出	・担当者会議にも積極的に参加して、相談支援専門員やその	
会いを大切にし、他者との関係	他関係機関との連携を図ることができた。	
性が広がるよう支援する。	・ショートステイ専用のボードを作り、情報をまとめて可視	
	化して共有を図った。	
	・定期的に利用されている方々の要望や意見等をお聞きし	
	ながら、より良い環境で過ごしてもらえるよう努めた。世話	0
	人とも連携し、毎日丁寧な清掃や洗濯を実施して、常に清潔	
	な環境で過ごしてもらえるよう努めた。	
	・清潔な居室環境で過ごしてもらえるよう世話人と連携し	
	て環境整備に努めた。利用者が気になってしまうものの情報	
	を共有し、事前に片付ける等の準備をして受け入れ対応をし	
	<i>t</i> =。	
・自分の意志でまた利用したい	日頃から利用者ご家族と連絡を密にしておくことで、利用	0
と思ってもらえる事業所を目指	時の状況や体調の詳細、その時々の要望を把握することがで	
す。	きた。	
・「利用者の自由」と「利用者の		
安全配慮」を両立させた質の高		
い支援を実施し、利用者の満足		

度の向上を目指す。		
誰もがチャレンジできる仕組	・職員の要望に沿った各種研修に派遣することができなか	
みを構築し、職員一人ひとりの 個性を活かした職場を目指す。	った。事例研究や部署内での勉強会も実施できなかった。	×
	・5分間読書として、サポート、月間福祉、愛護ニュースや、	0
	その他書物等の一部を読んでもらえるよう、支援会議時に準	
	備した。	
心音で働く喜びを感じてもら	「イイネ!」カードを作成して、同僚の取り組みの中で「イ	
えるよう、職員間のコミュニケ	イネ!」と思ったことを専用のメッセージカード書き留めて	0
ーションを図る取り組みを工夫	送り合う取り組みを実施した。	
して取り入れる。		

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない ×できていない)

計画内容	取り組み	評価
定期的にBCPを見直し、最	クラスターが発生した際にはすぐにショートステイの受	
新の状況に適した計画にしてお	け入れを中止し、ショートステイサービスを利用したことに	
< ∘	よって感染してしまう利用者はいなかった。また、利用予定	0
	日近辺の利用前の体調や行動情報等の聞き取りを丁寧に行	
	った。ショートステイサービスの利用者からグループホーム	
	入居者や職員が感染してしまうこともなかった。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	45	39	44	34	12	45
利用率(%)	150	125. 8	146. 7	109. 7	38. 7	150

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	42	43	35	36	39	42	453
利用率(%)	135. 5	143. 3	112. 9	116. 1	139. 3	135. 5	124. 1

- ・8月は「いちごはうす」でクラスターが発生してしまったため、利用率が低くなってしまった。
- ・利用者及び利用者家族がコロナウイルス感染症の陽性者、濃厚接触者になってしまい急なキャン セルになることもあった。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
支援会議	月1回	10 回	ショートステイの予約及び利用状況、その他相談
			支援事業所やご家族からの情報共有等
ホーム会議	月1回	10 回	世話人との情報共有等
(いちごはうす)			

⑤行事、研修等の実施状況

月	日	内容			
6	30	事業所研修会「ケース記録について」			
7	28	事業所研修「虐待について」			
10	6	事業所研修「介護技術研修」			
		居宅介護事業所職員とリハビリ事業所職員2名にトランスファー(ベッド⇔車			
		いす)についていちごはうすにて実践してもらい勉強会を実施。			
2	20	事業所研修会「精神疾患について」講師小玉看護師			

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容	
6	5	水害を想定した避難訓練(いちごはうす)	
3	4	地震を想定した避難訓練(いちごはうす)	

3, 課題

・定員が1名のため、利用希望全てには応えられずにお断りすることが毎月多い。また、予約があった人から順番に予約を入れているが、毎月予約開始日時から数十分後には8割程度が埋まってしまう状況であり、予約方法等の検討も必要である。

・同法人の短期入所事業所と連携して、多くの方に利用して頂けるようにしていきたい。

≪Ⅳ-9 児童デイサービス月のひかり≫

事業種別:放課後デイサービス、定員:20名、契約児童数:62名

報告者:村上 実

1, 当初目標

- ①意思決定支援、権利擁護の推進
 - (1) 経験をさせない、できない権利侵害の改善
 - (2) 意思形成支援、意思表出支援の充実
 - (3) 児童の意思を尊重した個別支援計画への反映
- ②サービスの質の向上

- (1)「発達支援の質の向上」を事業所として最優先の目的とする。
- (2) 放課後デイガイドラインの基本的役割の以下の実践
 - ・子どもの最善の利益の保障
 - ・インクルージョン後方支援
 - 家族支援
- (3) 今後法改正で示される、5領域の方向性を想定し準備していく。

③安心安全の確保

- (1) 新型コロナ感染症の感染状況を踏まえて、警戒レベルを日頃より確認していく。原則BCP計画 に沿って検討していくが、出来るだけ事業を継続するような方向性を持つ。
- (2) 月一で開催するデイ会議にて、ヒヤリハット等を全員で検証していく。また、見えてきた要因を 改善するための対策を講じていく。

④地域貢献

- (1) 政策提言活動で、学校と放課後デイの関係性の強化を図る。以て地域資源の質の向上につなげる。
- (2) 自立支援協議会こども部会への積極的な参画。
- (3) 地域の清掃活動や、公園等の清掃を児童と共に定期的に実施していく。

⑤人材の育成

- (1) 様々な研修会を持続的継続的に参加できるよう研修計画を立てる。
- (2) この仕事の楽しさ、やりがいを常に共有し発信できる職員集団を目指す。
- (3) 関係機関との対話を増やし、渉外力、交渉力、調整力、対応力を身に付ける。
- (4) 職場内研修を充実させる。特に権利擁護、インクルージョンの実践について活発な研修を行う。

⑥働きやすい職場づくり

- (1) 業務の平準化を目指す。
- (2) チームアプローチの重要性を常に確認する。
- (3) 時間外勤務の圧縮。そのための業務の効率化、省力化を目指す。
- (4) 課題を持ち越さないための仕組みづくり。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
意思決定支援、権利擁護の推	意思形成の土台形成期の関わりとして、コロナ禍での制約	
進	を受けてもできる限り通常の日課活動を実施し、経験の幅を	Δ
	広げてきた。	
サービスの質の向上	・発達障害特性理解をベースに、情報を収集し常に最新の情	
	報に更新しつつ、支援に活かしてきた。	
	・できるところから、グループ支援から個別支援等の対応を	Δ

増やしてきた。	
・他の放デイから、期中で月のひかりに利用移行してきた児	
童が増えている。	
・夏季に児童、職員の新型コロナの罹患が続き営業停止した	
が、可能な限り早期に事業開始することができた。感染情報	
やグレーな情報を把握できる関係性を家族と作ってきた。	Δ
・食物アレルギーについて、提供してしまう事故を受け防止	
策を検討し対策をしている。	
・自立支援協議会児童部会と共同し、「関係機関連携」に関	
して理解と実効性のある体制構築に向けて提言してきた。	
・山形県知的障害者福祉協会の児童発達支援部会の研修を	0
企画し、「放デイの在り方」について年2回研修し地域の児	
童関係事業所と研修を重ね連携を深めた。	
・オンラインでの派遣研修が増え、参加しやすくなり多くの	
研修に参加できた。	0
・山形県知的障害者福祉協会の支援力向上委員からのフィ	
ードバックも多く、色々な気付きが生まれた(年間のべ 12 名	
の職員参加)。	
・日々の振り返りを中心に、職員間のコミュニケーションを	
深めていきチームの意識を強くしてきた。	0
・職員間で同じ業務に取り組み、効率化を図ったが十分では	
なかった。	
	・他の放デイから、期中で月のひかりに利用移行してきた児童が増えている。 ・夏季に児童、職員の新型コロナの罹患が続き営業停止したが、可能な限り早期に事業開始することができた。感染情報やグレーな情報を把握できる関係性を家族と作ってきた。・食物アレルギーについて、提供してしまう事故を受け防止策を検討し対策をしている。 ・自立支援協議会児童部会と共同し、「関係機関連携」に関して理解と実効性のある体制構築に向けて提言してきた。・山形県知的障害者福祉協会の児童発達支援部会の研修を企画し、「放デイの在り方」について年2回研修し地域の児童関係事業所と研修を重ね連携を深めた。 ・オンラインでの派遣研修が増え、参加しやすくなり多くの研修に参加できた。・山形県知的障害者福祉協会の支援力向上委員からのフィードバックも多く、色々な気付きが生まれた(年間のべ12名の職員参加)。 ・日々の振り返りを中心に、職員間のコミュニケーションを深めていきチームの意識を強くしてきた。・職員間で同じ業務に取り組み、効率化を図ったが十分では

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 \odot できた \odot だいたいできた Δ - 部できていない \times できていない)

計画内容	取り組み	評価
活動内容の充実、施設外活動、	山形市片谷地に、インクルーシブスペース「コパル」が建	
屋内活動の見直し	設となり、開所当初から屋外活動場所として有効活用してい	0
	る。配慮された環境で伸び伸び活動できたことは大変大きか	
	った。	
関係機関連携	・放課後デイの役割として「連携」が明確化されていたが、	
	地域の実情としてほとんど、形骸化していた。特に高等部の	
	進路先への伝達の会議に、放デイはほとんど参加できていな	
	かった。継続した働きかけと、自立支援協議会の部会の方針	
	等と合わせて協働できたことは大きかった。結果、学校との	0
	話し合いの機会が本年度は大変多くなった。	
	・要対協対象児童の受け入れを積極的に行ってきた。家庭支	

	援課、児相、学校等とのケア会議が多く、できるだけ参加協力してきた。	
支援の質の向上	・感覚過敏の児童に対しての配慮について、当初、環境を別設定で対応をしてきたが、できない場合等を想定しつつ、耐性や適応力も考えながら柔軟に対応できたと考える。 ・自立課題を取り入れ、今まで不安定な時間が多かった児童に対し、分かりやすい活動を提供し安定に繋げた。	Δ
家族支援について	・コロナ禍で開催できなかった、家族を対象にした勉強会を 開催し進路について有益な情報を提供することができた。 ・児童の課題に対し、家族と情報共有をしながら課題解決に 向けた取り組みが行えた。	0

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	25	23	26	26	22	24
実利用者数	453	409	465	407	307	439
利用率(%)	90.6	88. 9	89. 4	78. 3	69. 8	91. 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	25	23	24	23	22	26	289
実利用者数	383	425	403	420	410	469	4990
利用率(%)	76. 6	92. 4	84	91.3	93. 2	90. 2	86. 3

- ・7~10月まで、感染状況により利用者の休みが多く稼働が上がらなかった
- ・コロナの影響が少ない月の稼働は通常とおりに実施できたと考える。

④諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
デイ会議	月 1回	10 回	日々の支援、ケース、業務の確認
プラン会議	月 随時	20 回	コロナ禍で開催できない月が多かった

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内。容
6	13	事業所研修「権利擁護研修①~虐待その背景~」(職員 12 名参加)
i	26	事業所研修「権利擁護研修②~虐待から意思決定支援へ~」(職員 12 名参加)
3	10	保護者・職員研修懇談会「グループホームについて」(保護者 11 名、職員 10 名参
		加)

⑥関係機関等との会議

会議名 開催頻度 年間出席数	内容
--------------------	----

要対協及び学校等	15 回	児童に関する情報共有、支援、対応等の協議等
との会議		

⑦非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
5	18	避難訓練
3	24	避難訓練 夜間想定

3. 課題

- ・個別支援計画について、プラン会議、更新面談、最新アセスへの更新等が予定通りにいかなかった。
- ・活動の見直し等が部分的にしかできなかったので、今後は計画的に実施していきたい。
- ・支援力向上等、強度行動障害支援者等研修で得られた情報を、現場にフィードバックする機会を作れなかったので、次年度は必ず反映できるよう体制つくりを行う。
- ・日々の振り返りの時間の精度が後半下がってしまったので、再度目的確認と、重要性を考えてい く。また、記録の取り方もポイントを抑えた内容としたい。
- ・保護者との伝達に関して何点か漏れがあり、同じことを指摘されてしまった。職員間でも情報共有がなく同じ内容を保護者へお聞きする場面もあった。改善策を早急に検討し実践していく。
- ・保護者との懇談会(ミニ勉強会等の開催)が1回しかできなかったので、次年度は3回程度開催していきたい。その際、月のひかりサービス利用外の利用者へも案内を出していきたい。

≪Ⅳ-10 ショートステイサービス月のひかり≫

事業種別:短期入所事業、定員:3名、契約者数:80名

報告者:村上実

1, 当初目標

- ①意思決定支援、権利擁護の推進
 - ・児童期の生活体験は、今後形成される意思を持つ体験の機会として大変重要になっている。家庭や 学校では体験できない機会の提供としての役割があることを自覚し支援を提供していく。
- ②サービスの質の向上
 - ・利用者が安心して利用できるよう、利用の際にはご本人とご家族の思いを丁寧に聞き取り、アセスメントを行う。
 - ・家族支援を個別の状況に応じてきめ細かく実践していく。
- ③安心安全の確保
 - ・感染予防対策を徹底する。
 - ・地域の感染状況をみながらできるだけ事業が継続できるように検討する。
 - 災害及び緊急対応の際の体制を構築する。
 - ・服薬等の事故Oを目指す。

4地域貢献

- ・この圏域にない資源なので、定員枠をフルに稼働しできるだけ多くのニーズを受け止めていく。 以てこの地域に貢献していく。
- ・地域定着支援拠点の緊急短期入所事業に児童は対象としないという現状で、できるだけニーズに 対応していくが、法人内外に児童期の短期入所資源の提供を働きかけていく。

⑤人材の育成

- ・通所機能と単独のショートステイを提供している事業所の職員として、これを強みとして幅の広い支援の視点と貴重な社会資源を担っている者として自信を付ける。
- 様々な研修会を持続的継続的に参加できるよう研修計画を立てる。
- ・この仕事の楽しさ、やりがいを常に共有し発信できる職員集団を目指す。
- ・関係機関との対話を増やし、渉外力、交渉力、調整力、対応力を身に付ける。
- ・職場内研修を充実させる。特に権利擁護、インクルージョンの実践について活発な研修を行う。

⑥働きやすい職場づくり

- ・業務の平準化を目指す。
- ・チームアプローチの重要性を常に確認する。
- ・時間外勤務の圧縮。そのための業務の効率化、省力化を目指す。
- ・課題を持ち越さないための仕組みづくり。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
意思決定支援、権利擁護の推進	・実践研修のテーマとしても掲げ、ショートステイを通して	
	できるだけ多くの体験を提供し心身の自立を目指し取り組	Δ
	みを行ってきたが、対象にしてきた児童の生活習慣が身に付	
	き始めた。さらに対象児童を増やして取り組んでいきたい。	
サービスの質の向上	・アセスメントの更新をしてきたが、服薬情報等は何度も確	
	認を要した。	
	・今年度は、今まで宿泊型のサービスが難しいといわれた行	Δ
	動障害のある児童へ利用勧奨し、利用に繋げてきた。必要な	
	場合は、遅番早番等を配置し利用に繋げてきた。	
安心安全の確保	・服薬の事故を防ぐため、チェック体制の強化を図った。ま	
	た、食物アレルギーの児童に対し、提供してしまう事故があ	
	り対策を強化してきた。	Δ
	・利用予定の児童の確認をデイの打合せ時に、複数のスタッ	
	フで確認し合う時間を設けた。禁止食物の掲示を分かりやす	

	くした。	
地域貢献	・コロナ禍で事業停止している事業所が多く、成人の一部の	
	方に向け利用を提供してきた。重度の方が多く、レスパイト	0
	的な提供が滞ることを防ぐ貢献ができた。	
	・地域生活支援拠点等の体制整備を進めている。	
人材育成	・オンラインでの派遣研修が増え、参加しやすくなり多くの	
	研修に参加できた。	
	・山形県知的障害者福祉協会の支援力向上委員からのフィ	0
	ードバックも多く、色々な気付きが生まれた(年間のべ 12 名	
	の職員参加)。	
働きやすい職場つくり	・日々の振り返りを中心に、職員間のコミュニケーションを	
	深めていきチームの意識を強くしてきた。	0
	・職員間で同じ業務に取り組み、効率化を図ったが十分では	
	なかった。	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 \odot できた \bigcirc だいたいできた \triangle 一 部できていない \times できていない)

計画内容	取り組み	評価
生活体験の提供	対象児童を想定し機会を捉えて提供してきたが、計画的に	Δ
	提供できる体制まではいかなかった。	
効率的な稼働	期中で、キャンセルが多く予定していた人員が埋まらない	0
	日が多く出た、声をかけて直ぐ埋まる時もあったが、減収に	
	なる月があった。お知らせを作り、予約をする際は十分学校、	
	通院等の予定を確認してからの予約にしてほしいとお伝え	
	すると、次月からのキャンセルが減った、稼働率 80%を超え	
	る月も出た。	
行動障害の児童の受け入れ	特性を踏まえて事前に対応を話し合い、必要な人員を配置	
	できるようにした。ほとんどが、あまり心配することもなく	0
	夜間も過ごせたことが良かった。家族も喜んでおり、新たな	
	体験を通して成長したと喜びを話されていた。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	27	30	30	27	24	28
実利用者数	95	108	114	88	77	112
利用率(%)	52. 78	58. 1	63. 3	47. 3	41. 4	62. 2

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	26	26	29	29	28	30	333
実利用者数	110	121	103	117	125	143	1, 313
利用率(%)	59. 1	67. 2	55. 3	63	74. 4	76. 9	60

- ・7、8月はコロナ関連で落ち込んだが、目標としていた6割稼働をなんとか達成できた。
- ・キャンセルが多い状況を、利用者への通知と調整で修正することができた。
- ・利用料未納者への計画的な回収を行ったが、全員への働きかけはできなかった。

4 諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
ショートステイ会	月1回	10 回	デイ会議後に、ショートステイのケース業務確認
議			している。

⑤行事、研修等の実施状況

F	日	内容
6	13	事業所研修「権利擁護研修①~虐待その背景~」(職員 12 名参加)
1	26	事業所研修「権利擁護研修②~虐待から意思決定支援へ~」(職員 12 名参加)
3	10	保護者・職員研修懇談会「グループホームについて」(保護者 11 名、職員 10 名参
		加)

⑥非常災害に対する訓練の状況

F	1 H	内容
3	24	避難訓練

3, 課題

- ・利用予約は前月 21 日締め切りとしているが、その時に設定した日のキャンセルが多く、3 名定員のところ、1 名になる日もあった。事前に余裕があれば、利用待機している方に入っていただいたりした。職員配置、食材準備等に影響が出てきた。今後、利用者側に体調不調以外の利用変更がないように予約時に再度丁寧にお伝えしていくようにしたい。
- ・行動障害の児童へ、N以外に遅、早で対応してきたが、日数及び対象児童が拡大すると職員の配置が厳しくなる恐れがある。
- ・二次性徴期、思春期に対応するため原則、同性介護で配置したいが、男女のバランスが難しい場合がある。
- ・朝の学校送迎で遠距離の送迎対応をしている。山形養護、高瀬小などの児童の場合は早番対応で行っているので午後の職員確保が難しくなっている。
- ・天童、北部圏域の児童に関しては、法人内の他のショートスティの利用を勧めていきたい。

≪Ⅳ-11 向陽園ホームヘルプステーション心音 ≫

事業種別:居宅介護、同行援護、行動援護、移動支援、契約者数:175名

報告者:武田 幹

1, 当初目標

- ①感染予防、事故防止に対しての意識を高め、地域から信頼される事業所を目指す。
- ②地域の最前線で、一人ひとりの生活の支えとなるよう支援を展開する。
- ③研鑽を積みながら専門的な支援を実践できる事業所を目指す。
- ④利用者が安心して社会参加しやすい環境の整備を提言していく。
- ⑤多くの利用者が外出を通して社会参加できる事業所を目指す。
- ⑥利用者のニーズに迅速に対応できる事業所の体制作りを行う。

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
感染予防、事故防止に対しての	コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、3 密を避けた	
意識を高め、地域から信頼され	支援を徹底して感染防止に努めて支援した。感染予防対策と	
る事業所を目指す。	して、事業所内・車内の消毒や換気、職員の検温・消毒を徹	
	底したが利用者と職員間での感染が、入浴支援を実施した際	
	に1回あった。	
地域の最前線で、一人ひとり	様々な障害特性や家庭環境、それぞれの持病を抱える利用	
│ │の生活の支えとなるよう支援を	 者の日常生活に影響がないよう、個々に適した支援に努めて	0
展開する。	いる。	
研鑽を積みながら専門的な支	・各種研修へ参加することができなかった。	×
援を実践できる事業所を目指	・ヘルパー会議後の時間を活用して部署内の勉強会を実施	Δ
す。	 したが、回数は少なかった。	
利用者が安心して社会参加し	ヘルパーの人材不足の課題は改善に至らず経過している。	
やすい環境の整備を提言してい	対応できる支援も限られてしまうため、中断しているケース	Δ
< 。	もある。日をずらしたり、回数を減らしていただいたりして	
	調整している状況が続いてしまっている。	
多くの利用者が外出を通して	様々な外出を通して社会参加できる機会を提供すること	
社会参加できる事業所を目指	ができた。	0
す。		

利用者のニーズに迅速に対応	・各相談事業所やグループホーム、ご家族などと連携を図る	
できる事業所の体制作りを行	ことで、緊急時の支援や様々なニーズに、可能な限り迅速に	0
う。	対応することができた。	
	・限られた職員で対応するため、ヘルパー自身のコロナウイ	Δ
	ルス感染や体調不良時には、利用者の要望に応えられない時	
	も多かった。	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
ソーシャルワークの実践	ご本人及びご家族の要望をお聞きしながら、希望に添え	0
	る支援内容となるようその都度ヘルパー会議で話し合っ	
	<i>t</i> =.	
	・限られた人材で希望を叶えるため、アイデアを出し合って	
	支援の工夫に努めた。	

③利用状況

	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	移動支援
4月	7 2		4 4	4 8	1 2 1
5月	6 8		5 4	4 6	109
6月	7 7		4 8	5 5	1 2 6
7月	6 5		5 7	4 8	1 1 7
8月	8 3		4 4	3 2	8 7
9月	7 2		4 0	4 5	100
10 月	6 5		4 4	5 2	1 1 1
11 月	6 0		4 0	5 1	1 1 4
12 月	6 6		4 0	4 9	1 0 5
1月	5 5		4 1	5 4	100
2月	4 9		3 3	4 6	8 0
3月	6 6		3 9	4 4	1 0 5
計	798		5 2 4	5 7 0	1, 275

[・]新規契約の要望に対してはできる限り契約を行い、利用に繋げている。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
ヘルパー会議	月1回	9回 経営会議内容報告、利用者状況の情報共有	
			内容の確認、事務員からの諸連絡

⑤行事、研修等の実施状況

F	月日	内容
9	17, 18	派遣研修「同行援護従業者養成研修」
10	29, 30	派遣研修「福祉有償運送運転者講習」
11	2	派遣研修「安全運転管理者講習」
1	17	事業所研修「身体拘束について」

3, 課題

- ・細やかな要望にも応えられるよう努めているが、1対1の支援ではリスクがあるケースもあり、どこまで対応が可能であるのか1つひとつ検討する必要がある。
- ・通院支援等で異性介護になってしまっている支援があり、排泄時の対応に課題を感じる。
- ・通院支援の要望が多い。早朝に通院予約をする必要があったり、一日を通して通院介助の日があったりと、要望内容の幅が広いため、支援の方向性等を再度確認しながら支援していきたい。
- ・契約数の増加に伴い、急な予定変更等に対応できない時がある。ヘルパーの負担も考慮して、優先度を考慮しながら調整していきたい。
- ・年度当初、週末利用の移動支援の要望に応えられないことが課題であった。利用回数を減らしてもらう等の工夫をして支援してきたが、余暇外出のすべての利用者の再開には至っていない。

≪Ⅳ-12 グループホーム支援センターみらい≫

事業種別:共同生活援助、定員:33名、契約者数:32名

報告者:村井 弘伸

1. 当初目標

- ①利用者の想いをくみ取る手立てと実践に努める
- ②利用者視点に立ち、本人のペースに合わせた生活の提供
- ③リスク管理の徹底と見直しを図る
- ④地域と協力し合える事業所作り
- ⑤専門職としての意識付けと自ら学べる環境作り
- ⑥報連相を徹底し、風通しの良い職場作り

2, 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価 (評価 \odot できた \bigcirc だいたいできた \triangle 一部できていない \times できていない)

目標	取り組み	
利用者の想いをくみ取る手立	・利用者自身が行きたい場所、やりたいことを選ぶことがで	

てと実践に努める	きるよう、常に利用者の声に耳を傾け、支援した。 ・GHひのきでは回覧板のやり取りなどで利用者自身が近 所の一員であることを自覚して過ごせるようにした。	Δ
TUDA HELETA ALON		
利用者視点に立ち、本人のペー	・感染防止を重要視したため、趣味や娯楽のための外出は中	
スに合わせた生活の提供	止し、同行しての外出は散髪などの最低限のものとなった。	
	必要物品は利用者の希望を聞きながら職員が代わりに購入	
	してきた。	
	・利用者が快適に過ごせるように、季節に合った環境整備を	
	行う。衣替えや寝具の入れ替え、加湿器の設置を季節に合わ	Δ
	せて行った。	
	・利用者の身だしなみについての意識を高め、気持ちよく過	
	ごせるように心がけた	
	・イベントや外出で得ていた「楽しみ」を、ホーム内で感じ	
	 てもらえるよう、月1回、ホームごとに利用者と決めたイベ	
	ントを実施した。花壇や畑作業、誕生会、、お食事会(メニュ	
	一などを取り寄せ出前で好きなものを食べてもらった)。	
リスク管理の徹底と見直しを	・感染防止のための基本動作の徹底(マスク着用、手洗い)、	
	ホーム内の消毒拭き、オゾン消毒器でのホーム内の空間の	
図る。		
	消毒の実施を行った。	Δ
	・避難訓練を6月、10 月にそれぞれのホームで実施してい	
	る。 	
	・事故報告検証を行いみらい会議で周知、事故の再発防止に	
	努めている。	
	・服薬に関してはチェック表を用いて飲み忘れ防止、世話人	
	と一緒に3回の読み上げ確認を行い安全、確実な服薬に努め	
	<i>t</i> =。	
	・毎月1日、15日の2回の公用車両点検の日とし、車両の安	
	全を確保した。	
	・体調不良者の早期発見、通院に繋げ、重症化を防ぐように	
	した。	
地域と協力し合える事業所作	・宮町地区清掃活動はコロナ感染防止のため行わなかった。	×
IJ		
専門職としての意識付けと自	・新人職員については、1か月間先輩職員が一緒に業務に入	
ら学べる環境作り	り、指導行った。	Δ
	・救急救命講習を行った。	
報連相を徹底し、風通しの良い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・みらい会議、世話人会議を毎月開催し、職員間での情報共	
職場作り	有につてめるとともに、毎日 15 時 30 分に夜勤者、遅番職員	0
TOWN SET OF	ロー・ C の のここ O に、 母口 TO M OV 刀 に 区到口、 住田 収良	

に集まってもらい、打合せ、申し送りを行った。

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
利用者の状況に合わせたサービ	コロナの状況を把握し安全が確認されるまでPPE対応	0
ス	としホームでの感染防止に努めた。	
	利用者のADLの変化に合わせた住まいの場の見直しを	0
	行った。	
ご家族へのお便り発送	毎月利用者の状況を写真も添えてご家族に送った。	0

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	925	911	882	918	938	951
利用率(%)	93. 4	89. 0	89. 0	89. 7	91. 6	96. 0

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	980	905	902	946	887	984	11, 129
利用率(%)	95. 7	91. 4	88. 1	92. 4	95. 9	96. 1	92. 4

[・]長期入院の方が1名

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催	内容
		数	
みらい会議	月1回	9回	法人内での決定事項の周知、事業所内での注意
			事項、支援について、事故防止について、事務連
			絡、医療についてなどの周知
世話人会議	月1回		各ホームの利用者状況の周知、業務についての
			確認事項

⑤行事、研修等の実施状況

J	月日	内容
6		支援のすり合わせ
11		救命救急講習

⑥非常災害に対する訓練の状況

月	日		内容
6	16	防災訓練	よつば
6	14	防災訓練	ひのき

6	23	防災訓練	つばさ、あすなろ
6	24	防災訓練	はなだて・すまいる
10	15	防災訓練	よつば
10	20	防災訓練	つばさ、あすなろ
10	21	防災訓練	ひのき
10	28	防災訓練	はなだて・すまいる

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

F	日	内容	委員からの指摘事項
2	23	・事業所第三者評価の取り組みについて	
		・事業所状況について(利用者数・利用者構成、	
		職員数・勤務体制等)	
		・苦情、事故等について報告	
3	19	・家族アンケート、事業所自己評価の集計結果に	・家族等からの意見や要望に対
		ついて(報告)	し、回答を行う役職を明確にす
			ること。
			・家族からの相談にたいして迅
			速に対応すること。
			・ご家族と担当職員との連携を
			強化すること。
			・適切な人材育成と働きやすい
			職場環境作りに努めること。
			・安全で快適な環境づくりに努
			めること。
			・夜間の安全の確保(ナースコ
			ール等の設置の検討)
			・移動の際の引き継ぎの徹底

3, 課題

- ・新型コロナクラスター発生や感染防止対策重視の対応となり、入居されている方には制限の多い生活となった。また、感染者発生によるゾーン分け、隔離等でホーム内、居室内のみの生活となった場合に、楽しみとなることを前もって準備しておくことも必要であった。また、必要最低限の外出になってしまい社会に触れる機会が少なくなっていることも課題とされる。
- ・利用者の必要物品の準備が遅れてしまう事や衣類など身の回りの物、身だしなみに関しての職員 の意識が低くご本人に不便をかけていることがあり、職員の意識改革と人材育成が必要と考える。
- ・今年度は服薬関係の事故、ひやりはっと報告が多く、再度マニュアルの見直し、周知を行ったが、 改善には至っていない。服薬については、特に気を付けて行わなくてはならない支援であるため、手 順、マニュアルだけでなく、意識を変える取り組みが必要と思われる。

- ・家族と担当職員とのやり取りが少なく「お便り」の発行のみになっている。次年度は、個別支援計画書提示の際には、サビ管と併せ担当職員が同席し、家族との意見交換ができるように取り組んで行く。
- ・GHでの生活ではあるが、生活の自由度や満足度が低く感じている。利用者個々に合わせた個別的な支援ができるよう、担当職員を中心としながら、チームとして支援を行って行く必要がある。

$\ll \mathbb{N} - 13$ あすなろショートステイサービス≫

事業種別:短期入所、定員:1名、契約者数:5名

報告者:村井 弘伸

1, 当初目標

- ①利用者の想いをくみ取る手立てと実践に努める
- ②利用者視点に立ち、本人のペースに合わせた生活の提供
- ③リスク管理の徹底と見直しを図る
- ④地域と協力し合える事業所作り
- ⑤専門職としての意識付けと自ら学べる環境作り
- ⑥報連相を徹底し、風通しの良い職場作り

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価 (評価 のできた Oだいたいできた Δ 一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
利用者の想いをくみ取る手立	・利用される方が、やりたい事を選ぶことができるよう、常	0
てと実践に努める	に利用者の声に耳を傾け、支援した。	
利用者視点に立ち、本人のペー	・ご本人、ご家族が安心して利用できるように、連絡帳で情	0
スに合わせた生活の提供	報を共有した。	
	・利用開始日にチェック表を用いて荷物の管理を行い、終了	
	時にチェック表と照らし合わせて荷物の確認をした。	
	・利用者が快適に過ごせるように、季節に合った環境整備を	
	行った。	
	・月1回、ホームごとに利用者と決めたイベントを実施し	
	た。イベント食で費用が発生する場合は事前にご家族にお伝	
	えして了解を得た。	
	・余暇時間の充実を、自室でDVD鑑賞や音の出る玩具など	

	1人ひとりの好みに合わせ提供した。	
リスク管理の徹底と見直しを	・コロナによるPPE備品の整備 (5ホーム分の物品確保)	0
図る	を行った。	
	・感染防止のための基本動作を徹底した(マスク着用、手洗	
	い、ホーム内の消毒拭き等)。	
	・事業所内でコロナ感染が疑われた際は事業所を閉鎖し、利	
	用者ご家族で感染が疑われた時は利用を休止していただく	
	など感染防止に努めた。	
	・6月、10月に避難訓練を実施した。	
	・事故の検証を行い事故の再発防止に努めた。また、ヒヤリ	
	ハット報告書の迅速な周知を行い、事故防止に努めた(毎日、	
	ミィーティングの際に周知を行った)。	
	・服薬チェック表を活用して飲み忘れ防止、世話人と読み上	
	げ確認をその都度行い安全、確実な服薬につとめた。	
	・体調不良時には迅速にご家族に連絡し、対応した。	
地域と協力し合える事業所作	・地域行事への参加はできなかった	×
IJ		
専門職としての意識付けと自	・新人職員に1か月同行指導をおこない同一支援が行えるよ	
ら学べる環境作り	うにした。	Δ
	・救命救急講習を実施した。	
報連相を徹底し、風通しの良	・毎月みらい会議、世話人会議を行い、世話人と支援員との	0
い職場作り	 連携強化に努めるとともに、利用者に快適に生活していただ	
	けるよう情報共有に努めた。	
	- 毎日 15 時 30 分に勤務者でミーティングを実施し、利用者	
	の状況を迅速に共有し、適切な支援が行えるよう努めた。	
	l	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
荷物の紛失防止	チェック表を用いた荷物の管理を行った。	0
快適な住まいの提供	オゾン消毒器を使用して居住空間の空気清浄に努めた。	0

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	30	23	26	28	15	29
利用率(%)	100	74. 2	86. 7	90. 3	48. 4	96. 7

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	24	14	28	26	28	31	302
利用率(%)	77. 4	46. 7	90. 3	83. 9	100	100	82. 7

・ショートステイを利用される方自身のコロナ感染や、ホーム利用者のコロナ濃厚接触者疑いなど のためにショートステイを休業する期間があった。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
みらい会議	月1回	9回	法人内での決定事項の周知、事業所内での注意
			事項、支援について、事故防止について、事務連
			絡、医療についてなどの周知
世話人会議	月1回		ショートステイ利用者状況の周知、業務につい
			ての確認事項

⑤行事、研修等の実施状況

	F.	日	内容
	6		支援のすり合わせ
Ī	10		救命救急講習

⑥非常災害に対する訓練の状況

F	日		内容
6	23	防災訓練	つばさ、あすなろ
10	20	防災訓練	つばさ、あすなろ

3. 課題

- ・新型コロナ感染の影響により、受け入れができない期間があった。また、今後においては感染状況やご本人、ご家族の体調面を確認しながらの受け入れを行って行く必要がある。
- ・同じ利用者が長期で利用されている状況。グループホームの利用も含め、ご本人・ご家族・相談支援事業所と連携しながら検討が必要と思われる。
- ・寝具の衛生管理に課題がある。オゾン発生器を使用し消臭や消毒を実施しているが、皆さんに気持ちよく利用して頂けるように対策を考え実施する。

≪Ⅳ-14 デイサポートちとせんぼ≫

事業種別:生活介護、定員:20名、契約者数:35名

報告者:中村 民子

1, 当初目標

- ①今日来てよかったと思えるような事業所づくり
- ②活動の質の向上
- ③安心、安全、清潔な事業所づくり
- ④地域と交流を図ることでちとせんぼを知ってもらう
- ⑤ニーズに応じた研修派遣と事業所研修を実施
- ⑥働きやすく、風通しの良い職場環境づくり

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

できていない)		
目標	取り組み	評価
今日来てよかったと思えるよ	・活動等の選択の場面や、個々人の思いを汲み取る際に、写	0
うな事業所づくり	真やカード・文字PC等個々に合わせた方法で取り組んだ。	
	・個別支援計画作成においては、モニタリングの場で利用者	
	が意見を伝えられるように写真や文字盤を用いながら、実施	
	した。	
	・活動プログラムや、食事の場面等、利用者の声が反映でき	
	る場面を増やした。食事については、食事を選んでもらえる	
	ようテイクアウト(年3回)を実施、6月はキッチンカーに	
	事業所に来てもらい、メニューを選び、食べる楽しみを提供	
	できた。	
	・権利擁護の推進のため、権利擁護委員会で作成した行動規	
	節のチェックシートに取り組むとともに、毎月曜日に倫理綱	
	領の読み合わせを行った。	
	・業務日誌のヒヤリハット、にやりほっとを職員間で共有し	
	<i>t</i> =。	
	・利用者と一緒に企画し、花見、夏祭り、芋煮会、クリスマ	
	ス会、お疲れさま会等の行事を行った。	
活動の質の向上	・利用時の満足度を上げるため、利用者からの意見を反映し	0
	た活動プログラムを計画、実施した。選択肢を増やしたりし	
	ながら個々の活動が充実し、やりがいのある活動となるよう	
	取り組みを行った。	

	・近隣の千歳コミュニティセンターの花の水かけや、製品の配達など、利用者 1 人ひとりに役割を担ってもらい、関わりを持つことができるように配慮し、取り組んだ。 ・高齢の方が多く利用している事業所であり、高齢の方の日常生活動作で機能低下を防ぐことができるよう、楽しく無理なくはも動かままりができるよう。	
	│なく体を動かすことができるように配慮し、プログラムをエ │	
	夫した。	_
安心、安全、清潔な事業所づく	日々の利用者、職員の体調管理を徹底するとともに、情報	0
Ŋ	をエリア内で共有し、連絡体制を整えながら、感染症の予防 	
	に努めた。11 月に感染が広がり事業所を閉鎖し、休業とし	
	<i>t</i> =0	
地域と交流を図ることでちと	・地域住民に事業所を知ってもらうため、千歳コミュニティ	0
せんぼを知ってもらう	センターや済生病院へ花鉢に絵付けしたものを常設で置か	
	せていただき、利用者とともに水かけを行った。また、活動	
	で作った作品(アクリルたわし、ウッドクリップ)を置かせ	
	ていただき、無料で配布した。	
	冬期間は水かけができないため、室内への作品展示を依頼	
	し、月毎に交換し、展示させていただいた。	
	・出羽コミュニティセンターのホールを毎月利用し、体を動	
	かす活動を実施した。	
	・地区内の保育園(元気キッズ)との交流については、コロ	
	 ナ感染に配慮し、鉢植えや製品を渡したり、散歩でお会いし	
	│ │た時に挨拶を交わしたりしながら取り組んできた。地区の草	
	 刈りへの参加についても、コロナ禍の中見合わせた。	
ニーズに応じた研修派遣と事	・業務開始時に打合せを行い、利用者の状況報告、予定確認	Δ
業所研修を実施	 を行い、職員間で情報共有を行うとともに、支援の振り返り	
	を行った。	
	- ** ・事業所研修については、感染症予防の動画視聴を個々で行	
	ったのみで、実施には至っていない。また、研修等への参加	
	一についても、希望があっても、勤務の関係で参加を見合わせ	
	ることもあった。	
<u></u> 働きやすく、風通しの良い職	・会議については、概ね計画通り実施できた。事業所会議、	0
場環境づくり	ケース検討会議は全職員対象として行い、利用者の情報共	
- SICK OL - \ /	カース候的玄磯は空職員があるとしていい、利用者の情報ストートートートートートートートートートートートートートートートートートートー	
	有、文張の思え文英の場として足屑している。 ・車椅子利用者が多く、布団の上での対応が多いため、職員	
	・ 単何子利用省が多く、刊団の工での対心が多いため、職員	
	に介護の姿勢や環境等を見直したりしながら、腰痛予防に取	

り組んだ。
・嘱託医の桑添医師往診の際に、腰痛予防やストレッチについて助言をいただいている。

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
満足度調査	・6月、10月に利用者満足度調査を実施した。6月は利用者	
	を中心とした話し合いを行い、10月は全利用者を対象に利	0
	用者の代理役として職員が入り、話し合いを行うなど、利用	
	者の想いを探り、考え実施した。	
	結果については、日々の活動へ活かすようにした。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	25	23	26	25	24	24
実利用者数	445	382	453	449	382	405
利用率(%)	89. 0	83. 0	87. 1	89. 8	79. 5	84. 3

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	25	24	24	23	22	26	291
実利用者数	441	239	300	381	372	432	4, 681
利用率(%)	88. 2	49. 7	62. 5	82. 8	84. 5	83	80. 4

- ・利用者が高齢であり、体調不良により、休やまれたり、入院治療等で休まれたりすることもあり、 利用率低くなっている。
- ・11~12 月にかけ、コロナ感染症がエリアで広がり事業所閉鎖となったことから利用率も低くなっている。
- ・新規での利用者が増えていない。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容		
事業所会議	月1回	11 回	・全職員対象とし実施。		
			・法人内での決定事項の周知、事業所内での注意		
			事項、支援について、事故防止について、事務連		
			絡、医療についてなどの周知		
プラン会議	月2回	24 回	・常勤職員中心に実施。		
			・モニタリングの報告、プラン案の検討		
			・実施後、会議録をとおし、全職員で情報共有を		

			行った。
ケース検討会議	各月1回	4回	・全職員対象とし実施
			・支援力向上委員会の助言をもらいながら、支援
			困難な事例について、対応等を検討。
身体拘束見直し会	月1回	12 回	・身体拘束の改善に向け対応等を検討。
議			
エリア会議	月1回	3 回	エリア内の事業所の現況報告を行いながら、課
			題等の共有
給食会議	年2回	2 回	給食委託業者メフォスとの食事内容等の打合
			せ等

⑤非常災害に対する訓練の状況

	月日			内容
6	ć	24	火災を想定した避難訓練・防災学習	
1		19	火災を想定した避難訓練・防災学習	冬季の為車中へ避難誘導

3. 課題

・高齢の利用者を対象としている事業所であるため、体調不良、状態の悪化から長期休み、キャンセルが多くみられた。高齢の方を中心に新規利用者を募集しているが、利用に結びついていない状況にある。定員充足が大きな課題である。

≪Ⅳ-15 デイサポートにじいろ≫

事業種別:生活介護、定員:20名、契約者数:24名

報告者:村井 弘伸

1, 当初目標

- ①意思形成支援に向け、社会経験を深める機会を提供する。
- ②コロナ禍でも安全に、本物を体験できる活動を工夫する。
- ③安心、安全、清潔な事業所作りを行う。
- ④作業・活動を通して、地域社会との繋がりを生む。
- ⑤ニーズに応じた研修派遣と事業所研修を実施する。
- ⑥働きやすく、風通しの良い職場環境作りを行う。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない ×

目標	取り組み	評価
意思形成支援に向け、社会経	・お楽しみ活動や祝日の昼食メニューの選択や、カフェの時	
験を深める機会を提供する	の飲み物選択など、小さい場面であっても「選択の機会」を	
	意識しながら支援や活動提供を行った。	0
	・花見、夏祭り、芋煮会、クリスマス会、新年会、節分、感	
	謝祭を行っている。	
	・外部ボランティアの来訪をとおし、ご家族や職員以外の人	
	と関わる機会を設けた。	
	・近隣店舗への買い物を行い、社会経験を深める機会を設け	
	<i>t</i> =。	
コロナ禍でも安全に、本物を	・月1回お楽しみ活動を実施し、季節に合わせたイベントを	
提供できる活動を工夫する	実施した。	
	・本物を提供する機会として、5月にキッチンカーに来てい	
	ただき、昼食の提供をしていただいた。6月、7月は貸し切	Δ
	り外食を予定していたが、6月はマスクを着用することがで	
	きない方がいることを理由に断られ実施できなかったため、	
	出前昼食や自分で買いに行く形に変更して実施した。7月は	
	山形市内での感染拡大に伴い、活動自体を行うことができな	
	かった。	
安心、安全、清潔な事業所作り	・利用者に合わせて室内のエリア分けを行い、接触や転倒を	
を行う	防いだ。	
	・ひやりはっとや事故が起きた際には、振り返りの時間に情	0
	報共有や再発防止に向けた話し合いを行った。	
	・公用車の定期点検(月2回)を行った。	
	・避難訓練(年2回)を実施した	
	・日々の清掃に加え、ゴミや汚れを発見した際はすぐに清掃	
	するようにした。また、危険個所や不都合な部分を見つけた	
	際はすぐに対処を行った。	
ニーズに応じた研修派遣と事	一部の職員に関してはニーズに合わせた研修に参加する	
業所研修を実施する	ことができた。しかし、多くの職員は研修参加の機会を設け	×
	ることができなかった。又、事業所研修も未実施となった。	
働きやすく、風通しの良い職	・事業所会議で課題や進捗状況等に関して、話し合いや報告	Δ
場環境作りを行う	を行った。	
	・ありがとうカードを使用し、職員同士の感謝を伝えあっ	
	<i>t</i> =。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	21	21	22	21	22	22
実利用者数	414	400	438	411	398	436
利用率(%)	103. 5	90. 9	99. 5	97. 8	90. 4	99. 0

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	15	18	20	20	23	245
実利用者数	383	256	348	372	403	470	4, 729
利用率(%)	91.1	58. 1	87. 0	93. 0	100. 7	102. 1	96. 5

- ・新型コロナウイルスによる自宅待機、GH待機の影響で欠席者が多く、当初の予定よりも低い利用率となった。
- ・11 月に関してはにじいろを含め、北エリアでクラスターが発生し事業所閉鎖となっている。その ため、開所できた日数も少なく、利用率も著しく低下している。
- ・職場体験実習生の受け入れを行いながら、新規の利用へつなげていく必要がある。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容			
事業所会議	月1回	10 回	各種報告、翌月活動・予定等の確認、引継ぎ事項、			
			業務進捗状況、利用者状況等			
プラン会議	月1回	12 回	個別支援計画書に関する事			

⑤非常災害に対する訓練の状況

F	日	内容
8	30	避難訓練(防災学習、火災を想定した避難訓練。119番通報、水消火器実施)
12	14	避難訓練(防災学習、火災を想定した避難訓練。119 番通報実施)

3. 課題

- ・コロナ禍ということもあり、にじいろ以外での社会経験の機会を設けることができなかった。
- ・にじいろ内では外部ボランティアの来訪、季節に合わせた活動の提供を行うことができたが、更に 利用者主体となるような工夫、働きかけが必要であった。
- ・働く活動を通し、名刺の作成・販売を行っており、工賃として利用者へ還元している。今後は生産性の向上、名刺以外の商品開発などを行い、より利用者がやりがいを持って取り組める工夫が必要である。
- ・現在、室内の環境整備を行い、個別スペースの増設を行っている。更に環境整備を行い、安心・安全に過ごして頂ける環境整備を行っていく。
- ・若く、自閉スペクトラム症の利用者が増えている状況であるため、自閉症スペクトラム症候群の障害特性の理解や氷山モデル、応用行動分析等のスキルを高めていく必要がある。

≪Ⅳ-16 向陽園地域生活支援センター心音≫

事業種別:計画相談、障がい児相談、地域移行支援、地域定着支援

報告者:会田 雄

1, 当初目標

- ①ご本人の思いに寄り添った相談支援の実践
- ②相談支援の質の向上
- ③BCP に基づいた事業継続の推進、24 時間の相談体制の継続
- ④地域との関係性の強化・多職種団体等への連携の強化
- ⑤相談支援専門員のスキルアップ
- ⑥風通しのよい職場環境づくりへの取り組み
- ⑦山形市全体で基幹相談支援センター等を含めた相談体制を構築する際に、心音に求められる相談体制 の準備を行う。

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
・ご本人の思いに寄り添った相	・相談支援部会主催のグループスーパービジョンへ月1回参	
談支援の実践	加した。	
・相談支援の質の向上	・新たに職員1名が社会福祉士を取得した。	0
・相談支援専門員のスキルアッ		
プ		
BCPに基づいた事業継続の	事業所内で訪問時や緊急呼び出し時のコロナウイルス感	0
推進、24 時間の相談体制の継族	染予防の対策を実施した。	
山形市全体で基幹相談支援セ	山形市と自立支援協議会、事務局会議で、基幹相談支援セ	0
ンター等を含めた相談体制を構	ンター等を含めた相談体制について検討を行った。	
築する際に、心音に求められる		
相談体制の準備を行う。		
風通しの良い職場環境	月1回の合同事業所会議、日々の居宅心音との連携	0

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
各駅停車の会の運営	コロナ感染予防に努めながら実施した。	0

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
者	5 6	4 9	5 2	6 5	4 2	60
児	1 2	1 0	9	9	3	1 3
計	6 8	5 9	6 1	7 4	4 5	7 3

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
者	7 1	5 0	6 0	4 1	4 8	9 5	689
児	1 2	7	7	1 1	9	5	107
計	8 3	5 7	6 7	5 2	5 7	104	796

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
合同事業所会議	月1回	12 回	・居宅心音との合同会議
			・ケース進捗確認、協議、報告等

3. 課題

- ・複雑な課題を抱える利用者が増え、それに対応する相談員のスキルを向上させていくことが継続的な課題となっている。山形市自立支援協議会で行っている事例を通したグループスーパービジョンに定期的に参加し、スキルアップに努めている。
- ・山形県の自立支援協議会については、形骸化しているところが多く以前から課題となっていた。相談支援推進員等の役割を通して、改善に努めていきたい。
- ・山形市における委託相談や将来的な基幹相談支援センターとの関わりに向け、そういった業務に 時間を割くことができる人員を確保していくことが当面の課題となっている。

≪Ⅳ-17 居宅介護支援事業所心音≫

事業種別:居宅介護支援、定員:35名、契約者数:28名

報告者:寺崎友紀子

1, 当初目標

- ①クライアントの意思と権利を尊重した支援
- ②ケアマネジメントカの向上
- ③BCPに基づいた事業継続の推進

- ④職能団体での役割遂行をとおしての貢献
- ⑤0ff-JT を中心に専門的知見のステップアップを目指す
- ⑥風通しのよい職場環境づくりへの取り組み

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
クライアントの意思と権利を	ご家族の意向が全面に出てくるケースが多いが、本人に分	
尊重した支援	かりやすい説明をし、本人の意向を確認することを心がけて	0
	きた。ご本人とご家族の意向をすり合わせて支援している。	
ケアマネジメント力の向上	年間 20 回ほど研修会に参加した。	0
BCPに基づいた事業継続の	BCPの作成には至っていないが作成方法についての研	
推進	修会に参加したり、外部のCM仲間からの情報収集を行っ	×
	<i>t</i> =。	
職能団体での役割遂行をとお	ケアマネ協会の役員活動を行っており、年2回の担当の研	0
しての貢献	修会の企画運営を行った。	
Off-JT を中心に専門的知見の	外部CMとのネットワークへの参加や主任ケアマネ交流	
ステップアップを目指す	学習会への参加を通して、常に新しい情報を収集することを	0
	意識した。	
風通しのよい職場環境づくり	日々の情報共有やCMとしての考えの発信、相談を受けた	
への取り組み	時の助言など積極的に行っている。他スタッフの相談に対し	0
	一緒に考える姿勢を持って業務に当たっている。	

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
地域貢献として外部事業所や	山形市在宅医療介護連携室ポピーからの依頼でACP研	
行政からの依頼を受ける。	修会への参画(研修企画・講師)。山形市長寿支援課AIケ	0
	アプラン作成モデル事業への参画。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実利用者数	2 0	2 0	2 0	2 2	2 0	2 4

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
実利用者数	2 1	2 3	2 6	2 7	2 4	2 7	274

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
合同事業所会議	月1回	12 回	・居宅心音との合同会議
			・ケース進捗確認、協議、報告等

3. 課題

- ・月によっては新規ケースが立て込むことがあり対応に課題を感じている。1人では対応しきれず、 兼務のケアマネに協力してもらい件数を分担しているが、兼務ケアマネの本業の業務量も考慮し居 宅の新規は断らざるを得ないこともある。また、新規ケースを引き受けても長期的マネジメントに 繋がらず、短期終了となることもある。新規受け入れが安定的な契約数につながらないことに課題 を感じる。
- ・心音居宅の特徴として 1 つのケースで高齢と障害の両方が担当するWケアマネケースが増えており、地域包括支援センターからも心音の事業所の強みを活かせると期待を寄せられている。そのようなケースを積極的に受け入れしているが、複雑多問題なケースも増えている背景もあり、より高いマネジメントスキルが求められている。
- ・心音で担当している障がいのケースから介護保険のケアマネジメントに移行するケースや、障害のケースの親のケアマネジメントを引き受けることが増えてきている。愛泉会の強みとして、そのようなケースは積極的に引き受けているが、制度の違いと介入のタイミングについて課題を感じている。

≪Ⅳ-18 地域生活支援センター天花≫

事業種別:相談支援、契約者数(実人員数:311名)

報告者:藤田 利江

1, 当初目標

- ①ご本人が地域でどう暮らしたいかに重点を置き、意思決定支援をおこなう。
- ②関係機関と連携し情報を共有しながら、個々人の障がい特性を理解することを大切にする。
- ③生活に直結してのサービスであるため、感染対策を徹底する。
- ④地域の様々なところとつながって、生活が困窮している世帯への生理用品提供や食料提供の橋渡しをおこなう(フードバンクとのつながり)。自立支援協議会の活性促進。
- ⑤事業所内のミーティングや研修の充実を図る。
- ⑥なんでも話し合える職場環境をつくる。自分が成長していると実感できる職場づくり。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない ×

できていない)

目標	取り組み	評価
ご本人が地域でどう暮らした	アセスメントに力を入れ、2次アセスメントも行った。	0
いかに重点を置き、意思決定支		
援をおこなう。		
関係機関と連携し情報を共有	関係機関との情報共有を密に行い、理解を促進した。	0
しながら、個々人の障がい特性		
を理解することを大切にする。		
地域の様々なところとつなが	フードバンクとのつながりから行政にも働きかけを行っ	0
って、生活が困窮している世帯	/t=。	
への生理用品提供や食料提供の		
橋渡しをおこなう(フードバン		
クとのつながり)。自立支援協議		
会の活性促進。		
・事業所内のミーティングや研	朝 15 分のミーティングを毎日行い、動きを整理した。	Δ
修の充実を図る。		
・なんでも話し合える職場環境		
をつくる。自分が成長している		
と実感できる職場づくり。		

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
相談員複数体制で動く	ケースを相談員みんなで把握できるようにした。	0
新規利用者の受け入れ	繁忙期には待ってもらうこともあるが、ほぼ受け入れた。	Δ
天童市自立支援協議会への働	事業所の交流会、地域生活支援拠点等の整備の話し合いを	0
きかけ	行った。	
・天花ママだけ会の在り方	・天花ママだけ会のいろいろな形を模索し実行した。スタン	
・ピアサポートの充実	ダードな会に加え、医療的ケア児の子育てママを対象とした	0
	会を実施、アンケートも実施した。	

③利用状況

	4 月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2 3	2 6	5 4	2 9	2 3	5 5
利用児数	6 8	2 6	3 0	4 5	2 6	6 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
利用者数	2 5	2 9	60	2 6	18	5 5	4 2 3
利用児数	2 8	1 7	2 5	2 1	1 3	2 8	3 8 2

- ・新規に年間で47ケース受け入れを行った。
- ・上記の件数の他にも、計画相談には繋がらないが、基本相談で受けているケースも多い。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
朝のミーティング	毎日		今日の予定の確認、ケースについての情報共有
振り返り会議	月1回	12 回	前月のケース対応の振り返り、今後の対応につ
			いて検討。天花ママだけ会について。

5会議参加、研修等の状況

F	日	内容			
1	19	「身寄りのない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関する力			
		イドライン」について。			
2	3	村山地域精神障がい者地域移行・地域定着推進会議			
2	8	村山地域医療的ケア児支援協議会			
2	13	久里浜医療センター主催:依存症専門研修「アルコール依存症地域生活支援指導者			
		養成研修」			
2	20	天童市自立支援協議会及び天童市障がい者差別解消支援地域協議会			
	25	医療的ケア児の地域での生活を支える在宅移行支援~病院と地域との連携~			
6	7	心音相談との合同研修「ピアの集まりについて」			

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
11	26	心肺蘇生研修(赤十字より講師を招いて実施)

3, 課題

- ・毎朝のミーティングや月に1回の事業所会議など行なってはいるが、ケース検討会などの事業所 内研修は行えていない。
- ・新規利用者の受け入れについて、繁忙期には受け入れを待ってもらうケースもあり、すぐに対応できない現状がある。
- ・基本相談のみの関わりになっており、計画相談につながるまで長く関わる方も多い。

≪Ⅳ-19 デイサポート天花≫

事業種別:生活介護、定員:20名、契約者数:18名

報告者:藤田 利江

1, 当初目標

- ①ひとりひとりに合った生活環境で考え、「障がいの重い方が地域の中で活動する」ことを実践する。
- ②「障がい特性の理解」「心情理解」「チームアプローチ」の3本柱により「ご本人らしく作業や活動、 過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。
- ③安心・安全な福祉サービスを提供できるよう環境を整え、生活の質の向上を図り、感染症予防と事故を未然に防止する。
- ④コロナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。地域住民等を巻き込んだ協力会(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。
- ⑤ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成 する。
- ⑥職員を育てるのではなく「人を育てる」視点で人材育成を行う。
- ⑦天花の愛言葉①「笑顔」②「休む努力」、職員同士お互い「承認し合う」関係を大切にする。
- ⑧より多くの方にご利用いただける事業所づくりを行い、稼働率を向上させる。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
ひとりひとりに合った生活環	後期は月1回のイベント行事や季節行事を充実させた。	0
境で考え、「障がいの重い方が地		
域の中で活動する」ことを実践		
する。		
コロナ禍に合わせた地域交流	リサイクル活動の再開に向けて、地域と連携を取った。	0
やネットワークづくりを行う。		
地域住民等を巻き込んだ協力会		
(防災関係)に向けた交流の機		
会・場を考える。		
ソーシャルワーク技術を学	個別対応の利用者さんのために、個別のスペースを作った。	Δ
び、日々自己研鑚できる環境を		
整え、利用者・家族支援主体の職		
員を育成する。		
より多くの方にご利用いただ	チラシを作り配布。相談支援事業所への営業活動を行った。	Δ
ける事業所づくりを行い、稼働		

率を向上させる。

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
人材育成	会議の中で、全員に発言してもらう機会を設けた。他の事業	Δ
	所との交流。	
個別対応利用者の活動参加	行事活動に参加しなかった利用者さんにも、イベント活動を	0
	提供できないか模索し実施。	
障害の重い方の受け入れ	年度途中の受け入れで、どこにもつながっていない利用者の	Δ
	受け入れを重点目標としておこなった。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	21	20	22	17	20	20
実利用者数	15	15	15	15	16	15
利用率(%)	72. 1	69. 7	73. 4	74. 1	74. 0	72. 2

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	20	19	19	22	240
実利用者数	16	18	18	19	18	18	198
利用率(%)	74. 7	77. 5	83. 0	84. 4	85. 2	85. 6	77. 2

[・]後期で85%までは達成したが、利用者を確保する必要がある。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
デイ天花会議	月 1回	12 回	業務連絡、利用者状況について、活動内容につい
			て。
行事イベント会議	随時		行事イベントの役割分担、リスク管理

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容
7	4~8	嘔吐物処理研修(動画を職員昼休みに流す)
11	26	心肺蘇生研修(赤十字より講師を招いて実施)
		倫理綱領読み合わせ(デイ会議の時)

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
6	15	① 防災学習、消防設備確認、避難経路確認、火災発生時の動き確認 ② 火災を想定しての避難訓練
10	27	① 火災を想定しての避難訓練 ②初期消火訓練(消火器の使い方)

3. 課題

- ・地域交流は達成されていない。特にコロナ禍前に実施していた地域スーパーや関係機関と連携してのリサイクル活動は再開に至らなかった。しかし、令和5年度からは、地域の事業所を回って古紙類を回収する活動を再開できる見込みとなっている。
- ・利用定員の補充の課題がある。後期で少し改善したが、まだ達成できていないため引き続き重点的に行っていきたい。
- ・個別対応の環境調整が課題である。工夫してスペースを有効活用しているが、今後定員を補充する時にも、工夫が必要となってくる。柔軟な思考で対応したい。
- ・活動のマンネリ化があったため、利用者の笑顔を多く引き出していくためには、どのような工夫が 必要か引き続き模索する必要がある。

≪Ⅳ-20 グルホーム支援センター天花≫

事業種別:共同生活援助、定員:10名、契約者数:10名

報告者:阿部 憲昭

1. 当初目標

- ①1人ひとりに合った取り巻く生活環境で考え、「障がいの重い方が地域の中で生活する」ことを実践する。
- ②「障がい特性の理解」「心情理解」「チームアプローチ」の3本柱により、「ご本人らしく作業や活動、 過ごせる居場所(空気)づくり」を行う
- ③安心・安全な福祉サービスを提供できる環境を整え、生活の質の向上を図り、感染症予防と事故を未 然に防止する。
- ④コロナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。地域住民等を巻き込んだ協力会(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。

- ⑤ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。
- ⑥職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。
- ⑦天花の合言葉「①笑顔」②休む努力」、職員同士お互い「承認しあう」関係を大切にする。

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
1人ひとりに合った取り巻く	利用者個人に合わせたコミュニケーションツールの作成	0
生活環境で考え、「障がいの重い	と環境の調整を行い、意思に寄り添った支援を行った	
方が地域の中で生活する」こと	芋煮会(利用者・職員のみ)	
を実践する。		
「障がい特性の理解」「心情理	個々に合わせた「生活の質」について考えながら、必要な	Δ
解」「チームアプローチ」の3本	物の提供・購入、及び外出を行った	
柱により、「ご本人らしく作業や		
活動、過ごせる居場所(空気)づ		
くり」を行う。		
安心・安全な福祉サービスを	基本的感染対策の実施。ダブルチェック体制の徹底。	0
提供できる環境を整え、生活の		
質の向上を図り、感染症予防と		
事故を未然に防止する。		
コロナ禍に合わせた地域交流	天童市事業所交流会、要配慮者利用施設における避難確保	Δ
やネットワークづくりを行う。	に関する研修会に参加したが、交流までは出来なかった	
地域住民等を巻き込んだ協力会		
(防災関係)に向けた交流の機		
会・場を考える。		
・ソーシャルワーク技術を学び、	計画に基づいて外部研修や法人内研修に派遣、参加するこ	0
日々自己研鑽できる環境を整	とができた。	
え、利用者・家族支援主体の職員		
を育成する。		
・職員を育てるのではなく、「人		
を育てる」視点で人材育成を行		
う。		
天花の合言葉「①笑顔」②休む	安定した職員数での業務遂行は困難なことが多くあった	0
努力」、職員同士お互い「承認し	が、それぞれ認め合う事を基本に、事業所間で協力しあう関	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	271	258	261	262	260	254
利用率(%)	90. 3	83. 5	87. 0	84. 5	83. 8	84. 6

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	267	288	289	284	267	299	3, 261
利用率(%)	86. 1	96. 0	93. 2	91.6	95. 3	96. 4	89. 3

・4月に利用者1名たホームに移り、その後11月まで空床のままとなってしまった。

④諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
事業所会議	月1回	11 回	・支援員、看護師等の常勤職員間での情報の共
			有、課題の検討(経営会議内容報告、利用者状況
			確認、医務からの連絡、各係からの全体周知及び
			各ホーム会議の内容報告、部署内研修等)
世話人会議	月1回	11 回	・支援員、世話人間での情報、課題の共有(各ホー
			ムの利用者状況確認、課題の集約、世話人との情
			報共有等)

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容
5	16	事業所研修「吸引機使用について」
9	16	事業所研修「感染症予防、異物除去について」
11	26	事業所研修「心肺蘇生・AED の使用について」
12	7	居住系研修会「RCA 分析」
1	31	事業所研修「権利擁護について」

⑥非常災害に対する訓練の状況

F	日	内容
6	15	火災時の避難誘導訓練 水害時の避難訓練
10	27	避難・通報訓練 消火訓練

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

2	7	・事業所第三者評価の取り組みについて	情報共有の方法について、利
		・事業所状況について(利用者数・利用者構成、	用者支援について
		職員数・勤務体制等)	
		・苦情、事故等について報告	
		・ホーム内見学	

3, 課題

- ・生活の質においては、基本的なところ(衣類・掃除・生活用品等)が疎かになっているところが見られており、職員主導になってしまうことも見られた。生活支援や余暇支援、生活全体において「個々の生活の質」「自由度」とは何かを引き続き検討しながら実践に結び付けていきたい。
- ・外部への研修は計画通りに派遣できたが、事業所内の研修については開催ができなかった。ケース 検討の開催など計画を立て実施していくことが必要である。
- ・地域交流について実施が難しい状況であった。今後、これまで行っていた地域行事への参加など感染対策をした上でどのように実施していくか検討していくことが必要である。
- ・職員の体調不良などにより職員数が安定せず、勤務を担うことが非常に厳しい状況が続いた。生活 介護職員の協力をもらいながら支援を継続したが、互いの情報の共有において課題が残された。細 やかなやり取りを行い、連携した支援を行うことができるようにしていきたい。

≪Ⅳ-21 ぶどうの木ショートステイサービス≫

事業種別:短期入所、定員:2名、契約者数:35名

報告者:阿部 憲昭

1. 当初目標

- ①圏域での子ども・ご家族状況をしっかり把握、常にニーズ調査を行う。
- ②天童市を中心に、困難ケースや障がいの重い方が利用できる短期入所として、受け入れ体勢を構築すると共に、ご家族・ご本人のニーズに合わせた展開を推進する。
- ③安心・安全な福祉サービスを提供できる環境を整え、生活の質の向上を図り、感染症予防と事故を未 然に防止する。
- ④地域のニーズ、要望等を精査、検証し、自立支援協議会、行政(天童市)等に要望・提言等を行う。
- ⑤ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成 する。
- ⑥職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。
- ⑦天花の合言葉「①笑顔」②休む努力」、職員同士お互い「承認しあう」関係を大切にする。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない ×

できていない)

目標	取り組み	評価
圏域での子ども・ご家族状況	相談支援事業所を通しての見学者の受け入れなどを行っ	Δ
をしっかり把握、常にニーズ調	<i>t</i> =。	
査を行う。		
天童市を中心に、困難ケース	ご家族の状況に合わせた受け入れ調整も行った。相談支援	0
や障がいの重い方が利用できる	事業所とも連携して緊急ショートにも随時対応した。	
短期入所として、受け入れ体勢		
を構築すると共に、ご家族・ご本		
人のニーズに合わせた展開を推		
進する。		
安心・安全な福祉サービスを	利用される方に合わせた環境調整と支援を実施。時間差で	0
提供できる環境を整え、生活の	の食事提供など基本的な感染予防を徹底した。	
質の向上を図り、感染症予防と		
事故を未然に防止する。		
地域のニーズ、要望等を精査、	相談支援事業所を通じてのニーズは把握しているが、行政	Δ
検証し、自立支援協議会、行政	等への要望はできていない。	
(天童市) 等に要望・提言等を行		
う。		
職員を育てるのではなく、「人	外部研修、法人内研修に職員を派遣できた。	0
を育てる」視点で人材育成を行		
う。		
天花の合言葉「①笑顔」②休む	安定した職員数での業務遂行は困難なことが多くあった	0
努力」、職員同士お互い「承認し	が、それぞれ認め合う事を基本に、事業所間で協力しあう関	
あう」関係を大切にする。	係性を大切にできた。	
あう」関係を大切にする。	係性を大切にできた。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	49	47	51	44	43	47
利用率(%)	81. 7	75. 8	85. 0	73. 3	69. 4	78. 3

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	365
実利用者数	48	45	52	52	51	47	576
利用率(%)	77. 4	75. 0	83. 9	83. 9	91. 1	75. 8	78. 7

[・]基本的に予約表にそって、天童市内の方・デイ天花を利用されている方に限定して受け入れを行っ

た。

- ・相談支援事業所と連携し4月と12月に緊急ショート受け入れを行った。
- ・コロナの感染が疑われる方については、ご家族に連絡し、了解を得て利用をご遠慮頂いた。

3, 課題

- ・利用予約について課題が多かった。連絡調整がうまくいかず、当日利用がキャンセルになることがあり、後日再度利用調整をするケースが何度かあった。利用予約についての仕組みを検討していくことが課題である。
- ・次年度、エリア分けの考え方が緩和される。数年ぶりに利用再開される方もおり、感染予防対策を 行いながら、アセスメントの再確認など支援にあたり不備がないように受け入れを行う。
- ・緊急ショートについては、今後も相談支援事業所と連携しながら受け入れを行う。

≪Ⅳ-22 地域活動支援センター天花≫

事業種別:地域活動支援センター、定員:20名、契約者数:69 名

報告者:藤田 利江

1, 当初目標

- ①「持っている力を発揮する」をスローガンとして、将来の夢・目標・挑戦したい事等を最大限尊重し 利用者と職員が協働しながら、利用者主体で支援を行う。
- ②「障がい特性の理解」「心情理解」「チームアプローチ」の3本柱により、「ご本人らしく作業や活動、 過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。
- ③利用者とご家族が住み慣れた地域で暮らし続けていくための支援を行い、安心・安全な地域(居場所) づくりと地域福祉活動を推進する。
- ④コロナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。地域住民等を巻き込んだ協力会(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。
- ⑤ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成 する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。
- ⑥天花の合言葉「①笑顔」②休む努力」、スタッフ同士お互い「承認しあう」関係を大切にする。

2. 実施状況及び評価

①目標達成に向けた取り組みと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △一部できていない × できていない)

目標	取り組み	評価
「持っている力を発揮する」	ストレングスを検討し本人と共有した。利用者同士の力で支	0
をスローガンとして、将来の夢・	え合うピアサポート、相互作用に努めた。	

日標・挑戦したい事等を最大限 専重し利用者と職員が協働しながら、利用者主体で支援を行う。 「障がい特性の理解」「心情理解」「心情理解」「で情理解」「で本人らしく作業や活動、過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた地域で暮らし続けていくための支援を行い、安心・安全な地域(居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会院災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整定、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む努力」、スタッフ同士お互い「承認しあう」関係を大切にする。			
がら、利用者主体で支援を行う。 「障がい特性の理解」「心情理解」「心情理解」「小情理解」「アームアプローチ」の3本性により、「ご本人らしく作業や活動、過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた地域で暮らし続けていくための支援を行い、安心・安全な地域(居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。地域住民等を巻き込んだ協力会(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②体む努力」、スタッフ同士お互い「承を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	目標・挑戦したい事等を最大限		
「障がい特性の理解」「心情理 本人のやりたい事、挑戦したい事を尊重した活動を臨機応変 に実施した。 解」「チームアプローチ」の3本 柱により、「ご本人らしく作業や活動、過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた 地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域(居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承 を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	尊重し利用者と職員が協働しな		
解」「チームアプローチ」の3本 柱により、「ご本人らしく作業や 活動、過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた 地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域 (居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	がら、利用者主体で支援を行う。		
柱により、「ご本人らしく作業や 活動、過ごせる居場所(空気)づ くり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた 地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域 (居場所) づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係) に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	「障がい特性の理解」「心情理	本人のやりたい事、挑戦したい事を尊重した活動を臨機応変	0
活動、過ごせる居場所(空気)づくり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた 地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域 (居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	解」「チームアプローチ」の3本	に実施した。	
 くり」を行う。 利用者とご家族が住み慣れた 地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域 (居場所) づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係) に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承 (り」を行う。 職員勉強会を週1度開催。関連動画を視聴したり資料読み合かせ、ケース検討等に取り組んだ。 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	柱により、「ご本人らしく作業や		
利用者とご家族が住み慣れた 地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域 (居場所) づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係) に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学 び、日々自己研鎖できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	活動、過ごせる居場所(空気)づ		
地域で暮らし続けていくための 支援を行い、安心・安全な地域 (居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	くり」を行う。		
支援を行い、安心・安全な地域 (居場所)づくりと地域福祉活動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。地域住民等を巻き込んだ協力会(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む努力」、スタッフ同士お互い「承	利用者とご家族が住み慣れた	安心して来てもらえる雰囲気づくりに努めた。	Δ
(居場所) づくりと地域福祉活動を推進する。 □ロナ禍に合わせた地域交流やネットワークづくりを行う。地域住民等を巻き込んだ協力会(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む努力」、スタッフ同士お互い「承	地域で暮らし続けていくための		
動を推進する。 コロナ禍に合わせた地域交流	支援を行い、安心・安全な地域		
□□ナ禍に合わせた地域交流 やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機 会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学 び、日々自己研鑽できる環境を 整え、利用者・家族支援主体の職 員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	(居場所) づくりと地域福祉活		
やネットワークづくりを行う。 地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	動を推進する。		
地域住民等を巻き込んだ協力会 (防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討 を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	コロナ禍に合わせた地域交流	マイロードサポート活動に参加して道路清掃活動を実施。	Δ
(防災関係)に向けた交流の機会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学び、日々自己研鑚できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	やネットワークづくりを行う。	「精神疾患をお持ちの方と地域で共に暮らす会」との交流会	
会・場を考える。 ソーシャルワーク技術を学 び、日々自己研鑽できる環境を 整え、利用者・家族支援主体の職 員を育成する。職員を育てるの ではなく、「人を育てる」視点で 人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	地域住民等を巻き込んだ協力会	開催。	
ソーシャルワーク技術を学 び、日々自己研鑽できる環境を 整え、利用者・家族支援主体の職 員を育成する。職員を育てるの ではなく、「人を育てる」視点で 人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 努力」、スタッフ同士お互い「承	(防災関係)に向けた交流の機		
び、日々自己研鑽できる環境を整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討を物力」、スタッフ同士お互い「承	会・場を考える。		
整え、利用者・家族支援主体の職員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討を別し、スタッフ同士お互い「承を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	ソーシャルワーク技術を学	職員勉強会を週1度開催。関連動画を視聴したり資料読み合	0
員を育成する。職員を育てるのではなく、「人を育てる」視点で人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討 Δ 努力」、スタッフ同士お互い「承 を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	び、日々自己研鑚できる環境を	わせ、ケース検討等に取り組んだ。	
ではなく、「人を育てる」視点で 人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討 ム 努力」、スタッフ同士お互い「承 を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	整え、利用者・家族支援主体の職		
人材育成を行う。 天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討 Δ	員を育成する。職員を育てるの		
天花の合言葉「①笑顔」②休む 毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討 Δ 努力」、スタッフ同士お互い「承 を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	ではなく、「人を育てる」視点で		
努力」、スタッフ同士お互い「承を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	人材育成を行う。		
	天花の合言葉「①笑顔」②休む	毎朝の打合せにて、振り返りと予定の確認、支援内容に検討	Δ
認しあう」関係を大切にする。	努力」、スタッフ同士お互い「承	を徹底し職員で話し合う機会を多く設けた。	
	認しあう」関係を大切にする。		

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
地活天花だより作り	「利用者の声を届ける」を目標として、利用者職員協働にて	0
	毎月のおたより作りを実施。利用者の意見を反映させた。	
イベント開催	月1回の利用者希望イベントを、計画・準備・開催に取り組	0
	んだ。みんなの力を合わせる事で毎月達成する事が出来た。	
勉強会	利用者リクエストの勉強会を毎月1回実施。「金銭管理」「人	0
	間関係」「リカバリー」等、多彩な勉強会を計画実地した。	

お喋り会	自己表現や利用者間交流の目的としてお茶会、ここだけの話	0
	会、プレミアムトーク等のお喋り会の時間を多く設定。	
利用者増に向けた取り組み	夏からの利用者減少があった。自宅で過ごす方への電話・メ	Δ
	ール対応、利用者現状把握、活動へのお誘い等に取り組んだ。	
利用者との話し合いの徹底	過ごし方、活動内容、気持ちの確認、相談事等、本人主体の	Δ
	話し合いの徹底。しかし、職員の思い込み等もあった為、改	
	善点がある。	

③利用状況(来所者、電話対応利用者、メール対応利用者が含まれる)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	20	19	22	20	21	20
実利用者数	199	177	180	139	129	108

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	20	19	19	22	242
実利用者数	158	145	136	103	108	128	1, 710

[・]春に利用者が増加し夏に低迷、秋に盛り返し冬に向けて減少。過去5年間において、多い時期には 1ヵ月延べ200名を超える月もあったが、令和4年度は低い人数に留まっている。利用していた方の 就職、福祉サービス利用、または体調を崩しての自宅療養等が理由として考えられるが、見学者等の 新規問い合わせ者が契約・利用に繋がっていないことも大きな理由の一つである。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
地活会議	週1回	44 回	1週間の振り返り、1週間の予定確認、支援振
			り返り、検討会、連絡共有等
地活職員会議	月1回	12 回	今月の振り返り、来月の予定確認、利用者に関
			すること等
職員勉強会	週1回	44 回	精神疾患関連の動画視聴、資料による検討会、
			支援に関する検討会、自殺防止マニュアル等

⑤行事、研修等の実施状況

F	日	内容
8	19	リーダー育成研修「施設のリスクマネジメントとコンプライアンス」
9	28	嘔吐処理マニュアル作り (嘔吐処理、事業所研修)
10	10	世界メンタルヘルスデー2022 ~つながる、どこでも、だれにでも~
10	19	新型コロナウイルス感染症に関する心のケアのための研修会

1	1	16	救急法講習会
2		10	障がい者虐待から意思決定支援への転換へ向けてすべきこと
1	1	25	天童地区ふれあい募金会 (ろうきん主催)、寄付金授与式

3. 課題

- ・利用人数減少と新規利用者の獲得、事業所の周知活動に力を入れていく必要がある。
- ・グループ活動の充実、参加したいと思えるような活動の企画。

≪Ⅳ-23 多機能型事業所なかやま虹の丘≫

事業種別:生活介護、定員:10名、契約者数:14名 就労継続支援B型、定員:10名、契約者数:13名

報告者:寺西 朋宏

1. 当初目標

- ①自分のやりたいことを共有しその実現を目指していく。
- ②活動・仕事・支援を柱に事業所の強みを高めていく。
- ③安心して活動・仕事ができる事業所づくり
- ④地域に愛される事業所づくり
- ⑤1人ひとりが主役となり、共に学ぶ風土づくり
- ⑥明るい雰囲気と誇れるチームワーク

2, 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
自分のやりたいことを共有	・毎月の利用者プログラム会議で出された希望を中心にイベ	
しその実現を目指していく	ント(流しそうめん、芋煮会、慰労会、クリスマス会)や外出を	×
	計画し、実施した。	
	・支援会議で倫理綱領の読み合わせを行なった。	
活動・仕事・支援を柱に事	・就労B型事業においては、祭り花に代わる主な収入源に結	Δ
業所の強みを高めていく。	び付ける事が出来ず工賃アップが出来なかった。	
	・生活介護においては、畑活動やエコバック作成などに取り	
	組んだ	
	・家族懇談会を開催して家族からの要望や意見を知ることが	

	できた。	
安心して活動・仕事ができ	大きな事故も無く、想定されるリスクも少なく安心して活	0
る事業所づくり	動や仕事に取り組めるように取り組んだ。	
地域に愛される事業所づくり	・地域清掃活動を継続して実施し、地域貢献を図った。	
	・生活介護でエコバッグを作成し、地域の店舗で利用しても	
	らった。	0
	・エコバッグを椎茸販売用に 200 個ほど提供することができ	
	<i>t</i> =。	
1人ひとりが主役となり、	・外部研修受講後は伝達研修を実施した。	
共に学ぶ風土づくり	・救急法 (赤十字社) 研修を実施して応急救護やAEDについ	
	て学んだ。	Δ
	・外部講師による研修を企画したがコロナ感染予防のため中	
	止となった。	
明るい雰囲気と誇れるチーム	計画した研修の実施ができなかった。	×
ワーク		

③利用状況

【生活介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	20	17	22	20	21	20
実利用者数	200	159	208	199	196	186
利用率(%)	100	93. 5	94. 5	99. 5	93. 5	93. 0

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	20	20	19	22	158
実利用者数	199	197	168	176	177	213	2, 278
利用率(%)	99. 5	98. 5	84. 0	88. 0	93. 1	96. 8	94. 5

- ・新型コロナ感染等により、利用率が低下した。
- ・7月から1名の方が新規に利用を開始した。

【就労継続支援B型】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	20	17	22	20	21	20
実利用者数	147	120	170	160	167	186
利用率(%)	73. 5	70. 6	77. 3	80. 0	83. 5	82. 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	20	20	19	22	158
実利用者数	166	154	151	141	152	181	1, 874
利用率(%)	83. 0	77. 0	75. 5	70. 5	80. 0	82. 3	78. 1

- ・4月に利用者1名が他事業所に移り、それ以降の新規利用につながらなかった。
- ・見学や体験の方は数名いたが利用に結びつけることができなかった。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
支援会議	月1回	11 回	利用者支援、課題検討、情報共有

⑤行事、研修等の実施状況

月日		日	内容
	9	26	事業所研修「救急法研修」
	11	19	家族懇談会

⑥非常災害に対する訓練の状況

月日		内容
11	9	火災想定、消防署への通報訓練
3	28	地震想定

3. 課題

- ・家族懇談会で出された要望(①どんな様子で仕事や活動がしているか見てみたい、②就Bの工賃アップを検討してほしい)に対して、改善策等を検討し、説明を行っていきたい。
- ・業務や支援内容、活動内容を定期的に振り返り、課題等を明確にし、改善を行っていきたい。
- ・事業所の建物の老朽化が進んでいる。今後の方向性、対応策等の検討が必要である。

≪Ⅳ-24 グループホーム支援センターなかやま≫

事業種別:共同生活援助、定員:14名、契約者数:14名

報告者:寺西 朋宏

1, 当初目標

①本人の望む暮らしの実現と保証 (自分のことは自分で決める)

- ②個性豊かな暮らしを支えるサービス提供
- ③リスクへの備えと地域との連携



- ④地域住民、地域の事業所として
- ⑤専門職としてともに学ぶ風土づくり
- ⑥明るい挨拶からみんなでつくる働きやすい職場づくり
- ⑦尊重と安心を基本とした支援とチーム

2, 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
本人の望む暮らしの実現と保	・個別支援計画の他に、新たな希望に対して「想いを形にす	
証(自分のことは自分で決め	るシート」を活用し、利用者の希望や願いの聞き取りを行っ	
る)	た。話し合いを行いながら、具体的な方法を考え、希望の実	
	現に向け支援することができたのではないかと思われる。	
	・向陽園から7月に1名、12月に1名ホームに移行した。向	
	陽園と連携し、見学、体験を経て本人の意向確認を行うなど、	Δ
	丁寧に意思決定支援を行い、地域移行を進めることができ	
	<i>t</i> =。	
	・12 月にGHサニーハウスでクリスマス会を行った(GH雨	
	宿舘はクラスターのため中止となる)。	
	・権利擁護について定期的な振り返りを実施することがで	
	きなかった。	
個性豊かな暮らしを支えるサ	・食事については向陽園の管理栄養士より指導を受け、健康	
ービス提供	面の支援に支援員・世話人が協力して取り組むことができ	
	た。糖尿病の利用者を含めて症状が改善し、服薬治療の必要	Δ
	がなくなった利用者が3名いた。	
	・ピアサポーターをつくることへの取り組みができなかっ	
	/t=。	
リスクへの備えと地域との連	・新型コロナウイルスへの対応については、利用者並びに職	
携	員の感染予防対策からワクチン接種、クラスター発生時の対	
	応まで多岐に及んだ。特に現場の職員はできる限りの対応に	
	尽力した。	0
	・BCPは定期的に見直しを図り、特に支援員、看護師、夜	
	勤職員との共有を図った。実際のゾーニングにおいて計画ど	
	おりに対応することができた。	
	・避難計画について地域の関係者や町福祉課等との共有が	
	不十分であった。	
地域住民、地域の事業所とし	中山町自立支援協議会、中山町障がい者計画策定委員会に	Δ

τ	参加し、事業所として提言を行った。	
専門職としてともに学ぶ風土	・研修や勉強会の企画に及ばず、学ぶ機会をつくることがで	
づくり	きなかった。外部研修への参加もあったが復命研修の実施が	×
	できなかった。	
	・新たに職員1名が社会福祉士を取得した。	
明るい挨拶からみんなでつく	支援の根底を支える部分でもあったが、新規ホームの立ち	
る働きやすい職場づくり	上げやコロナ対策等に追われてしまい、全体のコミュニケー	Δ
	ション不足に陥ってしまった。	
尊重と安心を基本とした支援	職員間のコミュニケーション不足や話し合いの機会不足	
とチーム	が課題となった。	×

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
GHサニーハウス立ち上げ	町内在宅の方3名、他ホームから3名、向陽園から2名	
	の方がGHサニーハウス立ち上げに伴い、GHなかやまに	0
	入居された。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	30	31	30	31	31	30
実利用者数	264	350	352	383	376	377
利用率(%)	62. 8	80. 6	83. 8	88. 2	86. 6	89. 7

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	30	31	31	31	28	31	365
実利用者数	391	392	412	404	376	418	4, 495
利用率(%)	93. 0	93. 3	98. 0	93. 0	95. 9	96. 3	88. 4

・GHサニーハウスの定員の充足が12月になってしまった。当初予定していた利用希望者の意向の変更があり、そこから調整に時間がかかってしまった。

4諸会議

会議名	開催頻度	年間開催数	内容
事業所会議	年4回	O 回	※感染予防のため未実施
ホーム会議	月1回	3 回	事業所運営や情報共有
支援会議	月1回	7 回	利用者支援について

⑤行事、研修等の実施状況

月日		内容
9	26	事業所研修「救急法研修」

⑥非常災害に対する訓練の状況

F.	日	内容
1	21	火災想定(G H雨宿舘)
1	22	火災想定(GHサニーハウス)
2	11	地震想定(G H雨宿舘)
2	12	地震想定(GHサニーハウス)

⑦事業所第三者評価委員会の開催状況

F	日	内容	委員からの指摘事項
2	9	事業所の概要説明、事故・苦情等の報告	事故報告に対して質問を受ける
3	23	家族アンケート、事業所自己評価の報告	・家族とのコミュニケーション
			と地域参加が課題。
			・アンケートに自由記載を設け
			てほしい。
			・家族に日常の様子を伝えてほ
			しい。アンケートの結果を家族
			に周知してほしい。

3, 課題

- ・望む暮らしについて毎月の振り返りができなかった。利用者がどんな暮らしを望んでいるかを明確にし、その実現に向けて具体的に支援していきたい。
- ・昨年度は勉強会や研修、行事等が計画的に実施できなかった。年間計画を立てて着実に実施したい。
- ・家族と地域とのコミュニケーションの課題を共通認識して事業所で取り組んでいきたい。

≪N-25 ショートステイサービスゆるっとなかやま≫

事業種別:短期入所、定員:1名、契約者数:9名

報告者:寺西 朋宏

1, 当初目標

- ①本人の望む暮らしの実現とその保証(自分のことは自分で決める)
- ②個性豊かな暮らしを支えるサービス提供
- ③リスクへの備えと地域との連携
- ④地域住民、地域の事業所として
- ⑤専門職として共に学ぶ職場風土づくり
- ⑥明るい挨拶からみんなでつくる働きやすい職場
- ⑦尊重と安心を基本とした支援とチーム

2. 実施状況及び評価

目標	取り組み	評価
本人の望む暮らしの実現とそ	利用者のアセスメントを共有して個別支援を行った。	0
の保証(自分のことは自分で決		
める)		
個性豊かな暮らしを支えるサ	利用時の様子や支援内容をお便りで家族にお知らせした。	0
ービス提供		
リスクへの備えと地域との連	避難訓練を実施した。	0
携		
地域住民、地域の事業所とし	家族とのコミュニケーションを図り、本人の情報共有だけ	Δ
て	でなく、家族ニーズを理解して利用いただいた。	
専門職として共に学ぶ職場風	・研修や勉強会の企画に及ばず、学ぶ機会をつくることがで	
土づくり	きなかった。外部研修への参加もあったが復命研修の実施が	×
	できなかった。	
	・新たに職員1名が社会福祉士を取得した。	
尊重と安心を基本とした支援	予定した研修を実施できなかった。	
とチーム		×

②事業所として計画し重点的に取り組んできたことと評価(評価 ◎できた ○だいたいできた △ー 部できていない × できていない)

計画内容	取り組み	評価
事業所の紹介	事業所のチラシを作成して相談事業所や虹の丘利用者の	0
	家庭に配布して周知を図った。	
新型コロナ感染予防対策	利用前にチェックシート記入に協力してもらい、健康状態	0
	等の確認を行い感染予防に取り組んだ。	

③利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開所日数	16	31	30	30	31	30
実利用者数	0	0	3	2	2	2
利用率(%)	0	0	13. 3	6. 5	6. 5	6. 5

	10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	合計
開所日数	31	30	31	31	28	31	350
実利用者数	4	11	14	13	12	17	75
利用率(%)	12. 9	35. 5	45. 2	64. 5	48. 3	64. 5	25. 2

- ・利用率が目標を大幅に下回り、新規利用につながるまで時間を要する結果となってしまった。
- ・町内からの利用が想定より少なく、虹の丘利用者の利用も少なく定期利用に結びつかなかった。

4諸会議

未実施

⑤行事、研修等の実施状況

未実施

⑥非常災害に対する訓練の状況

J	月日	内容
1	26	火災想定
2	14	地震想定

3, 課題

- ・より多くの方に利用していただくため、広報等のあり方を検討する。Wi-Fi 環境が整備されていること、専用の浴室があること、食事内容などを「紹介チラシ」に盛り込みながら、より多くの方に知っていただき安心して利用してもらえるよう取り組んでいきたい。
- ・利用後の家庭へのお便りは、文章のみではなく、食事内容の写真を取り入れるなど、ご家族が解り やすいものを作成し、より安心して利用してもらえるように改善していきたい。

V 参考資料

1, 日中事業所 利用実績

①利用状況

C 1 3/1	7/1/1/1/(/ 1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/1/													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
向陽園	実利用者数	800	804	793	782	788	761	797	734	830	784	682	837	9,392
	利用率	90.9%	87.4%	90.1%	85.0%	85.7%	86.5%	86.6%	83.4%	90.2%	85.2%	85.3%	91%	87.3%
	開所日数	20	20	22	21	9	21	21	21	11	20	20	23	229
さくら	実利用者数	457	465	536	479	140	432	479	472	239	424	442	485	5,050
	利用率	114%	116.3%	121.8%	114%	31.8%	102.9%	114.0%	112.4%	59.8%	106.0%	110.5%	105.4%	100.6%
たんぽぽ	開所日数	20	20	22	21	9	21	21	21	20	20	20	23	238
工房	実利用者数	450	449	512	468	183	471	472	468	375	434	462	526	5,270
	利用率	112.5%	112.3%	116.4%	111%	41.6%	112.1%	1124%	111.4%	93.8%	109%	115.5%	114.3%	110.7%
	開所日数	25	23	26	25	24	24	25	24	24	23	22	26	291
ちとせんぼ	実利用者数	445	382	453	449	382	405	441	239	300	381	372	432	4,681
	利用率	89%	83%	87.1%	89.8%	79.5%	84.3%	88.2%	49.7%	62.5%	82.8%	84.5%	83%	80.4%
	開所日数	21	21	22	21	22	22	20	15	18	20	20	23	245
にじいろ	実利用者数	414	400	438	411	398	436	383	256	348	372	403	470	4,729
	利用率	103.5%	90.9%	99.5%	97.8%	90.4%	99%	91.1%	58.1%	87%	93%	100.7%	102.1%	80%
	開所日数	21	20	22	17	20	20	20	20	20	20	19	22	240
天花	実利用者数	315	300	330	255	320	300	320	360	360	380	342	396	3,978
	利用率	72.1%	69.7%	73.4%	74.1%	72.2%	72.2%	74.7%	77.5%	83%	84.4%	85.2%	85.6%	77.2%
+/+//>+	開所日数	20	17	22	20	21	20	20	20	20	20	19	22	158日
なかやま生活介護	実利用者数	200	159	208	199	196	186	199	197	168	176	177	213	2,278
	利用率	100%	93.5%	94.5%	99.5%	93.5%	93%	99.5%	98.5%	84%	88%	93.1%	96.8%	94.5%
	開所日数	20	17	22	20	21	20	20	20	20	20	19	22	158
なかやま 就労B	実利用者数	147	120	170	160	167	186	166	154	151	141	152	181	1,874
	利用率	73.5%	70.6%	77.3%	80%	83.5%	82.5%	83%	77%	75.5%	70.5%	80%	82.3%	78.1%
IJ	開所日数	18	19	22	20	20	20	20	20	20	19	19	21	238
	実利用者数	92	92	105	98	54	97	98	97	97	86	74	86	1,076
	利用率	51.1%	48.4%	47.7%	49%	27%	48.5%	49%	48.5%	48.5%	45.3%	38.9%	41%	45.2%
	開所日数	21	18	22	20	20	20	21	20	20	19	18	22	241
地活天花	実利用者数	241	166	192	159	171	177	201	172	146	119	150	197	2,091
	利用率	114.8%	92.2%	87.3%	79.5%	85.5%	88.5%	95.7%	86%	73%	62.6%	83.3%	89.5%	86.8%

②利用者居住地 (現住所)

令和5年3月31日現在(単位:人)

	山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	その他	計
向陽園	59	3				2	64
さくら	17	2	2		1		23
たぽぽ工房	22	2	1				25
ちとせんぼ	32			3			35
にじいろ	24						24
天花	3		11		3	2	19
なかやま 生活介護	3			3	8		14
なかやま 就労B	1			2	10		13
エコファーム	4	1					5
計	165	8	14	8	22	4	222

② 年齢構成

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
向陽園		10	19	16	11	5	3		64
凹物图		10	19	10	11	5	3		(44.0歳)
さくら		2	9	8	2	1	1		23
C \ 7		۷		0	۷	'	'		(43.2歳)
たんぽぽ		10	3	5	3	4	1		25
72701818		10	3	3	3	7	'		(43.1歳)
ちとせんぼ	0	7	8	6	4	3	4	2	35
3007010	Ŭ	,		Ŭ	'	J	'		(44.10歳)
にじいろ	3	9	2	1	5	2	2	0	24
10001	J			'	<u> </u>	_		Ŭ	(39.11歳)
天花	1	6	8	3	1				19
7.16	'	J	0	3	'				(33.10歳)
なかやま		8	3	1	1	1			14
生活介護		O	3	'	'	'			(34.9歳)
なかやま		3	5		4	1			13
就労B		J	,		4	'			(40.8歳)
エコファー			1		3	1			5
<u>ل</u>			I		3	I			(52.8歳)
計	4	55	58	40	34	18	11	2	222

④障害支援区分

令和5年3月31日現在(単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
向陽園				1	11	18	34	64
さくら				1	3	11	8	23
たぽぽ工房				1	10	12	3	25
ちとせんぼ			1	2	10	7	15	35
にじいろ					6	9	9	24
天花					6	10	3	19
なかやま 生活介護	2	2	1	6	2			13
計	2	2	2	11	48	67	72	203

⑤手帳保持状況

	療育	手帳	身障	手帳	精神	手帳
	Α	В	1~2級	3~6級	1級	2~3級
向陽園	53	10	8	4	1	
さくら	18	5		1		
たんぽぽ	21	4	2	1		
ちとせん ぼ	25	10	5	2		
にじいろ	24		1	1		
天花	18	1				
なかやま 生活介護	10	1		1		
なかやま 就労B	6	2				1
エコファー ム		5				
計	175	38	16	10	1	1

2,居住事業所 利用実績

①利用状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
向陽園	実利用 者数	1,106	1,126	1,101	1,099	1,090	1,074	1,110	1,085	1,095	1,058	963	1,105	13,012
	利用率	92.2%	90.8%	91.8%	88.6%	87.9%	89.5%	89.5%	90.4%	88.3%	85.3%	86%	89.1%	89.1%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
GH 向陽園	実利用 者数	500	511	501	515	503	488	516	498	486	497	468	520	6,003
	利用率	98%	96.9%	98.2%	97.7%	95.4%	95.6%	97.9%	97.6%	92.2%	94.3%	98.3%	98.6%	96.7%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
GH 心音	実利用 者数	1,005	1,026	1,055	1,053	1,023	1,038	1,074	1,042	1,069	1,040	974	1,064	12,463
	利用率	95.7%	91.9%	97.7%	94.4%	91.7%	96.1%	96.2%	96.5%	95.8%	93.2%	96.6%	95.3%	94.8%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
GH みらい	実利用 者数	925	911	882	918	938	951	980	905	902	946	887	984	11,129
	利用率	93.4%	89%	89%	89.7%	91.6%	96.0%	95.7%	91.4%	88.1%	92.4%	95.9%	96.1%	92.4%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
GH 天花	実利用 者数	271	259	261	262	260	254	267	288	289	284	267	299	3,261
	利用率	90.3%	83.5%	87%	84.5%	83.8%	84.6%	86.1%	96%	93.2%	91.6%	95.3%	96.4%	89.3%
	開所日数	30日	31日	30日	31日	31日	30日	30日	31日	31日	31日	28日	31日	365日
GH なかやま	実利用 者数	264	350	352	383	376	377	391	392	412	404	376	418	4,495
	利用率	62.8%	80.6%	83.8%	88.2%	86.6%	89.7%	93%	93.3%	98%	93%	95.9%	96.3%	88.4%

②利用者出身市町村

	山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	その他	計
向陽園	26	2	3	1	1	3	36
GH向陽園	11	4		1		1	17
GH心音	28	2	4			1	35
GHみらい	22		1	4	3	2	32
GH天花	2		7	1			10
GHなかやま					14	_	14
計	89	9	16	7	5	14	140

③年齢構成

令和5年3月31日現在(単位:人)

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計
向陽園		6	12	10	6	1	1		36
GH向陽園			1	11	2	2	1		17
GH心音		3	3	5	10	9	5	1	36
GHみらい		3	1	4	9	4	8	3	32
GH天花		1	7	2					10
GHなかやま		3	5	3	1	2			14
計		16	27	33	26	19	15	4	140

※グループホーム別平均年齢

- ・グループホーム支援センター向陽園 みるく…47.7歳 くれよん…54.9歳 西の家…46.11歳
- ・グループホーム支援センター心音 れもんはうす…42.7歳 さくらんぼはうす…55.10歳 いちごはうす…60.5歳 来未…58.3歳
- ・グループホーム支援センターみらい よつば…58.5歳 つばさ…55.2歳 あすなろ…51.2歳 ひのき…51.0歳 はなだてすまいる…70.1歳
- ・グループホーム支援センターなかやま 雨宿舘…40.4歳 サニーハウス…41.9歳
- ・グループホーム支援センター天花 ぶどうの木…36.2歳

④障害支援区分

令和5年3月31日現在(単位:人)

⑤1 十百八次巨												
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計				
向陽園					2	14	20	36				
GH向陽園				1	4	4	8	17				
GH心音		1	5	7	13	7	3	36				
GHみらい			2	4	5	9	12	32				
GH天花					2	7	1	10				
GHなかやま	-	-	1	2	7	3	1	14				
計		1	8	14	33	44	45	145				

(平均障害支援区分

障害者支援施設 5.4

グループホーム 4.4)

⑤手帳保持状況

	療育	手帳	身障	手帳	精神	手帳
	Α	В	1~2級	3~6級	1級	2~3級
向陽園	33	3	3	1		
GH向陽園	14	3	2	1		
GH心音	15	18	3	4	1	1
GHみらい	18	14				
GH天花	9	1				
GHなかやま	9	4	1			
計	98	43	9	6	1	1

3, 短期入所事業所 利用実績

①利用状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
SS 向陽園	実利用者数	58	19	0	0	0	0	0	0	0	15	29	30	151
1 3120	利用率	46.8%	15.3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	12.1%	25.9%	24.2%	10.3%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
SS 心音	実利用者数	45	39	44	34	12	45	42	43	35	36	39	42	453
	利用率	150%	125.8%	146.7%	109.7%	38.7%	150%	135.5%	143.3%	112.9%	116.1%	139.3%	135.5%	124.1%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	28	31	365
SS あすなろ	実利用者数	30	23	26	28	15	29	24	14	28	26	28	31	302
.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	利用率	100.0%	74.2%	86.7%	90.3%	48.4%	96.7%	77.4%	46.7%	90.3%	83.9%	100.0%	100.0%	82.7%
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
SS ぶどうの木	実利用者数	39	38	40	33	35	37	39	38	39	40	44	37	459
	利用率	81.7%	75.8%	85%	73.3%	69.4%	78.3%	77.4%	75%	83.9%	83.9%	91.1%	75.8%	78.7%
SS	開所日数	16	31	30	30	31	30	31	30	31	31	28	31	350
ゆるっと	実利用者数	0	0	3	2	2	2	4	11	14	13	12	17	75
なかやま	利用率	0.0%	0.0%	13%	6.5%	6.5%	6.5%	12.9%	36%	45.2%	64.5%	48.3%	64.5%	25.2%
	開所日数	27	30	30	27	24	28	26	26	29	29	28	30	333
SS 月のひかり	実利用者数	95	108	114	88	77	112	110	121	103	117	125	143	1,313
	利用率	52.7%	58.1%	63.3%	47.3%	41.4%	62.2%	59.1%	67.2%	55.3%	63%	74.4%	76.9%	60%

②利用者居住市町村

	山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	その他	計
SS向陽園	3	1					4
SS心音	12	4	1	1			18
SSあすなろ	1				1		2
SSぶどうの木			10		1		11
SSゆるっとなかやま	2		1		3	3	9
SS月のひかり	34	4	1	2		3	44
計	89	9	16	7	5	14	140

4, 放課後等デイサービス事業所 利用実績

児童デイサービス月のひかり

①利用状況

令和5年3月31日現在(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開所日数	25	23	26	26	22	24	25	23	24	23	22	26	289
月のひかり	実利用者数	453	409	465	407	307	439	383	425	403	420	410	469	4,990
73070 13 77/1	利用率	90.6%	88.9%	89.4%	78.3%	69.8%	91.5%	76.6%	92.4%	84.0%	91.3%	93.2%	90.2%	86.3%

②児童居住地 (現住所)

	山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	その他	計
月のひかり	51	3	1	3	0	2	60

5,相談支援事業所

≪向陽園地域生活支援センター心音≫

①対象

対象	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	高次脳
						機能障害
障害者	304	254	32	32	92	6
障害児	58	42	7		35	
計	362	296	39	32	127	6

対象	難病	その他	計
障害者	5	11	432
障害児		4	88
計	5	15	520

②支援方法

方法分類	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メー	個別支援会	その他
					ル	議	
のべ件数	918	295	52	1517	19	57	4

③支援内容

内容分類	福祉サービ	障害や症	健康·医療	不安の解	保育·教育	家族関係・	家計·経済
	スの利用	状の理解		消·情緒安		人間関係	
				定			
のべ件数	1780	90	180	58	54	40	37

内容分類	生活技術	就労	社会参加・	権利擁護	その他	計
			余暇活動			
のべ件数	39	57	48	21	111	2515

④サービス等利用計画の作成及びモニタリング実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
計画	37	25	27	42	15	27
モニタリング	31	34	35	32	30	46
計	68	59	62	74	45	73

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
計画	53	23	23	32	30	29	363	30.25
モニタリング	30	34	44	20	27	71	434	36.17
計	83	57	67	52	57	100	797	56.42

⑤集中支援加算の取得状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障害者	3	1	1	5	4	0	2	3	1	1	2	2	25
障害児	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3

- ※1 利用者の求めに応じ、利用者の居宅等(障害児の場合は居宅に限る。)を訪問し、利用者及び家族 との面接を月2回以上実施した場合
- ※2 利用者本人及び障害福祉サービス事業者等が参加するサービス担当者会議を開催した場合
- ※3 当該機関の主催する会議へ参加した場合

⑤利用者居住地

(令和5年3月31日現在)

山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	東根市
297	19	5	19	13	0

寒河江市	河北町	西川町	朝日町	その他	合計
2	0	1	0	6	362

≪地域生活支援センター天花≫

①対象

対象	実人員	知的障害	身体障害	精神障害	発達障害	高次脳
						機能障害
障害者	158	69	29	58	22	1
障害児	153	55	9	5	135	0
計	311	124	38	63	157	1

対象	難病	その他	計
障害者	3	0	182
障害児	4	1	209

計	7	1	391

※障害が重複している方もいるため、実人員と合計の相違がある。

②支援方法

方法分類	訪問	来所相	同行	電話相	メール	支援会	その他	計
		談		談		議		
者	355	184	46	2639	219	61	359	3863
児	337	157	43	1375	338	38	349	2637
計	692	341	89	4014	557	99	708	6500

③支援内容

内容分類	福祉サービ	障害や症	健康・医	不安の解	保育・教	家族関係・	家計·経済
	スの利用	状の理解	療	消・情緒	育	人間関係	
				安定			
者	2255	259	135	522	0	241	30
児	2131	26	49	47	74	188	42
計	4386	285	184	569	74	429	72

内容分類	生活技術	就労	社 会 参	権利擁護	ケア会議	申請関係	虐待
			加・余暇				
			活動				
者	55	50	9	4	61	44	36
児	0	0	18	3	38	5	4
計	55	50	27	7	99	49	40

内容分類	その他	計
者	162	3863
児	12	2637
計	174	6500

④サービス等利用計画の作成及びモニタリング実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
計画者	14	3	1	17	8	5
計画児	56	7	6	28	11	9

モニタ者	9	23	53	12	15	50
モニタ児	12	19	24	17	15	56
計	91	52	84	74	49	120

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
計画者	16	5	14	14	3	3	103	8.5
計画児	15	7	7	12	3	4	165	13.7
モニタ者	9	24	46	12	15	52	320	26.6
モニタ児	13	10	18	9	10	14	217	18.0
計	53	46	85	47	31	73	805	67.0

⑤集中支援加算の取得状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障 害 者	7	6	2	4	3	1	3	2	0	4	5	2	39
障害児	0	1	2	1	0	0	3	4	1	1	0	0	13

- ※1 利用者の求めに応じ、利用者の居宅等(障害児の場合は居宅に限る。)を訪問し、利用者及び家族 との面接を月2回以上実施した場合
- ※2 利用者本人及び障害福祉サービス事業者等が参加するサービス担当者会議を開催した場合
- ※3 当該機関の主催する会議へ参加した場合

⑥利用者居住地

(令和5年3月31日現在)

山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	東根市
26	0	268	2	6	3

寒河江市	河北町	西川町	朝日町	その他	合計
1	0	0	0	5	311

6, 向陽園ホームヘルプステーション心音利用実績

①利用状況(のべ人数)

(単位:人)

	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	移動支援
4月	72		44	48	121
5月	68		54	46	109
6月	77		48	55	126
7月	65		57	48	117
8月	83		44	32	87
9月	72		40	45	100
10月	65		44	52	111
11月	60		40	51	114
12月	66		40	49	105
1月	55		41	54	100
2月	49		33	46	80
3月	66		39	44	105
計	798		524	570	1275

②年齢構成

(全体) (単位:人)

		1							
	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
男性	13	26	18	15	19	14	10	5	120
女性	5	13	13	9	10	18	5	4	77
合計	18	39	31	24	29	32	15	9	197

(サービス別) (単位:人)

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	合計
居宅介護	2	5	4	7	12	9	2		41
同行援護			3	1	4	6	5	8	27
行動援護	11	12	12	2	3	1	1		42
移動支援	5	22	12	14	10	16	7	1	87

③障害支援区分

(全体)

	不明	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
	なし							
男性	18	2	17	30	21	18	14	120
女性	4	3	13	19	10	15	13	77
合計	22	5	30	49	31	33	27	197

(サービス別) (単位:人)

	不明	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
	なし							
居宅介護	5	2	10	11	4	5	5	42
同行援護	5	0	2	10	2	1	1	21
行動援護	12	0	0	1	5	17	14	49
移動支援	0	3	18	27	20	10	7	85

④利用者居住市町村

(全体) (単位:人)

山形市	上山市	天童市	山辺町	中山町	寒河江市	その他
152	7	11	8	9	5	5

⑤令和4年度「障害者等移動支援事業委託契約書」契約締結市町村

- ・山形市 ・天童市 ・上山市 ・山辺町 ・中山町
- ·寒河江市 ·西川町

⑥愛泉会ホーム利用者と在宅者等の利用割合

令和4年度ホームヘルプを利用した利用者 197 人

内愛泉会グループホーム利用者 40 人(約20%)

在宅生活者、他法人ホーム利用者 157 人(約80%)

7, やまがたアートサポートセンターららら

計画内容

(1)相談支援…障がいのある方の芸術文化活動に関する相談への支援

具体的な取り組み

- 芸術文化活動に取り組む障がいのある人やその家族、福祉事業所、学校、芸術関係者等からの電話、メール、ギャラリーや展示会場で対面での相談を受け付け、専門家と連携し、関係機関の紹介やアドバイス、情報提供等を行った。
- ・相談件数約 166 件(作家、家族、福祉事業所、アーテイスト、行政、企業など)
- ・11 月 5、6、10、12、15 日/おめでとう & 相談 day/参加者:14 人/公募展審査員の個別表彰と相談会

計画内容

(2)人材育成…実践のなかで学ぶ人材育成プログラム

主催 9 回、共催・協力 12 回

※芸術文化分野と福祉分野を繋ぎ、実践を交えながらクリエイションを行い、その過程を人材育成とする機会を作ることを目指した。身体表現事業は山形ビエンナーレ 2022(東北芸術工科大学主催)との共同企画として展開。視覚障害者とつくる美術鑑賞や市民の対話の機会も作った。新規事業として、表現活動に寄り添う人材を育てるファシリテータ養成を目的とした実践研修「まなび舎ら・ら・ら」を3回実施。また、東北芸術工科大学と連携し学生が福祉の現場実習を通して展示やワークショップ企画を行う実践の場を作った。

具体的な取り組み

- ・共催 6月17日、8月26日 酒田市アート展のための作品相談会/参加者20名
- ・共催 6月23日 鶴岡市アート展のための研修会&作品相談会/講師:平井鉄寛氏(鶴岡アートフォーラム館長)、武田和恵(ら・ら・ら) /参加者15名
- ・主催 7月1日 研修会「アートが福祉を参照するために」講師:アイハラケンジ氏(アートディレクター)、 ゲスト:岡部信幸さん(山形美術館副館長)、瀬尾夏美さん(アーティスト)/参加者 20 名/zoom 開催
- ・共催 9月14日 鶴岡市展覧会研修「展示してみよう@鶴岡」/講師:平井鉄寛氏(鶴岡アートフォーラム館長)/参加者17名
- ・共催 9月20日~「オンライン展覧会」/ゲスト:平井鉄寛さん(鶴岡アートフォーラム館長)、武田和恵 (ら・ら・ら)/作品画像と作品紹介を YouTube で配信/視聴回数:199回
- ・共催 10 月 24 日 米沢市「わたしとあなたの表現に向けた研修会」講師:武田和恵(ら・ら・ら)/参加者 8 名
- ・共催 11 月 20 日 米沢市研修「わたしとあなたの表現に向けた作品相談会」/参加者 8 名
- ・共催1月6日 米沢市研修「展示してみよう@米沢」/講師:菊地純氏(デザイナー)/参加者8名
- ・<u>共催1月8日</u> 米沢市「ギャラリートーク」/ゲスト:菊地純氏(デザイナー)、武田和恵(ら・ら・ら) /参加者 10名
- ・主催2月25日 寒河江市「見える人・見えない人でつくる対話型鑑賞ワークショップ」/参加者:13名
- ・主催3月25日 文化の回廊「見える人・見えない人でつくる対話型鑑賞ラボ」/参加者:10名

- ●山形ビエンナーレ 2022 まちのおくゆきプロジェクト(東北芸術工科大学と共同企画)
- ·主催 6 月 1 日、7 月 8 日、8 月 18 日、19 日

山形ビエンナーレ 2022 共同企画ダンスワークショップアウトリーチ事業 (鶴岡・山形・米沢)/ファシリテータ:砂連尾理氏(ダンサー振付家)、鶴 岡、山形はオンライン開催し県内のダンス関係者が福祉事業所に訪問。 米沢は対面開催。たんぽぽ工房(山形市)2回、もみじが丘(鶴岡市温海 町)3回、から・ころセンター3回(米沢市)実施。/参加者合計100名 程度



・共催9月4日 視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ/

撮影:三浦晴子

参加者 17名

- ・共催 9 月 17 日 視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ報告会/YouTube146 回視聴
- ・共催 9 月 18 日 ダンスパフォーマンス参加者が語る「てつがくカフェ」報告会/参加者 40 名
- ・共催9月24日 映画「へんしん!」をみて語り合う「てつがくカフェ」/参加者20名
- ●実践研修「まなび舎ら・ら・ら」
- ・主催 11 月 9 日 第一回「表現を伝えるために大切にすること」/会場:ら・ら・ら/ファシリテータ:瀬尾夏 美氏(アーティスト)/参加者 17 名(福祉事業所、支援学校、アーティスト)
- ・主催 11 月 22 日 第二回「障がいのあるアーティストの魅力を伸ばす環境づくり/社会と福祉をつなぐ」 /会場:ら・ら・ら 4 名、zoom16 名(福祉事業所、支援学校、デザイナー)/講師:のぞみ福祉作業所支 援員田中青志氏、HUMORABO(ユーモラボ)前川雄一氏、前川亜希子氏(デザインユニット)
- ・主催 12 月 3 日 第三回「コミュニティーとアート」/会場:文翔館議場ホール/参加者 45 名(福祉事業 所、デザイナー、NPO、教員、学生)/講師:播磨靖夫氏(社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽの家理 事長)、柴崎由美子氏(特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン代表理事)
- ・主催 3 月 2 日 アウトリーチ事業「地域にでかけ一緒にやってみる」/会場:山形県立山形盲学校/ファ シリテータ:石沢恵理氏(芸工大講師)/受入パートナー:山形県立山形盲学校(以下:盲学校)/参加者: 盲学校生 4 名、芸工大生 6 名
- ●主催東北芸術工科大学総合美術コース学生の実践実習(実習先:児童デイサービス、生活介護事業所)



- ・8 月 4 日~11 日①「じっくりまなざし、障がいのある方の表現 の魅力を伝える」作品制作コース/5名
- ・9 月 17 日、22 日、23 日②「表現するきざしをみつける場づく り」ワークショップ企画コース/3名

監修:石沢惠理氏(東北芸術工科大学講師)

/11 月 3 日~16 日②公募展受付接客、ワークショップ運営

計画内容

(3)関係者のネットワークづくり…分野を超えた多様なつながりのネットワークづくり

主催3回、協力2回

※継続して県内 4 地域の展覧会支援事業の実践を通して、障がいのある方やその家族、福祉や芸術等の専門家、行政職員等のネットワークを築いた。2 年目となる工業、福祉、デザイン連携事業協力は、分野を超えた情報交換やネットワークづくりに繋げた。特に令和 5 年度は、山形ビエンナーレ 2022 との連携により、新しい繋がりが生まれた。

具体的な取り組み

・協力 7月19日 工業・福祉・デザイン連携プロジェクト「こうふくでミーティング vol.3」

(主催:山形県産業労働部産業技術イノベーション課/コーディネータとして参加)/参加者 25 名(デザイナー、ものづくり企業、福祉事業所)/会場:工業技術センター/先進事例講演と異分野交流ワークショップを実施。

- ・主催 7月21日 第一回アドバイザー会議 zoom 開催/参加者5名
- ・<u>協力 3月9日</u>「こうふくでミーティング vol.4」/参加者 14名(デザイナー、ものづくり企業、福祉事業所)/令和4年度の補助事業3組の実践報告と、視点を変える異分野交流ワークショップを実施。
- ・主催 3 月 17 日 やまがたアートサポートネットワーク会議 zoom 開催/参加者 18 名(福祉事業所、相談支援センター、学芸員、NPO、作業療法士、身体表現団体)/ら・ら・らの活動報告と合わせて県内の実践を報告。
- ・主催3月27日 第二回アドバイザー会議 zoom 開催/参加者8名予定

計画内容

(4)発表会等の機会創出…表現への理解を深め、価値を高める展覧会

主催 6 回、共催・協力 9 回

※支援センター併設のギャラリーでの企画展(5 回)、県内の作品公募展、県内 4 地域(酒田市、鶴岡市、新庄市、米沢市)での展覧会支援事業と巡回展を実施し、各地域専門家と連携しながら、作品発表の機会や障害のある人の活躍の場を作った。新規事業として、山形ビエンナーレ 2022 との共同企画で、身体表現の発表の機会を創出し、芸術文化分野に発信した。また、山形市との連携事業として山形市内のまちあるきアート展に協力した。

具体的な取り組み

- ●ぎゃらりーら・ら・ら展覧会 1,099 名(3 月 31 日現在、会場貸出 2 回含む)
- ·主催 3 月 22 日~4 月 28 日

「宮城山形交流事業みやぎ・やまがたニューカマー」/出展者7名/来場者 140 名

・<u>主催 5 月 16 日~6 月 12 日</u>「わくわくひょうげんの泉 オープニング企画たのしいたんぽぽおしごと」展

/出展者 25 名/来場者 164 名

·6月20日~7月24日「愛泉会作品展

わくわくひょうげんの泉」展/

出展者 57 名/来場者 144 名

·主催9月3日~11月16日

「きざしとまなざし 2022 企画展さわる/

ふれる ~共振するからだ~1/

来場者 176 名/山形ビエンナーレ 2022

「まちのおくゆき」からドキュメントを言葉と写真で紹介。

·協力 12 月 26 日~2 月 12 日

「第6回やまがた障がい児者アート公募展 ART DIG る~べ」

/サポート協会主催の公募展/来場者 145 名

・主催3月1日~4月30日「宮城山形交流事業アートと

仕事つながる・ひろがる世界」展/来場者89名



- ·公募期間:6月6日~8月8日 審查会:8月23日/応募作品178点/入賞·入選作品30点
- ・主催 11 月 3 日~16 日 公募展(一部山形・福島・新潟交流事業)/会場:悠創館/来場者 683 人/東北芸術工科大学総合美術コースによるワークショップを同時開催。
- ・共催10月15日~30日/やまがた秋の芸術祭「まちなか×アート」/主催:山形市
- ・<u>協力11月28日~12月1日</u>/ピース芸術展の展示支援/主催:ユニオンソーシャルシステム株 式会社
- ・共催 9 月 16 日~25 日「つるおかひょうげんの花」(県公募展入賞作品巡回展)/会場:鶴岡アートフォーラム/来場者 941 名/主催:鶴岡市
- ・共催 9 月 22 日~29 日「いいいろいろいろ展」/会場:出羽遊心館/来場者 716 名/主催:酒田市
- ・共催 9月10日、11日「さわる/ふれる ~ここにいない人と踊るためのエチュード~」/市民募集によるダンスパフォーマンス出演者:21名(うち障がいのある方7名)/観覧者120名
- ・主催 12月28日~1月29日「きざしとまなざし入賞作品巡回展」遊学館情報発信コーナーでの展示
- ・共催 1月8日~15日/「わたしとあなたの表現展」(県公募展入賞作品巡回展、「さわる/ふれる ~共振するからだ~」巡回)/会場:米沢市民ギャラリーナセBA/来場者661名/主催:米沢市
- ・<u>協力 2月11日12日14日</u>「さわる/ふれる ~共振するからだ~」巡回/鶴岡アートフォーラム/来 場者:184名/主催:明日のたね
- ・<u>協力 3月18日~26日</u>「さわる/ふれる ~共振するからだ~」巡回展(やまがた文化の回廊フェスティバル2023関連企画)/会場:やまぎん県民ホール/来場者数25,099人(文化の回廊フェスティバル全体)





計画内容

- (5)情報収集・発信…芸術文化活動のいまを記録し発信する
- ※事業をとおして山形県内の各地域の行政機関や県内外で活動する専門家、支援センター等と連携し情報を収集した。

具体的な取り組み

- ・報道掲載:新聞掲載8回、ラジオ1回、テレビ放送8回、市報2回
- ・ウェブサイト、フェイスブック、YouTube で展覧会告知、 報告を発信/年間閲覧数(3月21日現在):ウェブサイト2,992回、

フェイスブック 1,352 回、YouTube:鶴岡展示関連 199 回

愛泉会ぎゃらりーら・ら・ら

- ・愛泉会表現活動支援、商品開発支援(たんぽぽ工房)
 - 4月天花・ちとせんぼ、5月ちとせんぼ・さくら、6月天花・さくら・ちとせんぼ・たんぽぽ工房、7月天花・さくら、8月月のひかり、9月ちとせんぼ、10月たんぽぽ工房、12月天花、1月天花・ちとせんぼ、2月さくら・月のひかり、3月さくら・向陽園・月のひかり
- ·愛泉会障害者芸術推進委員会 6月24日/参加者6名、2月15日/参加者9名
- ·愛泉会表現活動担当者会議 2月17日/参加者8名
- ・アトリエら・ら・ら 年間 7 回:6 月、7 月(zoom)、10 月、12 月、1 月(対面 zoom)、2 月(対面 zoom)、 3 月

8, 実践研究発表会事業所 テーマー覧

	テーマ	事業所名
1	『地域移行への取り組み ~グループホーム体験も見据え、 入所施設が準備してきたこと~』	障害者支援施設向陽園(入所)
2	『発達障がいの方への支援 ~特性に合わせ、入所施設ならではの環境スペースとマンパワーを活かした支援実践~』	障害者障害者支援施設向陽園(生活介護)
3	『意思決定支援 〜タブレットを使った取り組みについて〜	グループホーム支援センター向陽園
4	『作業技術向上に向けた取り組みと山形市社会福祉協議会 福祉まるごと相談との協働について』	エコファームもとさわ
5	『 デイサポートさくらにおける表現活動の取り組みについて』	デイサポートさくら
6	『たんぽぽ工房の魅力を地域へ 〜人と触れ合う楽しさと喜び・温もりを感じて〜』	デイサポートたんぽぽ工房
7	『サテライト型住居の支援 ~一人暮らしに向けて~』	グループホーム支援センター心音
8	『地域支援の実践報告 ~利用者との関わりから学んだこと ~ 』	向陽園ホームヘルプステーション心音
9	『 児童ショートステイが目指す支援の可能性』	児童デイサービス月のひかり
10	『 グループホームならではの生活の自由度について』	グループホーム支援センターみらい
11	『利用者による事業所満足度調査について』	デイサポートちとせんぼ
12	『コロナ禍でもできる本物の体験を 〜体験を通して、意思 決定支援に繋げていく〜』	デイサポートにじいろ
13	『チームケアの実践により利用者の"なりたい"を叶える 〜 職種・サービス・制度をつなぐ連携の大切さ〜 』	向陽園地域生活支援センター心音 居宅介護支援事業所心音
14	『就労を目指して』	グループホーム支援センター天花
15	『「つながることからの心の変化」天花ママだけ会を実施して見えてきたものピアサポート・セルフヘルプグループへの取り組み』	地域生活支援センター天花
16	『 意思決定支援 ~一歩踏み出そう~』	デイサポート天花
17	『ストレングスを活かした個性的な活動からの仲間作り』	地域活動支援センター天花
18	『 利用者さんと地域がつながる事業所づくり』	多機能型事業所なかやま虹の丘
19	『望む暮らしの実現のために ~在宅からホームへと暮らしの場が変わったことによる生活変化の調査~』	グループホーム支援センターなかやま
20	『アートと福祉をつなぐ実践』	ぎゃらりーら・ら・ら